

平成30年度

昼間・土曜スクーリング(後期)の手引

スクーリング受講手続日程

①	受講手続説明会	9／20(木)
②	受講申込開始日 (ポータルサイト)	9／20(木)
③	履修登録締切日 受講申込締切日	10／5(金) ポータルサイト【24:00まで】 窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 郵送の場合【必着】
④	受講資格審査 通知予定期	10／19(金) ※ポータルサイトに掲載します。
⑤	振込用紙発送予定期	10／19(金) 発送予定期から5日経過しても通知が届かない場合は会計課に連絡してください。
⑥	受講辞退手続締切日	10／26(金) 窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 郵送の場合【必着】
⑦	受講料納入期限	11／2(金) 銀行窓口にて【厳守】
⑧	結果通知予定期	2月中旬 ポータルサイトに掲載します。

開講日程

昼間開講日程	9／25(火)～1／22(火)
土曜開講日程	【9月】29 【10月】13・27 【11月】10・17・24 【12月】8 【1月】12
補講予定期	12／17(月)・22(土)

開講日程

開講日程

年	月	日	月	火	水	木	金	土
平成30年	9月							1
		2	3	4	5	6	7	8
		9	10	11	12	13	14	15
		16	17	18 敬老の日	19	20	21 受講手続説明会	22
		23 秋分の日	24	25 後期 曜1	26 後期 曜1	27 後期 曜1	28 後期 曜1	29 後期 土曜 曜1・2
		30	1	2 後期 曜2	3 後期 曜2	4 後期 曜2	5 後期 曜2	6
	10月	7	8 体育の日	9 後期 曜3	10 後期 曜3	11 後期 曜3	12 後期 曜3	13 後期 土曜 曜3・4
		14	15	16 後期 曜4	17 後期 曜4	18 後期 曜4	19 後期 曜4	20
		21	22	23 後期 曜5	24 後期 曜5	25 後期 曜5	26 後期 曜5	27 後期 土曜 曜5・6
		28	29	30 後期 曜6	31 後期 曜6	1 後期 曜6	2 後期 曜6	3
	11月	4	5	6 後期 曜7	7 後期 曜7	8 後期 曜7	9 後期 曜7	10 後期 土曜 曜7・8
		11	12	13 後期 曜8	14 後期 曜8	15 後期 曜8	16 後期 曜8	17 後期 土曜 曜9・10
		18	19	20 後期 曜9	21 後期 曜9	22 後期 曜9	23 後期 曜9	24 後期 土曜 曜11・12
		25	26	27 後期 曜10	28 後期 曜10	29 後期 曜10	30 後期 曜10	1
	12月	2	3	4 後期 曜11	5 後期 曜11	6 後期 曜11	7 後期 曜11	8 後期 土曜 曜13・14
		9	10	11 後期 曜12	12 後期 曜12	13 後期 曜12	14 後期 曜12	15
		16	17 後期 補講日	18 後期 曜13	19 後期 曜13	20 後期 曜13	21 後期 曜13	22 後期 補講日
		23 天皇誕生日	24	25	26	27	28	29
		30	31	1 元日	2	3	4	5
平成31年	1月	6	7 成人の日	8	9 後期 曜14	10 後期 曜14	11 後期 曜14	12 後期 土曜 曜15・試験
		13	14	15 後期 曜14	16 後期 曜15	17 後期 曜15	18 後期 曜15	19
		20	21	22 後期 曜15	23	24	25	26
		27	28	29	30	31		

…授業日及び補講日

補講は12月17日(月)、12月22日(土)の2日間だけでなく、その他の曜日にも実施することがあります。補講が行われる場合、指定された補講日に出席する必要があります。

また、補講を行う时限は他講座の補講日程の関係上、必ずしも通常と同じ时限で開講されるものとは限りません。以上のこととを承知した上で申込みをしてください。

はじめに

面接授業（スクーリング）とは、教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は、教材による在宅学修では十分に学修効果を上げることが困難な科目の一面を補い、教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から、スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では、学生に多くの受講機会が得られるよう、多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は、その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングを受講希望する場合には、手続きの前にこの『手引』をよく読み、その指示に従って受講してください。

昼間・土曜スクーリングの特色

昼間・土曜スクーリングが他のスクーリングと異なる点は、通学課程と同形態の授業を行うことにあります。また、前期・後期と連続して受講することで、より学修効果が高まります。

なお、大学では適正規模の授業を実施し、かつ多くの学生が等しく受講機会を得られるように一人（受講者）当たりの受講制限を設けていますが、このスクーリングもその例外ではありません。

特に、昼間・土曜スクーリングは受講制限を設けることが多いため、受講希望する授業は、必ず「第1週」から出席するようにしてください。

さらにこのスクーリングでは、2年生以上の学生を対象に卒業論文指導講座を設け、その指導の強化充実を図り、より優れた卒業論文を期待しています。

【受講の調整について】

スクーリングには、十分な教育効果を得るための適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が、適正受講者数でない場合、大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては、「受講機会の均等」の観点から、各申込者の受講調整履歴、スクーリング受講状況、単位修得状況、在学年数等を総合的に判断し、対象者を確定しますので、あらかじめご了承ください。

なお、講座の適正人数は、およそ下表の人数を目安としますが、講座の特性、スクーリングの形態、スクーリング会場の試験時定員数、パソコン台数及び受講学生の履修要件等により、下表によらない場合もあります。

講 座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65名	5名
演習講座	30名	5名
上記以外の講座	100名	10名

〔調整方法等〕

- 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合、同じ曜日に開講されている同じ科目の講座に振り分けることがあります。
- 超過人数の状況により新たに講座を増設（分割）して開講する場合があります。
- 超過人数の状況により複数の講堂に「サテライト配信」を利用して授業を行う場合があります。（メインとなる授業講堂以外は、映像による配信となります。）
- 上記①・②・③の方法で対応できない場合、調整対象者は当該講座の受講ができません。
- 受講申込者数が下限に満たない場合、開講を取りやめることができます。
- 受講許可講座以外の講座の受講は、認められません。また、一度決定した受講許可講座の追加・変更はできません。

目 次

I	受講申込から受講料納入までの流れ	131
	2
II	講座の選定	
1	受講講座の選定.....	4
2	「教職に関する科目」における新・旧科目について.....	6
3	「英語」科目のレベル標記について.....	6
III	時間割	
1	時間割.....	8
2	卒業論文指導時間割.....	10
IV	開講講座表及び講座内容（シラバス）	
1	「開講講座表」の見方.....	12
2	開講講座表・シラバスと使用教材 【曜日・時限順】.....	13
V	受講及び試験	
1	講座受講時の注意点.....	118
2	スクーリング結果の確認.....	119
VI	受講手続	
1	履修登録をする.....	120
2	講座を申し込む.....	123
3	受講講座の変更・追加.....	127
VII	申込講座の許可と不許可	
1	受講許可を確認する.....	128
2	講座振り分け及び受講不許可について.....	129
3	許可講座を辞退する.....	130
VIII	受講料等の納入	
IX	受講準備	
1	使用教材の入手.....	134
2	通学定期券の購入手続.....	136
X	オープン受講	
XI	各種用紙	
	履修届.....	141
	昼間・土曜スクーリング（後期）受講届.....	143
	オープン受講届（在学生用）.....	145
	オープン受講届（社会人等（卒業生用））.....	147
	スクーリング受講講座変更届.....	149
	受講申込辞退願.....	151
	教材配本申請書.....	153
	教材購入用紙（丸沼書店用）.....	155
	教材購入願（通信教育教材用）.....	157
	通学定期乗車券発行控.....	159
XII	付録	
	161	

I 受講申込から受講料納入までの流れ

①受講手続説明会

9月20日（木）

『昼間・土曜スクーリング（後期）の手引』を読み、受講手続方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し、受講講座を選択する。



②授業開始までの準備

授業期間は15週にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択。特に下記の項目を事前に確認すること。

①開講日程及び時間割 ②使用教材（教科書）の有無

③準備学修 ④成績評価基準

【要確認】授業期間に出席可能なこと。



③授業開始

第1週

9月25日（火）

～9月29日（土）

各授業の第1週目は、授業の方法、授業計画、準備学修、テキスト及び成績評価基準等についての説明を行った後、授業を行います。

※本年度より、昼間・土曜スクーリングは受講者数の関係から受講調整を行うことがあります。以下の内容を必ず確認してください。

【受講調整について】

受講希望者が多い場合、担当教員より受講制限を行うことがあります。この場合、第1週の授業に参加していない学生は、たとえ受講申込みを行っても、授業を受けることができません。特に「情報概論」（パソコン台数制限有）、外国語科目、実習科目は制限をかけることが多いため、必ず第1週の授業から出席するようにしてください。

また希望者が少ない講座は開講を取り止めることがあります。あらかじめご理解ください。（「受講の調整について」参照）



④履修登録・受講申込締切

申込締切：10月5日（金）

（ポータルサイト）締切日24時00分まで

（窓口提出）18時00分（事務取扱時間）まで

提出先：（窓口）教務課窓口提出 事務取扱時間内厳守

（郵送）提出締切日 必着

※1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。

※2 提出期限を過ぎてからの追加・変更はできません。10月5日（金）までに受講予定の全ての講座を決定した上で提出してください。



⑤受講許可の確認

ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて申し込んだ講座が「申請許可」になっているか確認。

※受講届提出者には、「スクーリング受講資格審査結果通知書」を送付しますので、そちらで確認してください。

必ず以下の内容を確認すること。

※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師

※2 充当科目コード

特に外国語科目、各種演習科目は注意（後掲12ページ参照）。

⑥受講料の振込用紙発送

受講許可者には、スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。

発送予定日：10月19日（金）

発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。



許可講座の辞退

受講を許可された講座を受講しない場合（全講座、一部の講座とも）、10月26日（金）までに辞退手続をする。

詳細は130ページ参照



⑦受講料の納入

ポータルサイト（又はスクーリング受講資格審査結果）及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。

受講料納入期限：11月2日（金）

※受講料（1講座 10,000 円、情報概論は 13,000 円）

⑧昼間・土曜スクーリング
(後期) の手続完了

昼間・土曜スクーリング（後期）の手続は完了です。

学生証及び領収書は、スクーリング受講中は必ず携行してください。

II 講座の選定

1 受講講座の選定

① 受講対象者及び受講条件

昼間・土曜スクーリング（後期）の受講者は、以下の受講条件を必ず守り、申込みをしてください。

1 受講申込対象者 (申込時点において右記の条件を満たすこと)	①年度授業料を納入していること、または所定の締切日までに納入することができること。 ②昼間・土曜スクーリング（後期）受講料を納入期日までに納入することができること。 ③昼間・土曜スクーリング（後期）の全授業日程に出席できること。
------------------------------------	--

2 受講講座数	【申込講座の上限】 14 講座まで 火曜日から土曜日までの各時限から1講座ずつ、最多で14講座まで申し込むことができます。 ※履修登録がされている科目のみ申し込みできます。
---------	---

3 受講制限	上記1、2の条件を満たしていても、全ての講座を申し込むわけではありません。下記の制限により申し込めない講座がありますので、項目を確認し、受講講座を選定してください。
--------	--

② 受講制限について

すべての方がすべての講座を申し込むわけではありません。自分の学年・学科（専攻）、カリキュラム及びその他の理由により申し込むことができない講座があります。以下、それぞれの受講制限を掲載しますので、必ず確認の上、申込みをしてください。

（1）配当学年による受講制限

ア 1学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」と記載されている講座のみ受講可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

イ 2学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」又は「2年」と記載されている講座の受講が可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

ウ 3・4学年生

配当学年による受講の制限はありませんが、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

(2) 科目履修生の受講制限

入学時の「履修申請書」で履修登録した科目に該当する講座のみ受講申込みできます。

(3) シラバスによる受講制限

シラバスに、他のスクーリングと積み重ね不可の記載があり、そのスクーリングに合格している場合は受講できません。

(4) その他の理由による受講制限

以下のいずれかに該当する場合、その講座は受講できません。

ア 既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している科目を充当科目とする講座の受講

イ 履修登録をしていない科目を充当科目とする1講座の受講

ウ 受講の調整による受講制限

一部の講座については、申込希望者が講座の適正人員を超える場合があり、この場合、大学側で受講の調整を行います。

調整により、受講申込講座と異なる講座での受講を許可する場合や、受講不許可となる場合があります。

そのため、必ずポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて、許可された講座を受講してください（受講許可講座と異なる講座の受講は、認められません）。

※受講届提出者は、「受講資格審査結果通知」を確認してください。

③ 他のスクーリングとの日程重複や会場移動に伴う講座受講に関する注意点について

昼間・土曜スクーリング（後期）土曜日の授業と地方スクーリング（10月期）、東京スクーリング（10月期）もしくは東京スクーリング（11月期）の授業を受講する場合、講座の受講に支障がでる場合がございますので、ご自身で確認の上、受講申込を行ってください。

2 「教職に関する科目」における新・旧科目について

平成 23 年度に下表の「教職に関する科目」4 科目については、科目名称が変更となり、平成 23 年度 1 学年入学者から学年進行により順次、新科目名での履修となります。

スクーリングの開講にあたっては、同一講座で新・旧両方の科目を充当科目として開講しますので、下表により適用となる充当科目を確認の上、受講申込みをしてください。

旧科目名	新科目名	
T10300 教育の思想	T10200	教育原論
T21400 道徳教育の研究	T21300	道徳教育の理論と方法
T21600 特別活動の研究	T21500	特別活動論
T30700 教育カウンセリング論	T30600	教育相談
旧科目名での履修対象者	新科目名での履修対象者	
右記以外の学生	入学年度	入学形態
	平成 23 年度	1 学年入学生
	平成 24 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 科目履修生
	平成 25 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 3 学年編入・再入学生 科目履修生
	平成 26 年度以降	全入学生

3 「英語」科目のレベル標記について

昼間・土曜スクーリングの「英語」では、受講講座選択の参考として、新たに授業内容のレベル（目安）を★で標記しています。受講講座の参考にしてください。

<レベル>★の数が増えるほど、難易度が上がります。

【★☆☆】 ⇄ 【★☆☆】 ⇄ 【★★☆】 ⇄ 【★★★】

基礎 初級 中級 上級

※レベル標記はあくまで「目安」です。レベルの感じ方には、個人差があります。

また同一レベル標記でも講座により、難易度が多少異なる場合もあります。

必ずシラバス全体をよく読んだ上で、各自で判断してください。

※講座受講者の状況により、担当講師の判断で適宜調整を図りますので、あらかじめご了承ください。

MEMO

III 時間割

1 時間割

時限	火曜日		水曜日	
	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
1 時限 9:00 ~ 10:30	政治学	関根 二三夫	経済学	田村 和彦
	心理学 A	白川 真裕	英語基礎 A	小澤 賢司
	西洋史入門	高草木 邦人	考古学入門	浜田 晋介
	経営学	山田 敏之	簿記論 I	山元 俊一
2 時限 10:40 ~ 12:10	心理学 B	白川 真裕	英語 C	森 晴代
	ドイツ語 I・II	中島 伸	政治学特殊講義 I・II	秋山 和宏
	国文学基礎講義	野口 恵子	商法 I	南 健悟
	英米文学演習 I~III	猪野 恵也	英語学演習 I~III	真野 一雄
	日本史入門	鍋本 由徳		
	中国経済論	斎 中凌		
	商学総論	雨宮 史卓		
3 時限 13:00 ~ 14:30	英語 A	アレックス ブラウン	文学	木村 一
	史学概論	高綱 博文	法学 A	武田 茂樹
	金融論	谷川 孝美	英語 D	北原 安治
	マーケティング	雨宮 史卓	刑法 I	岡西 賢治
	卒業論文指導	近藤 健史	英語音声学	森 晴代
			東洋史特講 I	堀井 弘一郎
4 時限 14:40 ~ 16:10	哲学 A	江川 晃	歴史学 A	渡邊 浩史
	国文学特殊講義 I・II	近藤 健史	憲法	名雪 健二
	スピーチコミュニケーションII	アレックス ブラウン	国語学概論	保科 恵
	日本史特講 I	八馬 朱代	国文学講義V(近代)	山崎 真紀子
	卒業論文指導	高綱 博文	日本思想史 I	島田 健太郎
	卒業論文指導	雨宮 史卓	東洋史入門	綿貫 哲郎
			アメリカ経済論	羽田 翔
5 時限 16:20 ~ 17:50	英語 B	M. ギルロイ	歴史学 B	堀井 弘一郎
	TOEIC A	町田 純子	文化史	渡邊 浩史
	中国語 I・II	稻葉 明子	英語 E	石川 勝
	東洋史演習 I・II	高綱 博文	国文学基礎演習	木村 一
	科学哲学	江川 晃	情報概論 A	戸塚 英臣
	広告論	雨宮 史卓		

開講日程

後 期	9/25~1/22	補講予定日	12/17, 12/22
-----	-----------	-------	--------------

木曜日		金曜日		土曜日	
講座名	担当講師名	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
英語 F	鈴木 ふさ子	英語 K	大庭 香江	生徒指導・進路指導論	古賀 徹
民法 I	根本 晋一	東洋思想史 I	本間 直人		
行政学	関根 二三夫	日本史概説 / 日本史概論	鍋本 由徳		
情報概論 B	中村 典裕				
法学 B	根本 晋一	総合科目 I ~ VI	古賀 徹	土曜スクーリング日程	
英語 G	岡田 善明	英語 L	大庭 香江	授業時間 9:00 ~ 12:10	
国文学演習 I ~ VI	近藤 健史	フランス語 I・II	大庭 克夫	9月29日 10月13・27日 11月10・17・24日 12月 8日 1月12日	
英米文学概説	鈴木 ふさ子	イギリス文学史 II	猪野 恵也		
経済学概論	藤本 訓利	西洋思想史 I	関谷 雄磨		
社会科・公民科教育法 II	古賀 徹				
卒業論文指導	関根 二三夫				
卒業論文指導	真野 一雄				
卒業論文指導	中澤 瞳				
英語 H	中村 則子	政治学原論	吉野 篤		
民法IV	根本 晋一	哲学基礎講読	石井 友人		
英語史	真野 一雄	市場調査論	最上 健児		
日本史演習 I・II	鍋本 由徳				
経済原論 / 経済学原論	藤本 訓利				
教育の方法・技術論	古賀 徹				
卒業論文指導	小澤 賢司				
哲学 B	中澤 瞳	国文学概論	山崎 泉		
英語基礎 B	中村 則子	宗教学概論	合田 秀行		
TOEIC B	八木 茂那子	商業史	竹内 真人		
東洋史概説 / 東洋史概論	高綱 博文				
西洋史特講 I	青山 由美子				
経済史総論	飯島 正義				
英語科教育法 III	小澤 賢司				
卒業論文指導	根本 晋一				
卒業論文指導	鍋本 由徳				
卒業論文指導	猪野 恵也				
卒業論文指導	前野 高章				
英語 J	八木 茂那子	社会学	服部 慶亘		
哲学演習 I・II	中澤 瞳	日本政治史	石川 徳幸		
西洋史演習 I・II	藤井 信行				
国際経済論	前野 高章				
商業政策	新島 裕基				

●時間割は、掲載日現在の予定です。都合により、変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

●正式な時間割は、後日配布予定の『平成30年度昼間・土曜スクーリング（後期）の手引』を参照してください。なお、『平成30年度昼間・土曜スクーリング（後期）の手引』は9月18日（火）からポータルサイトで入手するか、9月20日（木）実施予定の「昼間・土曜スクーリング（後期）受講手続説明会」にて入手してください。「昼間・土曜スクーリング（後期）受講手続説明会」の詳細は、『ポータルサイト』のお知らせを参照してください。

2 卒業論文指導時間割

- ① 昼間・土曜スクリーリング（後期）開講期間中、下表の時間帯で開講されます。
なお、補講日及び試験期間中は開講しませんので注意してください。
- ② 実施場所等は、通信教育部1号館1階掲示板にてお知らせします。
- ③ 事前予約等は不要です。指導開始時間になりましたら、実施場所にて待機してください。
※開始時間に希望学生がいない場合には、指導を取止める場合がありますので、ご了承ください。
- ④ 以下の担当教員の「個別」、「専門」指導は、当該担当教員の指導分野に限っての指導となります。

時限	火曜日		水曜日	木曜日		金曜日	土曜日																																																																									
1時限目 9:00 ～ 10:30																																																																																
2時限目 10:40 ～ 12:10				<p>講師 関根 二三夫 〔政治経済学〕</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>政治学</td> <td>個別</td> <td>英語学</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>行政学</td> <td>専門</td> <td></td> </tr> </table> <p>講師 中澤 瞳 〔哲学専攻〕</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>哲学</td> <td>個別</td> <td>英語学</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td></td> <td>専門</td> <td>英語教育</td> </tr> </table> <p>講師 小澤 賢司 〔文学専攻（英文学）〕</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>英語学</td> <td>個別</td> <td>英語教育</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td></td> <td>専門</td> <td>指導担当学生のみ</td> </tr> </table> <p>講師 根本 晋一 〔法律学科〕</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>マーケティング戦略、広告戦略、消費者講堂など</td> <td>個別</td> <td>日本史、日本考古</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>民法</td> <td>専門</td> <td>指導担当学生のみ</td> </tr> </table> <p>講師 猪野 恵也 〔文学専攻（英文学）〕</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>イギリス文学</td> <td>個別</td> <td>国際経済論、経済開発論</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td></td> <td>専門</td> <td></td> </tr> </table>	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	政治学	個別	英語学	専門	行政学	専門		指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	哲学	個別	英語学	専門		専門	英語教育	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	英語学	個別	英語教育	専門		専門	指導担当学生のみ	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	マーケティング戦略、広告戦略、消費者講堂など	個別	日本史、日本考古	専門	民法	専門	指導担当学生のみ	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	イギリス文学	個別	国際経済論、経済開発論	専門		専門							
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般		卒論作成に関する一般事項																																																																										
	個別	政治学		個別		英語学																																																																										
	専門	行政学		専門																																																																												
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項																																																																											
	個別	哲学		個別	英語学																																																																											
	専門			専門	英語教育																																																																											
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項																																																																											
	個別	英語学		個別	英語教育																																																																											
	専門			専門	指導担当学生のみ																																																																											
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項																																																																											
	個別	マーケティング戦略、広告戦略、消費者講堂など		個別	日本史、日本考古																																																																											
	専門	民法		専門	指導担当学生のみ																																																																											
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項																																																																											
	個別	イギリス文学		個別	国際経済論、経済開発論																																																																											
	専門			専門																																																																												
3時限目 13:00 ～ 14:30	<p>講師 近藤 健史 〔文学専攻（国文学）〕</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>日本古典文学</td> <td>個別</td> <td>英語学</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>上代文学</td> <td>専門</td> <td>英語教育</td> </tr> </table>	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	日本古典文学	個別	英語学	専門	上代文学	専門	英語教育																																																																	
指導区分	一般		卒論作成に関する一般事項	指導区分		一般	卒論作成に関する一般事項																																																																									
	個別		日本古典文学			個別	英語学																																																																									
	専門	上代文学	専門		英語教育																																																																											
4時限目 14:40 ～ 16:10	<p>講師 高綱 博文 〔史学専攻〕</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>外国史</td> <td>個別</td> <td>マーケティング戦略、広告戦略、消費者講堂など</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>アジア近現代史</td> <td>専門</td> <td>上代文学</td> </tr> </table>	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	外国史	個別	マーケティング戦略、広告戦略、消費者講堂など	専門	アジア近現代史	専門	上代文学	<p>講師 雨宮 史卓 〔商業学科〕</p>																																																																
指導区分	一般		卒論作成に関する一般事項	指導区分		一般	卒論作成に関する一般事項																																																																									
	個別		外国史			個別	マーケティング戦略、広告戦略、消費者講堂など																																																																									
	専門	アジア近現代史	専門		上代文学																																																																											
5時限目 16:20 ～ 17:50																																																																																

MEMO

IV 開講講座表及び講座内容（シラバス）

1 「開講講座表」の見方

「開講講座表」の見方

1	講座コード	スクーリング開講講座を識別するために講座ごとに付された固有のコード番号です。 「受講届」の「講座コード」欄（4桁）には、この講座コードを記入してください。	
2	開講講座名	講座の名称です。原則、科目名と同一ですが、「英語」等のように複数開講される講座については、講座名の後ろにアルファベット等の記号を付して各講座を識別します。	
3	担当講師名	当該講座を担当する教員の氏名です。	
4	開講単位数	受講講座の合格により修得できる単位数です。	
5	充当科目（科目コード、科目名）	受講講座の合格により成績評価の対象となる科目コードと科目名です。 スクーリングの開講単位は「講座」であり、その「講座」に対してどの「科目（科目コード）」で受講するか（充当させるのか）を申告します。 多くの講座の充当科目は1講座につき1科目ですが、「英語」や「演習科目」のように受講者の単位修得状況により充当科目の選択が必要な講座もあるので、充当科目の選定は慎重に行ってください。 「受講届」の「充当科目コード」欄（6桁）には、この科目コードを記入してください。	
6	併用	「スクーリング併用試験方式」による受講の対象講座か否を記載しています。「スクーリング併用試験方式」による受講ができない講座には、「 <u>×印</u> 」が記載されています。 昼間・土曜スクーリングは「スクーリング併用試験方式」による受講ができないため、全て「×印」が記載されています。	
7	制限・注意	配 当 学 年	ここに記載されている学年に達していない場合は受講できません。 学部・学科（専攻）により受講可能な学年が異なる場合は、「受講条件」欄に記載されています。
		受 講 条 件	その他の受講制限及び諸注意等がある場合に記載されています。
8	オープン受講	オープン受講ができない講座には「 <u>×印</u> 」が記載されています。 記載がない講座はオープン受講申込可です。	

2 開講講座表・シラバス・使用教材【曜日・時限順】

【火曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ー ブ 講
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
1 時限	AH11	政 治 学	関根 二三夫	2	B11700	政 治 学	×	1年		
	AH12	心 理 学 A	白川 真裕	2	B12100	心 理 学	×	1年		
	AH13	西 洋 史 入 門	高草木 邦人	2	Q20300	西 洋 史 入 門	×	※	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AH14	経 営 学	山田 敏之	2	S20200	経 営 学	×	※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
2 時限	AH21	心 理 学 B	白川 真裕	2	B12100	心 理 学	×	1年		
	AH22	ドイツ語 I・II	中島 伸	1	D10100	ドイツ語 I	×	1年	・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					D10200	ドイツ語 II				
	AH23	国文学基礎講義	野口 恵子	2	M20100	国文学基礎講義	×	※	・国文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AH24	英米文学演習I~III	猪野 恵也	1	N404S0	英米文学演習 I	×	3年	・英文学専攻のみ申込可。 ・I~IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	×
					N405S0	英米文学演習 II				
					N406S0	英米文学演習 III				
	AH25	日 本 史 入 門	鍋本 由徳	2	Q20100	日 本 史 入 門	×	※	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
3 時限	AH26	中 国 経 済 論	斎 中凌	2	R313S0	中 国 経 済 論	×	2年		
	AH27	商 学 総 論	雨宮 史卓	2	S20100	商 学 総 論	×	※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AH31	英 語 A	アレックス ブラウン	1	C10100	英 語 I	×	1年	・I~IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
4 時限					C10400	英 語 IV				
	AH32	史 学 概 論	高綱 博文	2	Q30100	史 学 概 論	×	2年		
	AH33	金 融 論	谷川 孝美	2	R31800	金 融 論	×	2年		
	AH34	マーケティング	雨宮 史卓	2	S30500	マーケティング	×	2年		
4 時限	AH41	哲 学 A	江川 晃	2	B10700	哲 学	×	1年		
	AH42	国文学特殊講義 I・II	近藤 健史	2	M311S0	国文学特殊講義 I	×	2年	・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					M312S0	国文学特殊講義 II				
	AH43	スピーチコミュニケーション II	アレックス ブラウン	1	N31000	スピーチコミュニケーション II	×	2年		
4 時限	AH44	日本史特講 I	八馬 朱代	2	Q30800	日本史特講 I	×	2年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【火曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ー ブ 講ン		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件			
5 時 限	AH51	英 語 B	M. ギルロイ	1	C10100	英 語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させる のか充當科目コードを必ず記 入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III	×	2 年				
					C10400	英 語 IV						
	AH52	TOEIC A	町田 純子	1	C108S0	TOEIC	×	1 年				
	AH53	中国語 I・II	稲葉 明子	1	F10100	中国語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させる のか充當科目コードを必ず記 入してください。			
					F10200	中国語 II						
	AH54	東洋史演習 I・II	高綱 博文	1	Q403S0	東洋史演習 I	×	3 年	・ 史学専攻のみ申込可。 ・ I・II のどちらに該当させる のか充當科目コードを必ず記 入してください。			
	AH55	科学哲学	江川 晃	2	P31300	科学哲学	×	2 年				
	AH56	廣告論	雨宮 史卓	2	S30900	廣告論	×	2 年				

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科
目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆ 講座内容（シラバス）

◆政治過程を基礎から学びましょう

[政治学]

火曜日 1 時限

担当者：関根 二三夫

◆学修到達目標 基礎教育としての講義を行います。前期の講義を踏まえて、選挙や政党、圧力団体など、政策の立案や政策の決定に影響を及ぼす要因を基礎から学んでみたいと思います。この講義においては、政治が我々の生活に影響を及ぼすとともに、我々にとって身近な現象であることを学びます。

◆授業方法 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆準備学修 政治学は社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象にする学問です。社会における問題点を把握し、あるべき社会を考える必要があります。学修の準備として、メディアの情報に関心を持ち、テキストを熟読するなど、それぞれの単元について2時間程度の予習をし、また同様に2時間程度の復習が必要になります。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	選挙制度 ※原則や選挙権について説明します。	9回目	わが国の圧力団体 ※特徴を中心に説明します。
2回目	選挙区 ※画定や選挙区制について説明します。	10回目	コミュニケーション ※機能、類型について説明します。
3回目	代表選出の形態 ※少数、多数、比例代表などを説明します。	11回目	コミュニケーション ※方向について説明します。
4回目	政党 ※概念、特徴、発展過程を説明します。	12回目	リーダーシップ ※リーダーの役割について説明します。
5回目	政党 ※形態、機能を説明します。	13回目	地方自治 ※わが国における沿革を中心に説明します。
6回目	政党 ※問題点を説明します。	14回目	政治と行政 ※二分論、連続論、関連論を説明します。
7回目	圧力団体 ※概念、特徴を説明します。	15回目	講義内容の総括
8回目	圧力団体 ※活動、問題点を説明します。		

◆教科書 通材 『政治学 B11700』 通信教育教材（教材コード 000279）2,100円（送料込）
※議会、内閣、裁判所の統治機構に関する解説、選挙、政党、圧力団体などの政治過程に関する解説に重点
が置かれています。

◆参考書 丸沼『教養政治学』岩井奉信・黒川貢三郎・関根二三夫他 南窓社 3,132円(税込)(送料350円)
※政治学の変遷、政治の概念、統治機構、政治過程などの解説に重点が置かれています。

◆成績評価基準 試験 70%、平常点 30% ※試験同様、質問や理解度テストへの解答等平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆行動を科学する

〔心理学 A〕

火曜日 1 時限

担当者：白川 真裕

◆学修到達目標 本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について学んでほしいと思います。そして、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考えを巡らせる機会をもってもらうことを重視したいと考えています。

◆授業方法 授業は主として講義形式で行います。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートをとりながら積極的に参加をするようつとめてください。出席は毎回確認します。電車遅延など特別な理由以外で 30 分以上遅刻をした場合は欠席扱いとなるので注意してください。

◆準備学修 特に事前学習の必要はありませんが、自分のとったノートを見返して復習ができるように心がけてください。また、授業の内容を日常場面での応用と結びつけて学習をすることを意識をして授業に臨んでください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス 発達 1 発達とは、発達の特徴	9回目	社会 1 社会的認知 (自己・他者・集団・対人関係に対する認知)
2回目	発達 2 発達段階の特徴	10回目	社会 2 社会的影響
3回目	情動・感情の種類とメカニズム	11回目	環境 1 環境の知覚と認知、環境デザイン
4回目	動機づけ 1 欲求と欲求不満、葛藤	12回目	環境 2 対人・社会環境、さまざまな環境
5回目	動機づけ 2 動機づけの理論	13回目	環境 3 環境と犯罪
6回目	個人差 1 知能の理論と測定	14回目	振り返りとまとめ
7回目	個人差 2 パーソナリティの理論と測定	15回目	理解度の確認（試験）
8回目	個人差 1 知能とは何か		

◆教科書 **当日資料配布** 必要に応じて資料を配布します。

◆参考書 **通材** 『心理学 B12100』通信教育教材（教材コード 000483）3,150 円（送料込）
〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一他著 福村出版と同一です。〉

◆成績評価基準 成績は試験結果を重視し、これに平常点（リアクションペーパーなど）を鑑みて総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆「西洋の歴史学」を集めて、読んでみよう！

〔西洋史入門〕

火曜日 1時限

担当者：高草木 邦人

◆学修到達目標 本講義は、西洋史を学ぶ上で必要とされる知識と技術の基礎を学習します。本講義の学習により、受講生は自立的に西洋史を研究するためのスタート地点に立つことができます。後期においては、文献の集め方、専門書・研究論文の読み方、外国語文献の収集・読解などについて学習します。なお、前期と後期は内容が異なりますので、半期のみの受講も可能ですが、学習効果をあげるためにには、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法 基本的に講義形式をとりますが、演習的な要素も盛り込みます。具体的には、研究文献や史料の講読、学習した知識・技術に関する報告などを予定しています。また、講義で学習したことを自分自身で実践するために、4回のレポートを課する予定です。なお、受講者の人数とその理解度に応じて、下記の授業計画を若干修正することがあります。

◆準備学修 準備学習として、指定したテキストの授業に関連した箇所を熟読しておいてください。熟読すべき箇所については、授業中に適時指示します。なお、本講義は古代史から近現代までを扱う通史ではないので、高等学校の世界史Aの教科書などを事前に読んで、世界史の大まかな流れを把握しておいて下さい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	註から論文を読む【概要編】
2回目	研究文献を集める【概要編】	10回目	註から論文を読む【実践編①】
3回目	研究文献を集める【実践編】	11回目	註から論文を読む【実践編②】
4回目	研究文献を集める【報告編】	12回目	註から論文を読む【報告編】
5回目	専門書を読む【概要編】	13回目	外国語文献に触れる【概要編】
6回目	専門書を読む【実践編①】	14回目	外国語文献に触れる【文献収集編】
7回目	専門書を読む【実践編②】	15回目	外国語文献に触れる【読解編】
8回目	専門書を読む【報告編】		

◆教科書 **当日資料配布** 講義では、プリントを配布します。

丸沼 『私もできる西洋史研究—仮想大学に学ぶ』井上浩一 和泉書院 2012年
1,944円（税込）（送料 300円）※本テキストは準備学習用のテキストです。

◆参考書 **丸沼** 『人文学への接近法—西洋史を学ぶ』服部良久ほか編 京都大学学術出版会 2010年
2,160円（税込）（送料 300円）

丸沼 『わかる・身につく歴史学の学び方』大学の歴史教育を考える会（編）大月書店 2016年
2,160円（税込）（送料 300円）

丸沼 『歴史研究と地域研究のはざまで—フィリピン史で論文を書くとき』早瀬晋三 法政大学出版会 2004
1,836円（税込）（送料 300円）

◆成績評価基準 成績の評価基準は、レポート（60%）、平常点（40%）です。レポートを4回ほど課する予定です。平常点は、授業中に配布するアクション・ペーパー、学習内容に関する報告、そして授業態度などを参考に評価します。なお、毎回出席していることを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆経営学の基本を理論と事例で学ぶ

〔経営学〕

火曜日 1 時限

担当者：山田 敏之

◆学修到達目標 本講義では、現代企業の本質を明らかにしつつ、経営学の基礎について理解を深めることを目標とします。現実の企業行動を経営学の理論によって説明できることが到達点です。後期は経営組織、経営戦略を取り上げます。経営組織では組織設計の原則、組織構造の特徴等を扱います。経営戦略では資源配分戦略、競争戦略等を扱います。前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 概ね指定したテキストに従い、黒板での板書を基本とした講義形式の授業を行います。具体的な企業経営のケース（事例）やグラフ等の関連資料については配布資料、パワーポイントを使用します。理論の説明とケース（事例）を組み合わせることで、より実践性の高い内容にしていきたいと思います。なお、講義の終了前に、その日の講義の内容あるいは企業経営に関する時事的な問題に関する小テストを毎回実施します。

◆準備学修 毎回の授業の課題に沿って指定したテキストの該当部分をあらかじめ読んでおいてください。授業計画で示された経営学の諸概念について、分からぬ言葉や用語等があれば事前に経営学辞典、経済学辞典あるいは参考書を用いて調べてください。経営学はきわめて現実性の高い学問領域ですので、日本経済新聞、日経産業新聞等の新聞や日経ビジネス、東洋経済、エコノミストといった経済雑誌にも絶えず目を通すようにしておいてください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	イントロダクション： 組織と戦略のあり方とは？	9回目	企業ドメインの規定と課題
2回目	組織の定義と組織構造の規定要因	10回目	資源配分戦略Ⅰ：経験曲線
3回目	組織デザインの基本原則	11回目	資源配分戦略Ⅱ：製品ライフサイクル
4回目	基本的な組織構造Ⅰ： 職能別組織と事業部制組織	12回目	資源配分戦略Ⅲ：PPM の枠組みと基本戦略
5回目	基本的な組織構造Ⅱ： プロジェクト組織とマトリックス組織	13回目	業界構造分析の枠組み
6回目	新しい組織構造：カンパニー制と持株会社制	14回目	3つの基本戦略とスタッカ・イン・ザ・ミドル
7回目	組織文化の概念と機能	15回目	まとめと試験
8回目	経営戦略論の誕生と意義		

◆教科書 丸沼 『経営学入門 [上] <第2版>』 榊原清則 日本経済新聞出版社 928円（税込）（送料215円）

◆参考書 丸沼 『経営学イノベーション1 経営学入門 第2版』十川廣國 中央経済社 2,592円(税込) (送料300円)

丸沼 『経営学イノベーション2 経営戦略論 第2版』十川廣國編著 中央経済社

2,592円（税込）（送料300円）

丸沼 『経営学イノベーション3 経営組織論 第2版』十川廣國編著 中央経済社

2,592円（税込）（送料300円）

◆成績評価基準 平常点（毎回の小テスト）(20%)、試験(80%)。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆行動を科学する

〔心理学 B〕

火曜日 2 時限

担当者：白川 裕

◆学修到達目標 本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について学んでほしいと思います。そして、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考え方を巡らせる機会をもってもらうことを重視したいと考えています。

◆授業方法 授業は主として講義形式で行います。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートをとりながら積極的に参加をするようつとめてください。出席は毎回確認します。電車遅延など特別な理由以外で30分以上遅刻をした場合は欠席扱いとなるので注意してください。

◆準備学修 特に事前学習の必要はありませんが、自分のとったノートを見返して復習ができるように心がけてください。また、授業の内容を日常場面での応用と結びつけて学習することを意識をして授業に臨んでください。

◆履修条件 平成30年度履間・土曜スクーリング（後期）「心理学 A」との積み重ね不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス 発達 1 発達とは、発達の特徴	9回目	社会 1 社会的認知 (自己・他者・集団・対人関係に対する認知)
2回目	発達 2 発達段階の特徴	10回目	社会 2 社会的影響
3回目	情動・感情の種類とメカニズム	11回目	環境 1 環境の知覚と認知、環境デザイン
4回目	動機づけ 1 欲求と欲求不満、葛藤	12回目	環境 2 対人・社会環境、さまざまな環境
5回目	動機づけ 2 動機づけの理論	13回目	環境 3 環境と犯罪
6回目	個人差 1 知能の理論と測定	14回目	振り返りとまとめ
7回目	個人差 2 パーソナリティの理論と測定	15回目	理解度の確認(試験)
8回目	個人差 1 知能とは何か		

◆教科書 当日資料配布 必要に応じて資料を配布します。

◆参考書 通材『心理学 B12100』通信教育教材（教材コード: 000483）3,150 円（送料込）

〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一他著 福村出版と同一です。〉

◆成績評価基準 成績は試験結果を重視し、これに平當点（リアクションペーパーなど）を鑑みて総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ドイツ語文の書き方を学びましょう

〔ドイツ語 I・II〕

火曜日2限

担当者：中島 伸

◆学修到達目標 後期は前期に学んだ知識を基にした中級レベルのドイツ語文法の習得はもちろんのこと、ドイツ語文（独作文）が書けるようになる文章表現の習得を目標とします。前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 前期と同様に、以下の授業計画で挙げられている文法事項の説明後、練習問題（文法・独作文）で定着させていきます。更に、スクーリング時に2回小テストを行い、間違った箇所と確認のために個別に解説を添えて答案を返却します。

◆準備学修 回を追う毎に説明する文法事項は既に習った文法事項（前期に学んだ文法事項も含む）の知識が無いと理解できませんので、既習の文法事項の復習をするようにして下さい。特に、動詞の現在人称変化と名詞の性、そして冠詞の格変化はほぼ全ての文法事項で必要な知識となります。冠詞の格変化を紙に書いて覚える等の自己学習を日頃から行うようにして下さい。反復学習こそが言語習得への近道です。

◆授業計画（各90分）

1回目	接続詞 ※2つの接続詞（並列・従属）の種類と用法について学びます。	9回目	未来形 ※未来形の形式と用法について学びます。
2回目	話法の助動詞 ※話法の助動詞の種類と用法について学びます。	10回目	完了形 ※2つの完了形（現在完了・過去完了）の形式と用法について学びます。
3回目	zu 不定詞 ※ zu 不定詞の形式と用法について学びます。	11回目	関係代名詞 ※2つの関係代名詞（定関係代名詞・不定関係代名詞）の形式と用法について学びます。
4回目	複合動詞 ※2つの複合動詞（分離動詞・非分離動詞）の種類と用法について学びます。	12回目	受動態 ※受動態の形式と用法について学びます。
5回目	再帰動詞 ※再帰動詞の形式と用法について学びます。	13回目	分詞 ※2つの分詞（現在分詞・過去分詞）の形式と用法について学びます。
6回目	形容詞（1） ※形容詞の3つの用法（述語的・副詞的・付加語的用法）について学びます。	14回目	接続法 ※接続法の形式と人称変化、そして用法について学びます。
7回目	形容詞（2） ※形容詞の比較級と最上級の形式と用法について学びます。	15回目	まとめ・試験 ※後期に学んだ項目の復習を行います。
8回目	動詞の3基本形・過去形 ※動詞の3基本形の作り方と動詞の過去人称変化、そして過去人称変化した動詞を含む文（過去形の文）の用法について学びます。		

◆教科書 丸沼 『初級ドイツ語 フランクフルト四重奏』 川嶋正幸・中村憲治・Klaus Schlichtmann 朝日出版社
2,700円（税込）（送料300円）

◆参考書 独和辞典が必要となります。推奨独和辞典は初回スクーリング時に紹介します。

◆成績評価基準 平常点（20%）・小テスト（30%）・試験（50%）。毎回出席することを前提として評価します。
なお、独和辞典は必ず持参のこと（辞書の忘れは欠席扱いとします）。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Sons and Lovers に挑戦

〔英米文学演習 I ~ III〕

火曜日 2 時限

オープン受講：不可 担当者：猪野 恵也

◆学修到達目標 D.H.Lawrence による Sons and Lovers を読む。学生の和訳の発表が中心だが、英文の構造や単語の使われ方などに気をつけて読んでゆくことを目標とする。

◆授業方法 学生の英文音読と和訳が中心。その他作品について気がついたことがあれば発表して下さい。

◆準備学修 発表が割り当てられていないくともしっかり予習して授業に臨んで欲しい。毎回およそ 6 頁進めたいと思う。

◆履修条件 前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	イントロダクション 発表割り当てなど	9回目	原書購読 p.129-p.134
2回目	原書購読 p.87-p.92	10回目	原書購読 p.135-p.140
3回目	原書購読 p.93-p.98	11回目	原書購読 p.141-p.146
4回目	原書購読 p.99-p.104	12回目	原書購読 p.147-p.152
5回目	原書購読 p.105-p.110	13回目	原書購読 p.153-p.158
6回目	原書購読 p.111-p.116	14回目	原書購読 p.159-p.164
7回目	原書購読 p.117-p.122	15回目	試験
8回目	原書購読 p.123-p.128		

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 丸沼 D.H. ロレンス 『息子と恋人』 小野寺健 / 武藤浩史 訳 ちくま文庫 1,944 円(税込)(送料 300 円)

◆成績評価基準 試験 (50%) 発表 (20%) 最終リポート (20%) 平常点 (10%) 皆出席を前提とする。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本の歴史を知るために必要なこと

〔日本史入門〕

火曜日 2 時限

担当者：鍋本 由徳

◆学修到達目標 本科目では、①日本史学修の意義、②原始・古代～現代へのアプローチ、③資料による学修・研究方法を通じて、日本史の学修方法や研究方法の基礎を学びます。日本史で使う暦や単位、制度、史料などを提示し、日本史学修の知識を身につけます。また教壇に立つ者として必要な姿勢について理解することを目標とします。

◆授業方法 原則として講義形式です。教科書は使いませんので、講義用プリントを中心に、スクリーンを併用しながら要点を説明します。

◆準備学修 事前配付の学修シートを用い、教科書内容の概要を把握していることを前提に進めます。教科書を読み、内容把握につとめておくこと。シートへの記述は自分の理解できるレベルでかまいません（提出不要）

◆授業計画（各 90 分）

1回目	日本史を学ぶ意味	9回目	基本史料集 近世
2回目	基礎知識（単位・国制）を学ぶ	10回目	基本史料集 近代
3回目	基礎知識（政治・経済）を学ぶ	11回目	古代・中世史料を読んでみる
4回目	時代区分 日本史での区分の問題	12回目	近世・近代史料を読んでみる
5回目	基本文献 入門・概説を知る	13回目	文学から日本史へのアプローチ
6回目	基本文献 基本研究論集を知る	14回目	対外史料から日本史へのアプローチ
7回目	資史料の種類 非文字資料の扱い	15回目	日本史の学修にむけて
8回目	基本史料集 古代・中世		

◆教科書 **当日資料配布** 授業当日、学修プリントを配布します。

◆参考書 授業の時に適宜紹介します。

◆成績評価基準 授業内提出レポート（70%）、授業内小テスト（30%）の総合評価

※全回出席を前提とした評価です。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中国経済制度の変遷を学びましょう

[中国経済論]

火曜日 2 時限

担当者：斎 中凌

- ◆学修到達目標 日本と中国の経済関係はこの 30 年間で大きく拡大したが、一方で近年は政治的な緊張関係も強まっている。我々は、中国という国の仕組みや経済建設の経緯が日本と大きく異なることを認識した上で、現在起きている事象の本質を理解し、直面する事態と向き合っていかなければならない。この講義では、中国経済制度の変遷について基礎となる知識を習得し、中国経済に対する理解を深めることを目指す。
- ◆授業方法 講義は、配布資料とパワーポイントに沿って進める。授業時間内に、出欠を兼ねて、筆記課題やクイズへの回答を提出してもらうこともある。中国を身近に感じられるように、可能な限り写真や映像なども取り入れて講義を進めたいと考えている。また、足下の中国の経済・社会動向や世界経済・国際金融情勢との関係など時事問題についても、講義の中で解説を加える。
- ◆準備学修 テキストの第 1 部と第 4 部を予習していただきたい。なお、中国は変化のペースが非常に速いため、参考資料などは授業中に適宜紹介する。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	講義内容の概観	9回目	市場経済を本格的に推進する 1990 年代（1）
2回目	中国経済の新しい動向	10回目	市場経済を本格的に推進する 1990 年代（2）
3回目	公有制経済が樹立した 1950 年代	11回目	WTO 加盟とその意義
4回目	社会主義の夢に目が眩んだ 1960 年代	12回目	2000 年代の経済高度成長
5回目	政治運動で経済が停滞した 1970 年代（1）	13回目	中国大陸と香港の経済関係
6回目	政治運動で経済が停滞した 1970 年代（2）	14回目	中国大陸とマカオ・台湾の経済関係
7回目	改革開放に乗り出した 1980 年代（1）	15回目	後期のまとめ
8回目	改革開放に乗り出した 1980 年代（2）		

◆教科書 丸沼 『現代中国経済論』加藤弘之・上原一慶 ミネルヴァ書房 2011 年 4 月 3,456 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書 特になし。

◆成績評価基準 授業中の質疑応答、出席、期末テストの成績を総合して評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆企業及び消費者の視点から商業学を理解する

〔商学総論〕

火曜日 2 時限

担当者：雨宮 史卓

◆学修到達目標 本講義は、商業の各機能を論ずるだけでなく、商業の考え方を主体に述べる。最初に「商業とは何か」を学び、流通やマーケティングにどのような意味を持つかを理解する。歴史的に商業は「生産者の代理」として機能してきた。しかし、近年では消費者視点の発想が重要視されている。そのため、商業者が生活者の視点に立つ事を念頭に置き、身近な事例や仮設例を用いて理論や政策を具体的に解説する。

◆授業方法 ターム前半はテキストに沿いながら、日本における商業・流通の歴史と発展、変化を中心に解説する。ターム後半はマーケティングを中心とした幅広い知識習得を目指す。必要に応じて資料を配布する。また、その日の授業の後半で、主要なテーマについてのリアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修 ノートを必ず持参すること。

◆履修条件 前期との継続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	授業の進め方 商業とは何か	9回目	価格設定と消費者視点の価値
2回目	商業機能の深化と拡大	10回目	商業におけるブランド概念とその役割
3回目	商品における製品とサービスの比較	11回目	商業におけるフード・ビジネスの変遷
4回目	商業とマーケティング	12回目	商業と公共マーケティング
5回目	小売業の形態と役割	13回目	IT、グローバル化と流通の変化
6回目	小売業のチェーン系列化	14回目	授業の総復習
7回目	卸売業の役割と展開	15回目	テストと解説
8回目	物流・ロジスティックスの変遷		

◆教科書 通材 『商学総論 S20100』通信教育教材（教材コード 000356）3,550 円（送料込）

【当日資料配布】 必要に応じて資料を配布する。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Current Topics

★★☆ [英語 A]

火曜日3時限

担当者：アレックス ブラウン

◆学修到達目標 Students will be able to improve speaking and conversation skills by discussing a variety of topics each class.

◆授業方法 Students will model the example conversations given by the instructor. Then, will engage in conversation, sharing information.

◆準備学修 Prepare to discuss weekly topics in a small group setting.

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	Course introduction and Orientation	9回目	Topic 3 Continued
2回目	Topic 1 Food, Friends and Family	10回目	Topic 4 Shopping and Fashion
3回目	Topic 1 Continued	11回目	Topic 4 Continued
4回目	Topic 2 Travel, Transportation and Vacation	12回目	Group presentation 2 Intro
5回目	Topic 2 Continued	13回目	Group presentation 2
6回目	Group presentation Intro	14回目	Course review
7回目	Group presentation	15回目	Testing
8回目	Topic 3 Work and Money		

◆教科書 No text will be required. The teacher will provide handouts.

◆参考書 None.

◆成績評価基準 Grades will be based on attendance, a final exam, a group speaking test and efforts given each class.

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆歴史学の論文を書くために

〔史学概論〕

火曜日 3時限

担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 歴史学という学問の性格及び目的を明らかにし、また歴史学を学んでいく上で必要不可欠な基礎的・技術的な知識を学習する。さらに激動する現代世界に対応するために現在進行しつつある歴史学の革新について学び、「新しい歴史学」のあり方について考える。

◆授業方法 歴史学の史資料論及び技法と作法について論述し、授業中に配布した資料を解説しながら行う。後期には受講生全員に卒業論文のテーマの概要と研究計画について報告してもらいます。

◆準備学修 下記の参考文献を予め学習しておくことが望ましい。

◆履修条件 通年で履修することが望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	歴史学論文の読み方
2回目	歴史学の史料論	10回目	歴史学論文の書き方
3回目	歴史史料の分類法	11回目	卒論の技法と作法
4回目	史料批判の方法（外的批判）	12回目	卒論の骨格
5回目	史料批判の方法（内的批判）	13回目	卒論の史料・実証過程
6回目	論文に見る史料批判	14回目	卒論構想報告
7回目	オーラルヒストリーについて	15回目	卒論構想報告と討論
8回目	図像史料について		

◆教科書 **当日資料配布** 配布資料を使用し教科書は指定しない。

◆参考書 **丸沼** 『論文の書き方』澤田昭夫 講談社 1,015円（税込）（送料 215円）

『歴史学ってなんだ?』小田中直樹 PHP 新書

〈上記の本は品切れのため、図書館等を利用して下さい。〉

◆成績評価基準 リポート（50%）及び卒論構想報告（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中央銀行の機能と役割を学びましょう

〔金融論〕

火曜日3時限

担当者：谷川 孝美

◆学修到達目標 最近では、日本銀行の物価安定目標の達成可能性や非伝統的金融政策の効果などが話題になっています。この講義では、金融市場で中心となっている日本銀行の機能や役割、また、物価目標を達成するための手段である金融政策、さらには、現在実施されている非伝統的金融政策などについて、その基礎的知識や理論を学び、理解することを通じて、現在の経済問題を考える基礎を養うことを目的とします。

◆授業方法 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では基礎的な事柄を中心に、平易な解説をする予定です。講義の進行状況によって授業計画が前後することもあります。なお、貨幣の定義や金利、金融制度などの詳細については取り扱いません。

◆準備学修 定したテキストを事前に熟読しておくこと。金融政策を理解するためには、経済学の基礎が重要になります。受講前準備として、マクロ経済学の基礎を確認すること。また、貨幣の定義や金利、金融制度など、前期で取り扱う事柄も確認すること。なお、理解を深めるためにも、授業計画にあるトピックス、専門用語などを参考書等で事前に調べておくこと。

◆履修条件 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス、金融、金融市場とは何か	9回目	日本銀行の機能と業務－政府の銀行
2回目	貨幣の定義	10回目	金融政策の目的、手段
3回目	金利の基礎	11回目	伝統的金融政策
4回目	銀行の機能と役割	12回目	非伝統的金融政策－ゼロ金利政策、量的緩和政策
5回目	信用創造とは何か	13回目	非伝統的金融政策－量的質的金融緩和政策
6回目	中央銀行とは何か	14回目	金融政策の理論、IS-LM分析
7回目	日本銀行の機能と業務－発券銀行	15回目	まとめ、試験
8回目	日本銀行の機能と業務－銀行の銀行		

◆教科書 通材 『金融論 R31800』通信教育教材（教材コード 000540）1,950 円（送料込）

◆参考書 丸沼 『ベーシックプラス 金融論』家森信善 中央経済社 2,376 円（税込）（送料 300 円）

丸沼 『ベーシックプラス 金融政策』小林照義 中央経済社 2,484 円（税込）（送料 300 円）

丸沼 『日本銀行の機能と業務』日本銀行金融研究所編 有斐閣 2,592 円（税込）（送料 350 円）
(日本銀行ホームページ <http://www.imes.boj.or.jp/japanese/pf.html> に同じものがあります)

◆成績評価基準 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に平常点などにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆マーケティング戦略の理論と実際

〔マーケティング〕

火曜日3時限

担当者：雨宮 史卓

◆学修到達目標 本講義は、企業が製品・サービスを売るための手段としてマーケティングを捉えるだけでなく、より広い視点でマーケティングを捉える事を心掛ける。そのため、社会情勢、経済状況の変化とともに消費者の嗜好がどのように変化し、市場に影響を及ぼしてきたかを詳しく解説する。実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき、各個人が分析し問題を解決する手法を学ぶ。

◆授業方法 ターム前半は前期を振り返りながら基礎事項を確認する。ターム後半はマーケティングの事例を中心として幅広い理論の習得を目指す。必要に応じて資料を配布する。また、その日の授業の後半で、主要なテーマについてのリアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修 ノートを必ず持参すること。

◆履修条件 前期との継続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	授業の進め方 マーケティングの基本理念	9回目	IT と流通の変化
2回目	市場創造とマーケティング	10回目	ブランド概念とコミュニケーション
3回目	マーチャンダイジングと市場細分化	11回目	ブランド・マネジメント
4回目	製品開発と管理	12回目	マーケティングとサービス文化
5回目	消費者視点の価値と価格	13回目	環境とマーケティング
6回目	プロモーションの種類と役割	14回目	授業の総復習
7回目	広告媒体と広告計画	15回目	テストと解説
8回目	取引と流通		

◆教科書 通材 『マーケティング S30500』通信教育教材（教材コード 000182）2,550 円（送料込）

◆当日資料配布 必要に応じて資料を配布する。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆論理力を鍛える哲学

〔哲学 A〕

火曜日 4 時限

担当者：江川 晃

◆学修到達目標 この授業の目標は、論理的思考が出来るようになることである。論理的思考については、哲学において、論理学という分野で探究されてきた。論理学は、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学と、19世紀のフレーゲの論理学革命に基づく記号論理に大別される。この授業では、両者の論理学の基礎を理解し、具体的な練習問題を通じて演習を行う。現代に必要とされるコミュニケーション能力である論理力を付けよう。

◆授業方法 講義と演習を交互に行います。

◆準備学修 予習と復習が必要です。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	論理力（学）とは何か	9回目	演習
2回目	エレア学派のパラドックス	10回目	記号論理 記号化
3回目	アリストテレスの論理学	11回目	命題計算 演習
4回目	直接推理（1）対当推理	12回目	ド・モルガンの法則（1）
5回目	演習	13回目	ド・モルガンの法則（2）
6回目	（2）変形推理	14回目	条件法
7回目	演習	15回目	試験
8回目	間接推理 定言三段論法		

◆教科書 当日資料配布 プリント配布します。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 授業態度（20%）、試験（80%）、毎回出席を前提として総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆国語教育における宮沢賢治とその作品

〔国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日4時限

担当者：近藤 健史

◆学修到達目標 宮沢賢治の文学作品や伝記の教材化について、あり方や問題点などを考える。そのことにより文学作品を読み解く上で必要な知識や方法を身につけることを目標とする。また、卒業論文の作成の応用につなげる。

◆授業方法 国語教科書における宮沢賢治の作品や伝記の教材化の歴史を講義した後、グループワークを行う。「作品や伝記の教材化」に関するテーマを設定し、調査・研究した結果を口頭発表する方法である。全体討論での質疑応答により、さらに理解を深める。

◆準備学修 宮沢賢治の生涯について学んでおくこと。

◆授業計画（各90分）

1回目	授業の進め方、グループ分け	9回目	グループ毎に発表資料の作成
2回目	宮沢賢治に生涯と作品を学ぶ	10回目	各グループの口頭発表、全体討論
3回目	国語教育における賢治の伝記教材の変遷を学ぶ	11回目	各グループの口頭発表、全体討論
4回目	国語教育における賢治の作品教材の変遷を学ぶ	12回目	各グループの口頭発表、全体討論
5回目	グループ毎に教材のあり方の実態を調査する（テーマ設定に準備）	13回目	各グループの口頭発表、全体討論
6回目	グループ毎に教材化の問題点を調査する（テーマ設定の準備）	14回目	各グループの口頭発表、全体討論
7回目	グループ毎に調査による議論、テーマ設定	15回目	総まとめ、リポート提出
8回目	グループによる発表の準備（役割分担等）		

◆教科書 **当日資料配布** そのつど授業内で関係資料を配布する。

◆参考書 **丸沼** 『子ども読者とひらく 宮沢賢治 童話の世界』 牛山恵 富山房 2014年
2,700円（税込）（送料300円）

『国語教育における宮沢賢治』 牛山恵（私家版）

『賢治の学校』 鳥山敏子 サンマーク出版 1996年

（上記『国語教育における宮沢賢治』及び『賢治の学校』は品切れのため、図書館等を利用して下さい。）

◆成績評価基準 口頭発表60%，リポート40%。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Speech Communication II

〔スピーチコミュニケーションⅡ〕

火曜日4時限

担当者：アレックス ブラウン

◆学修到達目標 This course is aimed at improving communication skills with a focus on speaking and listening. Efforts will be directed at using English in a natural context and to develop fluency. Grades will be based on attendance and written and speaking tests for each term.

◆授業方法 This course will be based on a topic-based syllabus where students will learn vocabulary. Language structures and functions commonly used related to the topics. Students will then perform activities which incorporate the language covered in the section such as group tasks or role plays. This course is open to all students; however, the language and activities are set for pre-intermediate to intermediate level language ability.

◆準備学修 Students are expected to bring a notebook, dictionary and a folder for notes.

◆授業計画（各 90 分）

1回目	Course Introduction,ice-breakers.	9回目	Topic3;continued. group activities;tasks and role-plays.
2回目	Topic 1:Obligations	10回目	Topic4:The Future, group activities;relevant vocabulary
3回目	Topic 1:continued. group activities;tasks and role-plays.	11回目	Future Plans and Prediction;
4回目	Topic 2:Suggestions	12回目	Topic 4;language sr
5回目	Topic 2: continued relevant vocabulary;language structures	13回目	Newspaper Talk.
6回目	Activity2 and introduction to presentations.	14回目	Preparation for Oral test and Exam
7回目	Presentations-s-Group format	15回目	Speaking test and Exam
8回目	Topic3;Conditionals		

◆教科書 No text will be required. Students will be provided with handouts.

◆参考書 None.

◆成績評価基準 Grades will be based on attendance, a final exam and a speaking test.

Students will be graded on their efforts given during their time in the course.

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆平安時代の皇位継承と神祇信仰

〔日本史特講Ⅰ〕

担当者：八馬 朱代

火曜日 4時限

◆学修到達目標 十一世紀に藤原道長の娘が一条・三条・後一条天皇の中宮となり、道長は権勢をほこっていました。一条天皇から藤原氏を外戚としない後三条天皇が即位するまでの皇位継承と摂関との関係、当該期の天皇の神祇信仰について説明していきます。一条天皇から白河天皇までの皇位継承と天皇の神祇信仰について考えることにより、天皇と摂関の関係、天皇と宗教との関わりについて説明できることを目標とします。

◆授業方法 配布したプリントを使用して講義をおこないます。適宜、授業で史料を読むので、史料の読み方を学んでもらいたい。また、授業で参考文献や史料を紹介するので、各自、図書館で手にとってみるよう心がけてください。

◆準備学修 『日本の歴史』、『日本の時代史』など日本史の概説書を事前に読んで、奈良・平安時代の政治や社会について通史的理解を深めておくようにしてください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	円融天皇の即位の状況	9回目	後一条天皇の即位について
2回目	円融天皇の八幡信仰	10回目	後朱雀・後冷泉天皇について
3回目	一条天皇の即位について	11回目	藤原頼通と藤原実資
4回目	一条天皇の神祇信仰について	12回目	後三条天皇について
5回目	藤原道長と藤原伊周	13回目	白河天皇の即位の状況
6回目	藤原定子と彰子について	14回目	白河天皇の神祇・仏教政策
7回目	天皇の后について	15回目	まとめ・最終試験
8回目	三条天皇と藤原道長		

◆教科書 **当日資料配布** 当日、プリントを配布します。

◆参考書 授業中に適宜紹介します。

◆成績評価基準 最終試験 70% 平常点・小テスト 30% ※毎回出席することを前提として、総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ English Communication

★★☆ [英語 B]

火曜日 5 時限

担当者 : M. ギルロイ

◆学修到達目標 To enhance students' reading, Listening comprehension, writing skills, enlarge vocabulary and boost general knowledge and selfconfidence.

Classroom activities are based on high-interest topics to keep students on task and motivated throughout.

◆授業方法 Students will work individually in groups and in pairs to complete in-class exercises Activities include reading, writing, listening, role play, discussions.

◆準備学修 Bring to Class 1.Text 2.Notebook 3.Dictionary 4.Homework (5. Enthusiasm).

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	Summer Review. Job Hunting in Tokyo.
2回目	Job Hunting - Discussing job hopes; interview questions.
3回目	A Home Away From Home :- Homestays; City + housing details.
4回目	Home :- Homestay application form
5回目	Studying English Abroad :- Considering studies abroad; discussing universities.
6回目	Study Abroad :- enrollment forms; personal assessment.
7回目	Speaking of Sports :- Identifying sports; Interpreting scores.
8回目	Sports:- Discussing sports; Asking + Answering questions.
9回目	The "Real"you:- Considering beliefs; describing others.
10回目	You :- Expressing beliefs; Detecting the truth.
11回目	Shopping for Bargains :- Shopping attitudes; items + prices.
12回目	Shopping :- discussing shopping; guessing items values + prices.
13回目	Everybody's Got a Story :- News interests; Understading stories.
14回目	Review + Exam.
15回目	The Future :- Considering the future + related needs.

◆教科書 当日資料配布 Supplementary Handouts.

丸沼 "Everybody's Talking" by Dale Fuller + Clyde W. grimm Macmillan Language House.

1,944 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 Grades will be allocated based on attendance, participation, completed assignments and a final exam.

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 550点レベルを目指してTOEICにチャレンジしましょう。(TOEIC A)

火曜日 5限時

担当者：町田 純子

◆学修到達目標 新TOEICの出題問題の傾向を探り慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力(Communicative Competence)を習得します。又同時に最低限の基礎文法知識の確認と定着や、語彙力増強、頻出会話表現を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップできます。

◆授業方法 前期後期の連続受験が望ましいです。リスニング(Part1～Part4)及びリーディング(Part5～Part7)の練習問題形式のテキストに沿い段階的に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図ります。又、音声の基礎知識を整理し、特有の話し言葉に慣れれます。毎回単語熟語力確認テストを行い基本語彙力の定着を図ります。ガイダンス時に実力診断テストを行います。(受講人数で変更有り)

◆準備学修 ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認の上、予習復習をしてください。
10回実施予定の英単熟語確認テストの準備として、初回講義前に購入してテストに備えてください。

◆履修条件 前期使用教科書の後半を使用しますのでUnit1～7までは既に終わらせてあることが前提での授業展開となります。

◆授業計画(各90分)

1回目	授業目標ガイダンスとTOEICに向けての戦略	9回目	Unit 10 ダブルパッセイジの攻略 語彙テスト7
2回目	レベルチェックテストと解説	10回目	Unit 11 接続副詞に強くなる 語彙テスト8
3回目	Unit 8 動詞の時制を見極める 語彙テスト1	11回目	Unit 12 NOT型設問のコツ 語彙テスト9
4回目	Unit 9 接続詞 v.s. 前置詞 語彙テスト2	12回目	まとめ 語彙テスト10
5回目	Handouts 文法 Part5 語彙テスト3	13回目	TOEIC 模擬テスト
6回目	リスニング Part1,2,3,4 の速聴基礎 語彙テスト4	14回目	TOEIC 模擬テスト
7回目	Handouts 読解 Part6,7 の速読攻略 語彙テスト5	15回目	まとめのテスト(達成度チェックテスト)
8回目	Handouts 読解 Part6,7 の速読攻略 語彙テスト6		

◆教科書 丸沼 『LEVEL-UP TRAINER for THE TOEIC TEST』(改訂版)

Ayako Yokogawa 他 センゲージラーニング 2,160円(税込)(送料300円)

丸沼 『データベース 4500 基本英単語・熟語 (New Edition)』桐原書店 1,069円(税込)(送料300円)

◆参考書 指定しません。

◆成績評価基準 全出席を前提に総合的にだします。

単語小テスト10回(40%)と期末試験(40%)宿題等の平常点(20%)を含みます。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆漢字に頼らないリスニング力

〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日5限

担当者：稻葉 明子

◆**学修到達目標** 漢字の意味がわかることは大きな強みでもあります。初期の関門を越えるためには足枷になります。対面式授業の利点を發揮して中国語の発音を完全に理解し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。語順・時量・アスペクト等、中国語特有の独特な世界観を、実際の場面から把握し、文法的理解へ繋げていきます。

◆**授業方法** 前期までに学習習慣が確立した人は、授業をペースメーカーにして毎週一定量の単語と言い回しを覚えていきましょう。あと一歩というひとも、毎回発音記号から始めますので挽回する時間は十分にあります。できれば本文を暗誦するくらいに読み込みます。

◆**準備学修** 授業で初見の場面を自力で把握する訓練をしますので、予習ではなく、復習と翌週の小テスト対策が毎回の家庭学習となります。教科書のさまざまな例文やドリルも、日本語に訳すのではなく、場面を想像しながら音が口をついてでてくるところまで練習してください。

◆**準備学修** 前期昼間スクーリング相当の基礎力が必要です。

◆**授業計画（各90分）**

1回目	第7課 家はどこですか	9回目	第15課 電話をかける
2回目	第8課 おいくつですか	10回目	第16課 道を尋ねる
3回目	第9課 今何時ですか	11回目	第17課 レストランにて
4回目	第10課 何時に起きますか	12回目	第18課 ホテルにて
5回目	第11課 これはいくらですか	13回目	第19課 インターネット
6回目	第12課 趣味は何ですか	14回目	第20課 中国語がわかりますか
7回目	第13課 大学生のアルバイト	15回目	教場試験
8回目	第14課 誕生パーティー		

◆**教科書 通材** 『中国語Ⅰ F10100』通信教育教材（教材コード 000456）3,150円（送料込）

〈この教材は市販の『中国語@キャンパス [会話編] 改訂版』関中研 朝日出版社と同一です。〉

◆**参考書** WEB 上に様々なトレーニング用コンテンツを UP します。音声を用いた復習が必要になります。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み、小テストなどにより総合的に評価します。試験は、リスニングが中心となります。受講前に予想できる内容ではなく、柔軟な発想が必要ですが、指示通りに取り組めば、難しいものではありません。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆新聞で読む 1930 年代の上海

〔東洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日 5 時限

田當者：高綱 博文

◆学修到達目標 『上海日日新聞』は、1930年代の上海の政治、経済、戦況、時事、さらには文化・社会事情を知るための貴重な史料である。同新聞を講読しながら史料批判などの歴史研究のための基礎力を養成します。

◆授業方法 テキスト『上海日日新聞』を講読しながら、受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。

◆準備学修 『上海日日新聞』を読み、研究発表のために参考文献や史料を調べて準備する。

◆履修条件 通年で履修することが望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	東洋文庫見学
2回目	卒論中間報告	10回目	テキスト講読・報告・討論
3回目	テキスト講読・報告・討論	11回目	テキスト講読・報告・討論
4回目	テキスト講読・報告・討論	12回目	テキスト講読・報告・討論
5回目	テキスト講読・報告・討論	13回目	テキスト講読・報告・討論
6回目	テキスト講読・報告・討論	14回目	テキスト講読・報告・討論
7回目	テキスト講読・報告・討論	15回目	まとめ
8回目	テキスト講読・報告・討論		

◆教科書 テキスト『上海日日新聞』のDVDを利用。

◆参考書 授業中に適時指示する。

◆成績評価基準 講讀・発表(60%), 平常点(20%), リポート(20%)。毎回出席することを前提として評価します。

注音

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆科学技術のリスクと倫理を考える

〔科学哲学〕

火曜日 5時限

担当者：江川 晃

◆学修到達目標 科学が技術と結合して「科学技術」へと変貌していく過程において、科学社会学は生じてきた。この講座の目標は、科学技術の先端化と社会的リスクの増大とが表裏一体であることに言及しつつ、科学技術の実践に必要不可欠な「倫理」あるいは「社会的説明責任」について考察できる能力を養うことにある。

◆授業方法 教科書とパワポによる講義、小レポート、発表、討論しながら、ダイナミックに行こう。

◆準備学修 教科書の第3部を熟読しておいてください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	1 科学哲学とは何か	9回目	(3) 科学の変貌と再定義
2回目	2 科学社会学の展開	10回目	4 科学技術の倫理
3回目	(1) 科学社会学の成立	11回目	(1) 地球環境問題
4回目	(2) 科学知識の社会学	12回目	(2) 科学技術の社会的責任
5回目	(3) サイエンス・ウォーズ	13回目	(3) 科学技術と公共性
6回目	3 科学の変貌と科学技術革命	14回目	5 3・11 以後の科学技術と人間
7回目	(1)「科学技術」という言葉	15回目	まとめと試験
8回目	(2) 科学技術革命		

◆教科書 丸沼 『科学哲学への招待』野家啓一著(ちくま学芸文庫) 筑摩書房 2015年 1,188円(税込)(送料215円)

◆参考書 指定しない。

◆成績評価基準 平常点・課題(50%) レポート(50%), 毎回出席を前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆広告の意義とプロモーション戦略を学ぶ

〔広告論〕

火曜日 5 時限

担当者：雨宮 史卓

◆学修到達目標 TVを見ない日はあっても広告を見ない日はないと言っても過言でないくらい、広告は我々の生活に深く浸透している。この事を踏まえ、企業の広告戦略を概観しながら、人々の欲求を創造するコミュニケーション活動である広告を生活全体や文化といった広い視点での理解を目指す。

◆授業方法 前期の広告論での授業における広告の基本的機能を元に、企業の広告戦略の実態を解説する。授業の後半では、その日の主要なテーマについてのアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修 前もってテキスト及び配布資料を読んでおくこと。ノートは必ず持参すること。

◆履修条件 前期の広告論と継続履修が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	授業の進め方 広告の種類	9回目	ブランド・イメージと広告
2回目	広告の機能と役割	10回目	広告と認知的不協和
3回目	プロモーション戦略と広告戦略	11回目	コモディティ製品の広告戦略
4回目	市場と広告	12回目	経験価値と広告の概念
5回目	ブランドの意義と役割	13回目	サービス産業の広告戦略
6回目	ブランドを軸とした広告戦略の展開	14回目	授業の総復習
7回目	ブランド・ライフサイクルと広告	15回目	テストと解説
8回目	広告コミュニケーションの考え方		

◆教科書 通材 『広告論 S30900』通信教育教材（教材コード 000538）2,450 円（送料込）※学修指導書付。
〈この教材は市販の『ブランド・コミュニケーションと広告』雨宮史卓著 八千代出版社と同一です。〉

〔当日資料配布〕 必要に応じて資料を配布する。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

【水曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ーブ 講ン
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
1時限	AJ11	経済学	田村 和彦	2	B11800	経済学	×	1年		×
	AJ12	英語基礎A	小澤 賢司	1	C10600	英語基礎	×	1年	・英文学専攻は申込不可。	
	AJ13	考古学入門	浜田 晋介	2	Q20400	考古学入門	×	※	・史学専攻は1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AJ14	簿記論I	山元 俊一	2	S20300	簿記論I	×	※	・商学部は1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
2時限	AJ21	英語C	森 晴代	1	C10100	英語I	×	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英語II				
					C10300	英語III				
					C10400	英語IV				
	AJ22	政治学特殊講義I・II	秋山 和宏	2	L311S0	政治学特殊講義I	×	2年	・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					L312S0	政治学特殊講義II				
	AJ23	商法I	南 健悟	2	K30500	商法I	×	2年		
	AJ24	英語学演習I～III	真野 一雄	1	N401S0	英語学演習I	×	3年	・英文学専攻のみ申込可。 ・I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					N402S0	英語学演習II				
					N403S0	英語学演習III				
3時限	AJ31	文学	木村 一	2	B11300	文学	×	1年		
	AJ32	法学A	武田 茂樹	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)	×	1年		
	AJ33	英語D	北原 安治	1	C10100	英語I	×	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英語II				
					C10300	英語III				
					C10400	英語IV				
	AJ34	刑法I	岡西 賢治	2	K20300	刑法I	×	※	・法律学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AJ35	英語音声学	森 晴代	2	N30600	英語音声学	×	2年		
	AJ36	東洋史特講I	堀井弘一郎	2	Q31000	東洋史特講I	×	2年		
4時限	AJ41	歴史学A	渡邊 浩史	2	B11100	歴史学	×	1年		
	AJ42	憲法	名雪 健二	2	K20100	憲法	×	※	・法学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AJ43	国語学概論	保科 恵	2	M20300	国語学概論	×	※	・国文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
					M30900	国文学講義V(近代)				
	AJ44	国文学講義V(近代)	山崎真紀子	2	P30800	日本思想史I	×	2年		
	AJ45	日本思想史I	島田健太郎	2	Q202S0	東洋史入門	×	2年		
	AJ46	東洋史入門	綿貫 哲郎	2	R312S0	アメリカ経済論	×	2年		
	AJ47	アメリカ経済論	羽田 翔	2						

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【水曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受オーブ 講ン
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
5 時 限	AJ51	歴 史 学 B	堀井弘一郎	2	B11100	歴 史 学	×	1 年		
	AJ52	文 化 史	渡邊 浩史	2	B11200	文 化 史	×	1 年		
	AJ53	英 語 E	石川 勝	1	C10100	英 語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II		2 年		
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AJ54	国文学基礎演習	木村 一	1	M317S0	国文学基礎演習	×	2 年	・国文学専攻のみ申込可。	×
	AJ55	情 報 概 論 A	戸塚 英臣	2	R32300	情 報 概 論	×	2 年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆ 講座内容（シラバス）

◆ 少子高齢化時代の経済活動—グローバル化と国民経済— 〔経済学〕

水曜日 1 時限

オープン受講：不可 担当者：田村 和彦

◆ 学修到達目標 濟諸問題についての理解力・思考力を向上させるためマスメディアを通じて経済事象に关心を持つこと。

◆ 授業方法 講義方式。

◆ 準備学修 各自教科書を読み、十分に予習をすること。

◆ 授業計画（各 90 分）

1回目	完全競争市場	9回目	国民所得の計算①
2回目	不完全競争市場	10回目	国民所得の計算② GNP と GDP
3回目	貨幣経済①	11回目	ケインズ型消費関数
4回目	貨幣経済②	12回目	国民所得の決定・所得・格差
5回目	マクロ経済学の定義	13回目	投資乗数・乗数効果・公共投資
6回目	国民経済の構造と循環	14回目	景気循環
7回目	国民資本と国民所得 (国民所得の登場とその時系列・時間軸)	15回目	経済の情報化とグローバル化・まとめ
8回目	国民所得の定義		

◆ 教科書 通材 『経済学 B11800』 通信教育教材（教材コード 000450）2,250 円（送料込）

丸沼 『経済学』 濑川浩・田村和彦編著 桜門書房 3,024 円（税込）（送料 300 円）

テキストは、上記2冊を必ず持参のこと。

◆ 参考書 なし。

◆ 成績評価基準 最終試験。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※ 授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の基礎を徹底的に学ぶ－文法編－

★★★〔英語基礎 A〕

水曜日 1 時限

担当者：小澤 賢司

◆学修到達目標 本授業では、今後の英語学修の土台となる「基礎・基本」をしっかりと学ぶことを目標としています。いかなる学修においても「基礎・基本」はとても重要です。これを疎かにするとその後の「伸び」はあまり期待できません。本授業で扱う内容は中学卒業程度の文法事項、及び英文ですが、それらは決して「楽」や「易」とイコールではありません。この点には十分留意して学修に臨んでください。後期に当たる本授業では、英語の「文法」を中心に学修していきます。【本授業は昼間（前期）に開講した「英語基礎－英語の基礎を徹底的に学ぶ－品詞編－」と併せて受講することが望ましい】

◆授業方法 授業計画にある品詞を 1 つ 1 つ丁寧に解説し、それらが用いられた英文とともに学修することで適切な理解向上を図ります。なお、受講者の様子（理解度）を見ながら授業を進めていきますので、以下の授業計画はあくまで「目安」とお考えください。

◆準備学修 基本的に「予習」の必要はありません。その代わり、「復習」を「徹底して」行ってください。また、毎授業始めには復習テストを行います。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス 「品詞」と「文法」 ※ 1回目より内容に入ります（欠席しないように）	9回目	「受動態」
2回目	「現在形」	10回目	「現在完了」 その 1
3回目	「過去形」	11回目	「現在完了」 その 2
4回目	「単純形」 (He plays tennis.) vs. 「進行形」 (He is playing tennis.)	12回目	「間接疑問文」
5回目	「命令文」 (Change here to the Yamanote Line. の意味)	13回目	リスニング力向上に向けて
6回目	「疑問詞疑問文」	14回目	これまでの復習（予備日）
7回目	「目的語と補語（文型）」	15回目	テスト及びまとめ
8回目	「比較」		

◆教科書 **当日資料配布** 適宜、プリントを配布します。

◆参考書 丸沼 『一億人の英文法』 大西泰斗・ポール・マクベイ著 東進ブックス 1,944 円（税込）（送料 450 円）

丸沼 『英文法ビフォー&アフター（普及版）』 豊永彰著 南雲堂 1,512 円（税込）（送料 450 円）

丸沼 『ジーニアス総合英語』 中邑光男・山岡憲史・柏野健次 大修館 1,620 円（税込）（送料 350 円）

◆成績評価基準 授業への取り組み、及びテストにより総合的に評価します。

※毎授業始めに復習テストを行いますので、遅刻をしないよう注意してください。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆考古学とはどのような学問か

〔考古学入門〕

水曜日 1時限

担当者：浜田 晋介

◆学修到達目標 考古学の学問内容と、どのような方法で現在の考古学的成果が提出されているのかを、理解することができる。(前期とは内容が異なります)

◆授業方法 授業で配布するプリントと、授業ごとに映写する画像を用いて、講義形式ですすめていく。

◆準備学修 考古学とはどのような学問なのか、を事前に調べておくこと。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	「考古学入門」を学ぶために — 後期の授業の進め方 —	9回目	自然科学的方法の援用2 — 生産地推定 —
2回目	考古学とは何か — 歴史学か人類学か —	10回目	自然科学的方法の援用3 — 環境と生業の復原 —
3回目	研究方法の変化 — 戦前の皇国史觀と唯物史觀 —	11回目	現代と考古学1 — 遺跡は誰のものか：遺跡保存の歴史 —
4回目	研究方法の変化 — 戦後の唯物史觀とプロセス考古学 —	12回目	現代と考古学2 — 埋蔵文化財と開発 —
5回目	論争と事件1 — 「ミネルヴァ論争」 —	13回目	現代と考古学3 — 過去の災害をさぐる —
6回目	論争と事件2 — 陵墓比定の経緯と問題点 —	14回目	授業の理解度の把握と解説
7回目	論争と事件3 — 前期旧石器遺跡捏造事件 —	15回目	考古学入門まとめ — 後期のまとめ —
8回目	自然科学的方法の援用1 — 放射性炭素年代測定法 —		

◆教科書 当日資料配布 当日プリント配布

◆参考書 丸沼 『弥生文化読本』 浜田晋介 六一書房 2018年2月刊行 3,240円(税込)(送料350円)

◆成績評価基準 評価方法：数回に一度行う小テストと理解度をはかるテストを評価の基準とします。

評価割合：小テスト 50%，理解度をはかるテスト 50%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆初学者のための簿記入門コース

〔簿記論Ⅰ〕

水曜日 1 時限

担当者：山元 俊一

◆学修到達目標 初めて簿記を勉強する方を対象に、簿記一巡の流れを理解してもらい、最終的には、貸借対照表・損益計算書を作成できるようになることが目標です。そのためには、簿記の仕組みや帳簿記入・決算などの内容を理解することが重要です。前期のみの受講あるいは後期のみの受講も可能です。ただし、簿記検定3級程度の内容を概ね理解されたい方は通年の受講が望ましいと思われます。

◆授業方法 テキストの内容に沿って、内容を解説していきたいと思います。簿記は「習うより慣れろ」と言われています。そこで、講義ばかりでなく、実際に問題を解いてもらい、実践力を見につけてもらいたいと思います。

◆準備学修 簿記の場合は「ローマは1日にしてならず」という言葉がピッタリとあてはまります。継続的に練習を積み重ねていくことによって、身についていくものです。ですので、毎回の復習は欠かさずに行ってください。電卓は必ず持参してください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	前期の復習 ①	9回目	伝票 ①
2回目	前期の復習 ②	10回目	伝票 ②
3回目	受取手形と支払手形	11回目	財務諸表 ①
4回目	有価証券	12回目	財務諸表 ②
5回目	固定資産	13回目	財務諸表 ③
6回目	貸倒損失と貸倒引当金	14回目	財務諸表
7回目	資本金と引出金	15回目	後期のまとめ
8回目	収益と費用		

◆教科書 丸沼 『検定簿記講義 3級商業簿記 平成30年度版』渡部裕亘・片山覚・北村敬子 中央経済社
756円(税込)(送料300円)

丸沼 『検定簿記ワークブック 3級商業簿記 第4版』渡部裕亘・片山覚・北村敬子 中央経済社
756円(税込)(送料300円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 原則として、授業の出席と試験の結果により総合評価を行います。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆理解言語「読む、聞く」をしっかり勉強しよう

★★☆ [英語 C]

水曜日2時限

担当者：森 晴代

◆学修到達目標 英語の4技能のうち、理解言語である「読む、聞く」を繰り返し練習することにより、英語そのものに慣れ、直聴直解を目指します。表現言語である「話せる、書ける」は、理解言語を相当有していることが前提となります。具体的にはネイティヴスピーカーが日常使用する500語を身につける、1分間に150語の音読及び内容把握を目標とします。また、前期のみの受講、後期のみの受講も可能ですが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法 2回の授業で1unit進めます。本文のリスニング、和訳、内容のディスカッション、質疑応答、音読（オーバーラッピング、シャドーイング）をグループワークを取り入れて行います。グループはクラスの人数により変更しますが4~6名で1グループを予定しています。辞典は必ず毎回持参してください。小テストは各unit終了時にそのunitの書き取り、もしくはパッセージの要約のいずれかを行います。

◆準備学修 必ず予習してきてください。専用のノートをご準備ください。自分がどの部分でつまづいているのかを把握してから授業に臨むと理解しやすくなります。1日に少しの時間でよいので音読練習、リスニング練習を行ってください。難しいスペルの単語は練習しておきましょう。

◆授業計画（各90分）

1回目	リスニングと音読の関係性の説明 Unit 8 : Sugar Guidelines 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	9回目	Unit 11 の補足 小テスト Unit 12: Training to Be a Santa 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
2回目	Unit 8 : Sugar Guidelines リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	10回目	Unit 12: Training to Be a Santa リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
3回目	Unit 8 の補足 小テスト Unit 9: Trying to Fill Cinemas with 4DX 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	11回目	Unit 12 の補足 小テスト Unit 13: Can a Job Make a Person Grow Old Faster? 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
4回目	Unit 9: Trying to Fill Cinemas with 4DX リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	12回目	Unit 13: Can a Job Make a Person Grow Old Faster? リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
5回目	Unit 9 の補足 小テスト Unit 10: New Technology for the 2020 Tokyo Olympics 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	13回目	Unit 13 の補足 小テスト Unit 14: End of a Circus 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
6回目	Unit 10: New Technology for the 2020 Tokyo Olympics リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	14回目	Unit 14: End of a Circus リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
7回目	Unit 10 の補足 小テスト Unit 11: New Technology in Medicine 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	15回目	Unit 14 の補足 小テスト 後期授業のまとめ
8回目	Unit 11: New Technology in Medicine リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング		

◆教科書 丸沼 『CNN 10 – Student News – vol. 1』 関戸冬彦他 4名著 朝日出版社
1,944円（税込）（送料300円）

◆参考書 授業中に紹介します。

◆成績評価基準 平常点（20%） 小テスト（20%） 音読発表（10%） 試験（50%）
毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本政治の今、これから（2）

〔政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

水曜日2時限

担当者：秋山 和宏

◆学修到達目標 激動する世界に直面してわが国、わが国民も早急な対応を迫られている。こうした問題意識を明らかにするため日本政治の歴史・実態・問題点を理解し、あるべき姿を早急に考える力を身につけることを目指す。本講においては日本政治の「しくみ」と「道筋」について学ぶ。

◆授業方法 主に講義形式で進めるが質疑応答を交えたものにしたい。

◆準備学修 ①高等学校の「政治経済」の教科書等で基本事項を押さえておく。
②メディアの提供する政治や経済に関する番組を視聴する。

◆授業計画（各90分）

1回目	日本政治の諸アクター（1）概観	9回目	日本政治過程（1）選挙過程
2回目	日本政治の諸アクター（2）有権者<1>	10回目	日本政治過程（2）立法過程
3回目	日本政治の諸アクター（2）有権者<2>	11回目	日本政治過程（3）予算編成過程
4回目	日本政治の諸アクター（3）政治家と官僚<1>	12回目	日本政治過程（4）中央・地方関係
5回目	日本政治の諸アクター（3）政治家と官僚<2>	13回目	わが国の政治の問題点と課題（1）問題の所在
6回目	日本政治の諸アクター（4）政党	14回目	わが国の政治の問題点と課題（2）課題についての考察
7回目	日本政治の諸アクター（5）圧力団体	15回目	わが国の政治の問題点と課題（3）展望・まとめ
8回目	日本政治の諸アクター（6）マスメディア		

◆教科書 丸沼 『新編 現代政治過程』 秋山和宏・照屋寛之編著 三和書籍 2,808円（税込）（送料300円）
<上記の本は9月下旬発売予定です。>

◆参考書 適宜紹介する。

◆成績評価基準 試験（70%）とレポート（30%）で評価。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆商取引法の基礎を学ぼう

〔商法 I〕

水曜日 2 時限

担当者：南 健悟

◆学修到達目標 この講義では、商法という法律分野のうち、商取引法に関する「商行為法」と呼ばれる分野について扱います。この講義において受講生は、商法が定める商行為の類型とそこで問題となる権利義務関係を適切に把握し、ビジネスパーソンとして、最低限の商取引に関する法律について理解し、そこで生じる法的問題について考える能力を備えることが目標となります。

◆授業方法 この科目では、原則として配付資料及び通信教材に基づいて講義を行う。通信教材で不足している部分については配付資料を適宜参照して頂きます。講義形式ではあるものの、講義中適宜、質問等を行うため、積極的に参加することが望されます。

◆準備学修 商法という法律は、抽象的な内容が多く、講義だけでは身近に感じにくいものと思われる。例えば、準備学修においては、通信教材を読むだけではなく、新聞やニュース等を参考しながら、具体的なビジネス取引を想起したり、自身の取引経験（この講義では、バス・鉄道・航空機による運送契約、ホテルの宿泊契約等も扱う）を想起したりしながら講義に臨むことが必要です。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	オリエンテーション—前半の振り返り	9回目	運送契約総論—一人や物を運ぶ契約
2回目	商事売買—商人同士の売買契約	10回目	陸上運送①—運送品がなくなったら？
3回目	交互計算—商取引決済の特殊な方法	11回目	陸上運送②—旅客運送・鉄道運送
4回目	匿名組合—企業組織の一種	12回目	航空運送—飛行機で運ぶ
5回目	仲介取引①—仲立契約とは？	13回目	海上運送①—船で運ぶ
6回目	仲介取引②—問屋・運送取扱人とは？	14回目	海上運送②—船の交通事故
7回目	施設取引①—倉庫営業	15回目	まとめ
8回目	施設取引②—場屋営業		

◆教科書 通材 『商法 I K30500』通信教育教材（教材コード 000551）3,850 円（送料込）※学修指導書付。
〈この教材は市販の『現代商取引法』藤田勝利ほか編 弘文堂と同一です。〉

◆参考書 丸沼 『商法 I—総則・商行為（第 5 版）』落合誠一ほか 有斐閣 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 講義への積極的な参加、各回の小テスト、最終試験等により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆「ことば」の世界旅行

〔英語学演習Ⅰ～Ⅲ〕

水曜日2時限

担当者：真野 一雄

◆学修到達目標 「ことば」について、すなわち英語学・言語学（・日本語学）の基礎的知識を修得し、言語について自ら考察できるようにする。

◆授業方法 テキスト本文の解説、補足説明を行います。必要に応じて担当講師が用意する練習問題を行います。

◆準備学修 毎回、テキストを読み、理解できるところ、できないところを自覚しておいてください。演習問題の解答も用意しておくように。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	第 8 章 ことばと文化 (1) ことばが映す文化	9回目	第 12 章 ことばと情報構造 (1) 主題と題述
2回目	第 8 章 ことばと文化 (2) ことばと思考	10回目	第 12 章 ことばと情報構造 (2) 情報構造の流れ
3回目	第 9 章 ことばの誕生 (1) ことばの進化論	11回目	第 13 章 ことばの解釈 (1) 語用論とは何か
4回目	第 9 章 ことばの誕生 (2) ことばの特性と進化論	12回目	第 13 章 ことばの解釈 (2) 言葉の解釈の様々な例
5回目	第 10 章 ことばの獲得 (1) ことばの獲得の諸相	13回目	第 14 章 ことばと認知 (1) 視覚による認知とことば
6回目	第 10 章 ことばの獲得 (2) 規則性の発見	14回目	第 14 章 ことばと認知 (2) 認識の仕方とことば
7回目	第 11 章 ことばと脳 (1) 脳の構造	5回目	試験+その解説
8回目	第 11 章 ことばと脳 (2) ことばの臨界期		

◆教科書 **丸沼** 『[入門] ことばの世界』 大修館書店 1,944 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 **通材** 『英語学概説 N30700』 通信教育教材（教材コード 000400）3,400 円（税込）
<この教材は市販の『英語学入門』安藤貞雄・澤田浩美編著 開拓社と同一です。>

丸沼 『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版 1,944 円（税込）（送料 300 円）
(※自学用で、授業中に参照することはできません。)

◆成績評価基準 試験を中心に受講状況その他を加味して評価の予定。6 回以上の欠席者は受験資格を失います。
(試験は途中退出なしです)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆古典作品から人々を読む（『源氏物語』編）

〔文学〕

水曜日 3 時限

担当者：木村 一

◆学修到達目標 本講座は前期からの「文学」の同一の流れの中にあり、前期からの継続において講義を展開していく。後期においては、『源氏物語』を読む。対象とする巻は「桐壺」と「葵」とする。物語世界の時代背景、当時の生活様式が当然把握されていることが理想である。ゆえに、その理解を前提に物語を読み進めていく。物語ということの捉え方、『源氏物語』についての基本的な読み方ができるようになる。

◆授業方法 講義形式での授業を行う。指定テキストの解説とあわせて、実際に文学作品を読んでいく。ただし、ただ文学作品の内容を捉えることが目的なのではない。受講生諸君に積極的に思考を促し、表現してもらうために授業時間内に複数回、小課題を課す。課題のタイミングを逃さないこと。そのために積極的にノートを執ること。

◆準備学修 指定されたテキストの内容とその流れとを事前に把握しておくこと。授業範囲の専門用語を事前に把握しておくこと。毎回の授業後、各市のノートとテキストを基とし、整理復習をしっかりとこなし、次の授業につなげる努力をすること。次回の予告を聞き逃さず、展開に即したテキスト（あるいはプリント）の内容把握と作品内容の読み込みを行うこと。

◆履修条件 前期のみの受講・後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	導入・どうすすめるか・諸注意	9回目	光源氏の結婚
2回目	『源氏物語』入門	10回目	桐壺巻以降葵巻まで
3回目	桐壺巻 読み始め	11回目	葵上と六条御息所
4回目	一夫多妻制と後宮という空間	12回目	斎院御禊の日と車争い
5回目	第二皇子の誕生	13回目	物の怪出現の背景
6回目	「更衣」の死とタブー	14回目	物語とは
7回目	第二皇子の臣籍降下	15回目	試験
8回目	光源氏の誕生		

◆教科書 当日資料配布 当日プリント配布。

通材 『国文学基礎講義 M20100』通信教育教材（教材コード 000519）3,350 円（送料込）

※学習指導書付。

〈この教材は市販の『Next 教科書シリーズ日本古典文学』近藤健史編 弘文堂と同一です。〉

◆参考書 電子辞書があると便利（電子端末＝スマホ・タブレット不可）。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提とし、講義への取り組み・小課題の成果により総合的に評価する。

受講状況（10%）・小課題（10%）・試験（80%）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆法の歴史を学ぼう【2】現代世界と法の行方【後期】

〔法学 A〕

水曜日3時限

担当者：武田 茂樹

◆学修到達目標 前期に法の全体像の歴史を立憲主義の成立を軸に考察しました。そこで、後期は、その知識を前提にして、近代法システム、現代法システムについてより深く理解を進め、今日の世界が直面している法的問題について検討します。急激なグローバル化が進む現代世界の構造変化に対する法的視点からの認識を形成をめざし、今後の人類の文化のあり方や地球環境の問題に対する総合的な探求力のある知性の育成を学習目標とします。

◆授業方法 この講義は、法学の前期の受講を基本的前提としていますが、個人的事情により前期の講義を受講できなかつた後期のみの受講者にも理解できるように、講義の過程で、前期の内容について重複的に話すことがあります。その場合に、シラバスと若干相違しますが、法学の理解を深めるものと思って焦らずに聴いてください。この講義は、法の未来にも言及するものであり、確定的な知識の学習だけでなく、学生諸君の個人としての主体的な考え方の育成を目標として講義を進めていますので、楽しんで講義に積極的に参加してください。

◆準備学修 この講義は、前期の講義を前提としているので、前期に学んだことや疑問に思ったことを本を読んで調べたりして、理解と問題意識を深めておいてください。しかし、現代世界という流動的な世界における法のあり方が課題なので、準備学修としては、興味を持った学問的課題に取り組む開かれた知性の形成に力を入れてください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	【法の歴史的全体像と役割】 現代世界における法学の学び方を考える。従来の学問的閉鎖性を超えて、総合的な知性の在りかたを探求する。	9回目	【現代世界と法的課題】 現代の国際社会における法の役割について。急激なグローバリズムの進展によって国家の閉鎖性が問題となっている。国際平和の在り方を考える。
2回目	法とは何か、法の全体像を考える。	10回目	人類の構築してきた文化は、地球環境に大きな影響を与えはじめている。地球上に存在する生命体の尊厳が守られるための法の果たすべき役割を考える。
3回目	法の歴史的全体像を考える。	11回目	現代の科学技術の驚異的な発展は、生命存在の根本的な変化をもたらしつつある。法はどのように現代の科学技術の発展と向かい合うべきかを深く考えるとある。
4回目	近代法の意義について、近代立憲主義を根幹に理解する。	12回目	宇宙開発が現実的な段階になってきている。人類と地球で生きる生命体の未来ために、平和で豊かな宇宙開発を進めるのに法の果たすべき役割は何か。
5回目	資本主義経済と近代法システムの関連性を学ぶ。	13回目	人類の未来は、激動の変化が予測される。そのような未来に対して、人類はどのように歩みを進めるべきか。その時、法の果たすべき役割はなにか。
6回目	近代法システムに内在する社会矛盾とその顕在化を考える。	14回目	これらの課題は、人類が直面している現実的問題であり、学生諸君と共に対話し、考えて行きたいと思います。
7回目	近代法システムから現代法システムへの移行を考える。	15回目	講義のまとめ・試験
8回目	現代法システムの構造を考える。		

◆教科書 なし。

◆参考書 授業中に提示する。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提として、試験 (80%)、平常点 (20%) で評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英文の基本構造を理解する

★★☆〔英語 D〕

水曜日3限

担当者：北原 安治

◆学修到達目標 五文型に基づき、英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになることを目標とする。前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 本文のみやり練習問題はやらない。ノート検査は抜き打ちで行うのでかならずノートは書いておく。および板書事項を正確にすべて写していないノートは不可とし単位を与えない。後期は前期の続きからやる。

◆準備学修 予習段階で英文を8行ほどの間隔でノートに写す。板書のときは英文の下に訳を書くが、ノートの見開きの左のページに英文を写し、右のページに訳をつけても良い。単語を調べてくること。毎回和訳小テストをするので辞書を持ってくること。教科書を毎回持ってくること。15回目の試験は辞書やノートの持ち込み不可。

◆授業計画（各90分）

1回目	第5章（米2）の英文構造と和訳	9回目	第5章（米2）の英文構造と和訳
2回目	第5章（米2）の英文構造と和訳	10回目	第5章（米2）の英文構造と和訳
3回目	第5章（米2）の英文構造と和訳	11回目	第5章（米2）の英文構造と和訳
4回目	第5章（米2）の英文構造と和訳	12回目	第5章（米2）の英文構造と和訳
5回目	第5章（米2）の英文構造と和訳	13回目	第5章（米2）の英文構造と和訳
6回目	第5章（米2）の英文構造と和訳	14回目	第5章（米2）の英文構造と和訳
7回目	第5章（米2）の英文構造と和訳	15回目	まとめと試験（持ち込みなし）
8回目	第5章（米2）の英文構造と和訳		

◆教科書 丸沼 『Major Countries in the World～世界の主要国～』
小泉和弘編 鳳書房 Tel/Fax (03) 3483-3723 1,944円（税込）（送料300円）

◆参考書 丸沼 『ロイヤル英文法』(旺文社) この本は講義では使わない。1,944円（税込）（送料450円）
辞書は毎回持ってくること。辞書を持って来ているか検査をする。

◆成績評価基準 試験、実力テストなどの総合評価。
皆出席を望む。欠席1回で何点か引く。出席点とノート点は加点しない。
出席してノートを取るのは当然のことだからである。
抜き打ちの実力テストも行う。板書事項を全部書いているかを調べる。
ノート検査をして不備の者は不合格。テキストを買っていないものも不可とする。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆犯罪と刑罰の基礎を理解する

〔刑法 I〕

水曜日3時限

担当者：岡西 賢治

◆学修到達目標 犯罪と刑罰に関する基礎的知識を習得し、人を処罰することについて自らの考えを持ち、具体的な事件や現象を理解し検討・批判する能力を修得する。学習にあたっては、専門用語や概念を覚えるだけではなく、それらを使って現実の問題に取り組めるような能動的姿勢が身につくようにする。

◆授業方法 講義形式を中心とするが、必要に応じて個々の意見を求めることがや、特定のテーマを設定して全体で議論することもある。

◆準備学修 基本となる専門用語や概念については、授業ごとにおおまかに理解しておく。また、できれば関連する判例などについても調べておく。

◆履修条件 前期・後期を通じた積み重ね式の講義のため、連続履修を条件とする。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	違法とは何か：違法性の本質	9回目	未遂犯：実行の着手、不能犯
2回目	正当行為：法令行為と正当業務行為	10回目	障害未遂と中止未遂
3回目	緊急行為：正当防衛と緊急避難	11回目	共犯とは何か：共犯の処罰根拠、承継的共犯、片面的共犯
4回目	超法規的違法性阻却事由	12回目	共同正犯と共謀共同正犯
5回目	責任とは何か：責任主義、責任の本質、責任能力	13回目	教唆犯と従犯
6回目	故意とは何か：体系的地位、種類	14回目	共犯の諸問題
7回目	錯誤論：事実の錯誤と違法性の錯誤	15回目	試験
8回目	過失犯論：予見可能性と回避義務		

◆教科書 1回目の講義において指定する。

◆参考書 丸沼 『ホーンブック新刑法総論 改訂2版』 船山泰範 北樹出版 2,808円（税込）（送料350円）

丸沼 『最新重要判例250刑法』 前田雅英 弘文堂 2,700円（税込）（送料350円）

◆成績評価基準 試験（60%）平常点（20%）小テストまたはレポート（20%）

平常点は質問に対する答えや討論などでの発言によって評価する。また、講義中のどこかで小テストまたはレポートを計2回実施する（10ポイント×2）。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の音声現象の基礎理解

〔英語音声学〕

水曜日3限

担当者：森 晴代

- ◆学修到達目標 1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解する。
2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を追及する。

◆授業方法 英語音声学の観点から後期は子音、音声変化、イントネーションの説明を行います。毎週小テストを課して習得状況を確認します。練習問題を適宜配布し問題を解きながら難しい箇所の補足説明をします。8名から10名のグループを作り、発音練習への取り組みやプリント作成を行います。全員参加型の授業を目指します。

◆準備学修 プリントには専門用語が数多くでてきますので、前もって読んでおきましょう。発声器官の名称は、子音の勉強につながります。理解しておきましょう。また、辞典を引く際発音記号を意識する習慣がついていると良いと思います。授業には必ず辞典を持参してください。

◆授業計画（各90分）

1回目	子音の分類説明	9回目	音声変化：脱落現象の説明及びリスニング演習
2回目	閉鎖音の説明及び発音練習	10回目	音声変化：連結現象の説明及びリスニング演習
3回目	摩擦音の説明及び発音練習	11回目	音声変化：同化現象の説明及びリスニング演習
4回目	破擦音の説明及び発音練習	12回目	イントネーションの説明及び文の発音練習(長文)
5回目	鼻音の説明及び発音練習	13回目	文（長文）の発音練習及び練習問題1
6回目	流音、半母音の説明及び発音練習	14回目	文（長文）の発音練習及び練習問題2
7回目	子音連続の発音練習	15回目	発音テスト
8回目	子音の演習問題配布及び解答		

◆教科書 当日資料配布 プリント使用

◆参考書 丸沼 『英語の音声を科学する』 大修館書店 新装版 CD付 川越いつえ著 2,592円(税込)(送料300円)
*授業では使用しません。

◆成績評価基準 平常点(20%)、小テスト(20%)、発音テスト(10%)、試験(50%)

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆越境する人びと－引揚げ・留用・シベリア抑留－

〔東洋史特講Ⅰ〕

水曜日 3 時限

担当者：堀井 弘一郎

◆学修到達目標 戦前、国境を越えて海外に渡った日本人の軍人や民間人などは600万人を超えていた。終戦とともに彼らの多くは再び国境を越えて引揚げたり、残留や留用を余儀なくされたり、あるいは異郷の地シベリアに抑留されたりするなど、様々な苦難を強いられた。本講義ではそうした人びとに焦点をあてながら、戦争の本質や背景を考察する。それは、現代の複雑な日中関係、東アジア国際関係を理解する歴史的素養を高めることになろう。

◆授業方法 毎回レジュメや資料プリントを用意し、それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際、受講者からの質疑 や希望者による研究発表等を取り入れていく。また、視聴覚教材を活用したり、史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆準備学修 日中戦争や太平洋戦争についての基礎的な理解が必要となるので、事前にそれに関する予備知識を得ておくことが望ましい。また、現代の日中関係や東アジア国際関係の問題にもつながるテーマなので、日頃から中国や東アジアの動向に関する本や新聞などに目を通すことを心がけたい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス（近現代日中関係史概観）	9回目	日本兵たちの帰還（復員）
2回目	日中戦争とアジア太平洋戦争	10回目	国民党・共産党に留用された人びと
3回目	満州国と移民政策	11回目	天水・蘭州・鄭州に留用された人びと
4回目	満州からの引き揚げと残留孤児	12回目	「満州」引揚げ体験者の講演
5回目	中国・台湾からの引揚げ	13回目	受講生（希望者）による発表
6回目	朝鮮からの引揚げ	14回目	アメリカ・ブラジル移民の戦中・戦後
7回目	シベリア抑留（1）	15回目	「まとめ」と「試験」を行う
8回目	シベリア抑留（2）		

◆教科書 指定しない。

◆参考書 丸沼 『中国残留邦人』 井出孫六 岩波新書 799円（税込）（送料 215円）

丸沼 『シベリア抑留』 栗原俊雄 岩波新書 756円（税込）（送料 215円）

『満州から集団連行された鉄道技術者たち』 堀井弘一郎 創土社

〈上記の本は品切れのため、図書館等を利用してください。〉

◆成績評価基準 平常点 20%，試験 80%で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆『君の名は。』の歴史学

〔歴史学 A〕

水曜日 4 時限

担当者：渡邊 浩史

◆学修到達目標 2016～17年にかけて大ヒットした新海誠監督のアニメ映画『君の名は。』を題材に、歴史学やその周辺分野の最新の成果を学ぶことで、歴史学という学問はどのような学問であるかを理解できるようになる。

◆授業方法 講義形式で行う。適宜プリントやDVDなどを使用し、受講生の理解の一助とする。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆準備学修 『君の名は。』は最低限観ておく必要がある。扱う材料はアニメ映画なので平易に見えるが、内容はかなり難しいと思って受講してほしい。かなり広範な知識を必要とする内容だと覚悟して受講してもらいたい。生半可な気持ちでは授業について行けない可能性がある。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	はじめに 星の物語	9回目	神社
2回目	夢	10回目	御神体
3回目	夢	11回目	酒
4回目	巫女またはシャーマン	12回目	酒
5回目	巫女またはシャーマン	13回目	星
6回目	巫女またはシャーマン	14回目	星
7回目	神社	15回目	おわりに
8回目	神社		

◆教科書 使用しない。

〔当日資料配布〕 適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 平常点 20%, 試験 80%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆憲法を考える

〔憲法〕

水曜日4時限

担当者：名雪 健二

◆学修到達目標 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、憲法を知ることは、われわれが国家生活をしていく上で極めて重要である。

憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆授業方法 憲法の解釈論が中心となる。また、生きた憲法を理解するために、判例を取り上げる。そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

◆準備学修 授業計画が1回から15回まで記載されているので、授業を理解する前提として、教科書をよく読んでおくこと。授業の範囲内における専門用語については、法学（法律学）辞典を引き、その意味を正確に理解しておくこと。

◆授業計画（各90分）

1回目	国会の性格、国会の組織	9回目	内閣の総辞職、内閣の権能
2回目	国会議員の特典、国会の活動	10回目	内閣の責任、裁判所の性格
3回目	国会の活動、国会の権能	11回目	最高裁判所
4回目	国会の権能	12回目	最高裁判所
5回目	議院の権能	13回目	下級裁判所、司法権の独立
6回目	議院の権能	14回目	財政、地方自治
7回目	内閣の性格・組織	15回目	後期の総括
8回目	内閣総理大臣の地位・権能		

◆教科書 丸沼 『日本国憲法』 名雪健二 有信堂 3,780円（税込）（送料350円）

◆参考書 丸沼 『憲法第6版』 芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店 3,348円（税込）（送料450円）

◆成績評価基準 授業態度・小テスト(2回)・スクーリングの最終試験により総合的に判断する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆国語学がどういう学問かを知る

水曜日 4 時限

〔国語学概論〕

担当者：保科 恵

◆学修到達目標 ひと口に「国語学」と言っても、様々な対象・方法があります。国語学がどういう学問なのかをひと通り見渡すことによって、国語学に対する知識を身につけることを目標とします。前期の授業を履修したうえで受講することが望ましいです。

◆授業方法 講義を中心として授業を進めますが、適宜指名してテキストを読んでもらったり、各項目についての小テストを行なったりします。

◆準備学修 特別なことは必要ありませんが、いろいろな国語の現象に対する興味を持っていることが前提です。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス（その1）	9回目	語彙（その2）
2回目	ガイダンス（その2）	10回目	語彙（その3）
3回目	文法（その1）	11回目	文体（その1）
4回目	文法（その2）	12回目	文体（その2）
5回目	文法（その3）	13回目	言語生活
6回目	文法（その4）	14回目	方言・系統
7回目	文法（その5）	15回目	まとめ
8回目	語彙（その1）		

◆教科書 丸沼 『国語学要論』 福島邦道 笠間書院 1,512 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験 70%。平常点 30%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆小説を中心とする現代までの文体の変遷

〔国文学講義V(近代)〕

水曜日4時限

担当者：山崎 真紀子

◆学修到達目標 明治末期から現代までの文体の変遷を、主に小説、評論、詩歌なども含みつつ1910年～1990年までの文章を時系列に従って文体の変遷を見していく文学史の授業である。日本近現代文学の流れや表現がどのような変遷を遂げていったのかを理解できるようになることが目標である。明治期、大正、昭和全期において、文章は何を映し出し、何を取り入れていったのかを考察でき、自分なりの結論が出せることを目標とする。

◆授業方法 教科書やプリント教材を用いて朗読し、解説とポイントを説明する。その後、受講生も朗読を行い、文章のリズムをつかむ。そのうえで、表現を考察しコメントペーパーにまとめて提出する流れの授業を行う。

◆準備学修 講義日に行う予定の部分を事前に目を通して、朗読の際にスムーズに読めるように予習を欠かさないこと。そして、その文章について、これまでと異なる表現方法の考察をノートにまとめてくること。

◆履修条件 教科書を必ず持参すること。

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンス、および明治末期の文体	9回目	第五期「老妓抄」「細雪」他
2回目	教科書第四期 「網走まで」「普請中」	10回目	第六期「墮落論」「俘虜記」他
3回目	第四期 「刺青」「雁」他	11回目	第六期「仮面の告白」「女坂」他
4回目	第四期「木乃伊の口紅」「銀の匙」他	12回目	第六期「二十億光年の孤独」「驟雨」「山の音」「ブルサイド小景」他
5回目	第四期「羅生門」「或る女」他	13回目	第六期「恋人たちの森」「蟹」他
6回目	第五期「注文の多い料理店」「歯車」	14回目	第六期「三匹の蟹」「無明長夜」他
7回目	第五期「蟹工船」「機械」他	15回目	「キッチン」「風の歌を聴け」
8回目	第五期「銀河鉄道の夜」「蒼氓」他		

◆教科書 丸沼 『作品で綴る近代文学史』(鼎書房) Amazonでは購入が難しい。2,160円(税込)(送料300円)

資料事前配布 教科書がない小説は事前に配布する。

◆参考書 指定したい文庫本があるが、品切れ、絶版が多いので、適宜指示する。

◆成績評価基準 受講時の朗読および考察ペーパー(40%)、レポートの内容(60%)

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆室町時代の芸道と宗教

〔日本思想史Ⅰ〕

水曜日4時限

担当者：島田 健太郎

◆学修到達目標 室町時代の芸道論と宗教について概観します。これらに見られる思想的営為は、続く時代に、さらには現代の私たちにまで強い影響を及ぼしています。これらの思想の検討を通して、この時代の人々のものの考え方を理解するとともに、「日本人」や「日本文化」について考える視野を広げることを目標とします。

◆授業方法 プリントとして配布する原典や史料を中心に、講義形式で行います。扱う領域の性質上、多少耳慣れない専門用語がでてきますが、適宜説明を加えます。また授業中の質問は大歓迎です。

◆準備学修 室町時代の政治史・社会史について一通りの知識を勉強しておくとよいでしょう。さらに授業後、授業内容を復習しながら、用語のチェックや疑問点・問題点をまとめておくとよいと思います。

◆授業計画（各90分）

1回目	イントロダクション	9回目	蓮如の思想（1）
2回目	世阿弥の能楽論（1）	10回目	蓮如の思想（2）
3回目	世阿弥の能楽論（2）	11回目	蓮如の思想（3）
4回目	世阿弥の能楽論（3）	12回目	吉田神道（1）
5回目	心敬の連歌論（1）	13回目	吉田神道（2）
6回目	心敬の連歌論（2）	14回目	吉田神道（3）
7回目	禅宗の動向（1）	15回目	まとめ
8回目	禅宗の動向（2）		

◆教科書 **【当日資料配布】** 教科書は使用しません。当日プリントを配布します。

◆参考書 **【通材】** 『日本思想史Ⅰ P30800』（教材コード000137）3,150円（送料込）第二章第一節（P.70～P.97）
〈この教材は市販の『日本思想論争史』今井淳・小澤富夫ペリカン社と同一です。〉

【丸沼】 『室町幕府と地方の社会 シリーズ日本中世史③』榎原雅治著 岩波新書 907円（税込）（送料215円）
その他適宜紹介します。

◆成績評価基準 試験の成績を基準に、授業への取り組みなどを勘案して総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆東北アジアの民族と交流

〔東洋史入門〕

水曜日4時限

担当者：綿貫 哲郎

◆学修到達目標 「外国史（東洋史）」の地理的特徴を明らかにし、研究史を整理することを通じて、学修の意義や現代までの史実や解釈へのさまざまなアプローチが身につくようになります。そのなかでも東北アジア、とくに現在の黒龍江（アムール川）下流域から樺太・北海道にかけて居住した先住民は、平和で変化がないと思われてきましたが、13世紀以降にはダイナミックな動きと連動し変化に富む時代を経験します。日本を含んだこの地域の歴史や文化を学ぶことで、他民族や異文化接触についてステレオタイプではない考え方をもてるようになります。

◆授業方法 以下の授業計画（学生の理解度により変更あり）に沿って、講義及び実習形式でおこないます。講義の理解を深めるため、視覚教材を適宜併用します。授業時間内外でレポートを課する予定です。

◆準備学修 予習よりむしろ復習に重点をおいてください。翌週の授業は前週の内容理解なしには達成が難しいからです。また授業で工具書、ネット検索の方法、文献目録の作成例などを紹介しますが、これはごく一部にすぎず全てではありません。授業を通じ受講生自身で自らのパターンを確立してください。

◆履修条件 平成27年度昼間・土曜スクーリング（後期）「東洋史入門」（綿貫担当）との積み重ね不可。

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンス、導入 —「東洋史」のなかの東北アジア	9回目	イエズス会宣教師アンジェリスの蝦夷報告とアイヌ人社会
2回目	モンゴルの樺太遠征 —「元寇」との関係	10回目	松前藩と江戸幕府による北方調査
3回目	明朝とヌルガン都司 —アムール川下流域と樺太支配（1）	11回目	間宮林蔵が見たアムール川下流域の人々
4回目	東北アジアから見た安東氏と蝦夷 —国際貿易港「十三湊」	12回目	辺民の朝貢とナヨロアイヌ多様性をもつアイヌ人社会
5回目	東北アジアにおける女真社会と交易 —狩猟漁労民社会の実態	13回目	サンタン交易と清朝・日本
6回目	清朝と辺民制度 —中国王朝とは別な顔を持つ清朝	14回目	サンタン交易の終焉
7回目	ロシアとの接触とネルチズク条約 —アムール川下流域と樺太支配（2）	15回目	まとめ、試験
8回目	蝦夷島主蠣崎（松前）氏		

◆教科書 **当日資料配布** 当日プリントを配布します。

◆参考書 **丸沼**『北方世界の交流と変容—中世の北東アジアと日本列島』天野哲也・臼杵勲・菊池俊彦 [編] 山川出版社
2006年 2,052円（税込）（送料300円）
『北方から来た交易民—絹と毛皮とサンタン人』佐々木史郎 日本放送出版協会 1996年
<上記の本は品切れのため、図書館等を利用してください。>

◆成績評価基準 試験（60%）・平常点（40%）。毎回出席することを前提として総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本経済・世界経済と深く関わるアメリカ経済の学修2 [アメリカ経済論]

水曜日4時限

担当者：羽田 翔

◆**学修到達目標** 本講義では、アメリカ経済の発展構造とその特徴を長期的な観点から学修し、現在のアメリカ経済が日本経済および世界経済に与えている影響を理解することを目標とする。具体的には、アメリカ経済に関する記事やニュースなどの内容や問題点を理解し、世界経済との関連性を考え、解決策等を提示できる能力を養うことを目指した科目である。

◆**授業方法** 本科目は、主にスライド資料およびレジュメを使用し、必要な場合は参考書を使用して講義を進める。その中で、受講生に対して質問や意見を求めたり、グループでディスカッションを行ってもらったりするため、お互いのコミュニケーションが求められる。講義の最後に確認テストを行う場合もあるため、毎回集中して講義に参加すること。

◆**準備学修** 受講生は毎回配布される資料や参考書を講義中および予習・復習（各1時間程度）に利用して学習すること。本科目は予習も重視するが、講義後の復習における論点や重要事項の整理をより重視する。また、毎回の講義には出席のみではなく「参加」する意識を持ってほしいため、日頃からアメリカ経済に関心を持ち、本講義に関連した新聞記事等を確認すること。

◆授業計画（各90分）

1回目	戦後のパックス・アメリカーナとグローバル化 ：講義概要、成績評価等	9回目	グローバル金融危機とアメリカ経済① ：リーマン・ショック問題
2回目	戦後パックス・アメリカーナ① ：戦後の「持続的成長」システム	10回目	グローバル金融危機とアメリカ経済② ：サブプライムローン問題
3回目	戦後パックス・アメリカーナ② ：国際通貨体制と通商体制	11回目	アメリカ経済の不況と世界経済への影響
4回目	戦後パックス・アメリカーナの転換期	12回目	アメリカの通商政策① ：北米自由貿易協定（NAFTA）
5回目	1980年代のアメリカ経済と「レーガノミックス」	13回目	アメリカの通商政策② ：環太平洋連携協定（TPP）とアメリカ経済
6回目	金融の変貌と企業体制の転換	14回目	政策から考えるオバマ政権とトランプ政権の比較
7回目	1990年代の長期好況：IT革命とその限界	15回目	まとめ：アメリカ経済と世界経済の行方
8回目	グローバル化とアメリカ経済		

◆**教科書** 当日資料配布 配布資料を使用する。

◆**参考書** 丸沼 『現代アメリカ経済』 河村哲二著 2009年 有斐閣アルマ 2,484円（税込）（送料300円）

丸沼 『現代アメリカ経済分析』 中本悟・宮崎礼二編著 2014年 日本評論社 2,808円（税込）（送料350円）

◆**成績評価基準** 期末試験（60%）、小テストおよびレポート（30%）、授業への積極的参加（質問や意見）（10%）により、総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆近現代の日中関係史を学ぼう

〔歴史学 B〕

水曜日 5 時限

担当者：堀井 弘一郎

◆学修到達目標 幕末から今日に到るまで近代日本は隣国中国と時に厳しく対峙し、時に友好を深めつつ、複雑な二国間関係を形成してきた。本講座ではそうした歴史的過程と、同時代と共に生きた日中両国民の足跡をたどりながら、確かな歴史的教養もって日中関係を考え語れるようになることを目標とする（後期は満州事変～現代）。

◆授業方法 毎回レジュメや資料プリントを用意し、それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際、受講者からの質疑や希望者による研究発表等を取り入れていく。また、視聴覚教材を活用したり、史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆準備学修 「歴史とは現代と過去との対話である」（E・H・カー）。戦後 70 年を経た今日だが、日中関係は必ずしも良好な関係とはいえない状態にある。そんな今日こそ、日頃から日本・中国の近現代史、日中関係史に関する書物に親しんだり、時事的問題に関する新聞・雑誌記事を読んで必要に応じて保存したりすることを心がけてほしい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	満州事変から日中戦争へ	9回目	中国の国連代表権獲得と日本
2回目	汪兆銘「対日協力政権」と日本	10回目	日中国交回復
3回目	アジア太平洋戦争と中国	11回目	改革開放路線と日本
4回目	戦争・メディア・プロパガンダ	12回目	香港の盛衰
5回目	終戦前後の東アジア	13回目	受講生（希望者）による研究発表
6回目	国共内戦から中華人民共和国樹立へ	14回目	領土問題・歴史認識・戦後補償
7回目	「満洲」・「留用」生活体験者の講演	15回目	「まとめ」と「試験」を行う
8回目	文化大革命と日本		

◆教科書 指定しない。

◆参考書 丸沼 『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への挑戦』久保亨 岩波新書 864 円（税込）（送料 215 円）

丸沼 『シリーズ中国近現代史⑤ 開発主義の時代へ』高原明生・前田宏子 岩波新書 842 円（税込）（送料 215 円）

丸沼 『日中関係—戦後から新時代へ』毛利和子 岩波新書 864 円（税込）（送料 215 円）

◆成績評価基準 前期・後期ごとに、平常点 20%，試験 80% で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆マンガもアニメも日本の伝統文化だ！

水曜日5時限

〔文化史〕

担当者：渡邊 浩史

◆学修到達目標 現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。

◆授業方法 講義形式で行う。適宜プリントやDVDなどを使用し、受講生の理解の一助とする。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆準備学修 授業を受ける前に、最低限高校日本史教科書レヴェルの知識はつけておいてほしい。扱う題材は平易に見えるが、内容はかなり難しいと思って受講してほしい。かなり広範な知識を必要とする内容だと覚悟して受講してもらいたい。

◆授業計画（各90分）

1回目	はじめに 中世の文化	9回目	能・狂言
2回目	絵巻物	10回目	聖地巡礼（中世）
3回目	絵巻物	11回目	聖地巡礼（中世）
4回目	絵巻物	12回目	近世の文化
5回目	絵巻物	13回目	聖地巡礼（近世）
6回目	能・狂言	14回目	聖地巡礼（近世）
7回目	能・狂言	15回目	おわりに
8回目	能・狂言		

◆教科書 使用しない。

〔当日資料配布〕 適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 平常点20%、試験80%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆基本的な英語力の底上げ

★★★〔英語 E〕

水曜日 5 時限

担当者：石川 勝

◆学修到達目標 基本的な文法を理解した上で、易しい英文を読み進めていく。テキストは大学生がヨーロッパで経験した話なので身近に感じられると思われる。

◆授業方法 初めに基本的な文法の説明をした後で、テキストを訳していく。アトランダムに指名して訳してもらうので、事前に指示された個所を全訳しておくこと。2回予習していない場合単位を認めない。

◆準備学修 前の週に指示されたところを全訳しておく。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	unit 10
2回目	unit 7	10回目	続き
3回目	続き	11回目	unit 11
4回目	unit 8	12回目	続き
5回目	続き	13回目	unit 12
6回目	unit 9	14回目	続き
7回目	続き	15回目	まとめ
8回目	小テスト		

◆教科書 丸沼 『ジローのヨーロッパ旅行』 金星堂 1,944 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 2回行う小テストの結果で決める。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆古典文学の可能性のためにやるべきこと

〔国文学基礎演習〕

水曜日5時限

オープン受講：不可 担当者：木村 一

◆学修到達目標 本講座では広く古典文学というくくりで作品を捉えていく。受講者がいかにその作品を捉えているかが問われることになる。その作品世界に貫通する時代感覚を体感すること、文学作品に描かれていることを通じて、その時代に生きた人々のものの見方や捉え方をすること、これが本講義の主眼である。本講座は「演習」である。次の〈本〉演習へのステップとすべく、読み方・調査・方法・捉え方ができるようになることを目標とする。

◆授業方法 本講座は「演習」であるため、受講者諸君が主体となり、調査・研究を経て実際に口頭発表を行う。具体的には、講義指定テキストを分担し発表担当を決め、それを読み込み、その展開と結論へのプロセスを把握する。その理論展開を把握することで、研究の基礎を体感することを主眼とする。口頭発表と質疑応答という討論形式での展開となる。

◆準備学修 受講生各自、口頭発表をするのだという目的意識をしっかりと持つこと。講義指定テキストに対して、自身の担当箇所をしっかりと読み込み、その内容を確実に把握しておく必要がある。さらに、執筆者の主張は何か、問題点はどのようなことか、ということを洗い出しておくこと。口頭発表であるから、レジュメを用意すること。聴衆者も同様に、テキストの読み込みと理解が必要で、その上での質問事項の準備をしておくこと。

◆履修条件 平成29年度昼間スクーリング（前期）「国文学基礎演習」との積み重ね不可。
前期のみの受講・後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各90分）

1回目	導入、どのように進めてきたかの確認・諸注意・担当者の割り当て	9回目	受講生による口頭発表 第2章 回帰する「やまと歌」「よみ人しらず」の時代
2回目	デモンストレーション	10回目	受講生による口頭発表 第2章 回帰する「やまと歌」「六歌仙」の時代
3回目	受講生による口頭発表 第1章 憧憬としての唐文明冒頭～唐風謳歌の淵源	11回目	受講生による口頭発表 第6章 『源氏物語』を思索する作り物語としての『源氏物語』～五十四帖の巻のつながり
4回目	受講生による口頭発表 第1章 憧憬としての唐文明唐使の派遣と大学寮の充実～嵯峨天皇の時代	12回目	受講生による口頭発表 第6章 『源氏物語』を思索する『源氏物語』の年立～『源氏物語』にみられる特徴的な表現
5回目	受講生による口頭発表 第1章 憧憬としての唐文明勅撰三集の編纂～漢詩人としての嵯峨天皇	13回目	受講生による口頭発表 第6章 『源氏物語』を思索する光源氏の人物造型～貴族社会の結婚
6回目	受講生による口頭発表 第1章 憧憬としての唐文明和漢の兼才～僧団の文学	14回目	受講生による口頭発表 第6章 『源氏物語』を思索する『源氏物語』の作者～『源氏物語』の原本
7回目	受講生による口頭発表 第1章 憧憬としての唐文明九世紀後半の漢文学～九世紀の文人たち	15回目	後期まとめ・総評
8回目	受講生による口頭発表 第2章 回帰する「やまと歌」漢風席卷の時代～『古今和歌集』の時代		

◆教科書 通材 『国文学基礎講義 M20100』通信教育教材（教材コード 000519）3,350円（送料込）※学修指導書付。
〈この教材は『Next教科書シリーズ日本古典文学』近藤健史編 弘文堂と同一です。〉
また、他のテキストをこちらで用意する。

〔当日資料配布〕 発表レジュメは当日配布。

◆参考書 電子辞書があると便利。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提とし、発表内容70%・質疑応答10%・レポート20%で総合的に評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆表計算ソフトによるデータ解析とコンピュータ・シミュレーション 〔情報概論 A〕

水曜日5時限

担当者：戸塚 英臣

- ◆学修到達目標 表計算ソフトを用いた統計学によるデータ分析とコンピュータ・シミュレーションの方法を習得します。
- ◆授業方法 基本的にはコンピュータを用いて実習しますが、基本的知識については必要に応じて講義形式で学習します。
- ◆準備学修 コンピュータの初步から始めるので、普段コンピュータを使っていないくて興味があればぜひ受講してください。
- ◆授業計画（各90分）

1回目	表計算ソフトの基本操作（データ入力・編集・削除、セルの操作・参照等）について学習します。	9回目	統計処理：母集団と標、ならびに全数調査と標本調査について表計算ソフトを用いて学習します。
2回目	表計算ソフトの基本操作（四則演算等の数式の入力、セルの書式設定・移動とコピー等）について学習します。	10回目	大数の法則と中心極限定理について表計算ソフトによるシミュレーションを通じて学習します。
3回目	表計算ソフトによる折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ等の作成について学習します。	11回目	表計算ソフトを用いてモンテカルロ法によるシミュレーションについて学習します。
4回目	表計算ソフトによる散布図の作成方法とその意味について学習します。	12回目	表計算ソフトを用いたシミュレーション（在庫管理や待ち行列）を通じてオペレーションズリサーチの基礎を学習します。
5回目	表計算ソフトによる相関係数の計算方法とその意味について学習します。	13回目	表計算ソフトを用いたローンシミュレーションを通じて金利計算とソルバーの使い方を学習します。
6回目	表計算ソフトのソルバーを用いた単回帰分析の方法とその意味について学習します。	14回目	要点のまとめ
7回目	表計算ソフトによる度数分布とヒストグラムの作成法とその意味について学習します。	15回目	授業時間内に試験とその解説
8回目	統計処理：表計算ソフトによる基本統計量（平均値、中央値、最頻値、最大値、最小値、分散、標準偏差）の計算		

- ◆教科書 **当日資料配布** 当日資料を配布します。
- ◆参考書 コンピュータに関してはインターネット上にある情報が最新の場合が多いです。従って、そちらを参考にしてください。ただし、インターネット上の情報は必ずしも正しいとは限りません。ご自身で真偽を判断し活用するようにして下さい。
- ◆成績評価基準 実習課題（40%）、提出課題（40%）、授業内試験（20%）により総合的に評価します。
なお、授業に毎回出席することを前提に評価します。

【木曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ーブ 講ン		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件			
1 時限	AK11	英 語 F	鈴木ふさ子	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III		2年				
					C10400	英 語 IV						
	AK12	民 法 I	根本 晋一	2	K20200	民 法 I	×	※	・法律学科のみ 1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。			
	AK13	行 政 学	関根二三夫	2	L30100	行 政 学	×	2年				
	AK14	情報概論 B	中村 典裕	2	R32300	情 報 概 論	×	2年				
2 時限	AK21	法 学 B	根本 晋一	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)	×	1年				
	AK22	英 語 G	岡田 善明	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III						
					C10400	英 語 IV						
	AK23	国文学演習 I ~ VI	近藤 健史	1	M404S0	国文学演習 I	×	3年	・国文学専攻のみ申込可。 ・I ~ VI いずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。			
					M405S0	国文学演習 II						
					M406S0	国文学演習 III						
					M407S0	国文学演習 IV						
					M408S0	国文学演習 V						
					M409S0	国文学演習 VI						
	AK24	英米文学概説	鈴木ふさ子	2	N20300	英米文学概説	×	※	・英文学専攻のみ 1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。			
	AK25	経済学概論	藤本 訓利	2	R20300	経済学概論	×	※	・経済学部のみ 1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。			
	AK26	社会科・公民科 教 育 法 II	古賀 徹	2	T20800	社会科・公民科 教 育 法 II	×	2年	・法学部、哲学専攻、史学専攻・ 経済学部・商学部のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。			

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【木曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開 位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受オ ープ 講
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配当 学 年	受 講 条 件	
3 時 限	AK31	英 語 H	中村 則子	1	C10100	英 語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AK32	民 法 IV	根本 晋一	2	K30300	民 法 IV	×	2 年		
	AK33	英 語 史	真野 一雄	2	N30300	英 語 史	×	2 年		
4 時 限	AK34	日本史演習 I・II	鍋本 由徳	1	Q401S0	日本史演習 I	×	3 年	・ 史学専攻のみ申込可。 ・ I・II のどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					Q402S0	日本史演習 II				
	AK35	経済原論 / 経済学原論	藤本 訓利	2	R20100	経済原論	×	※	・ 経済学部は 1 学年以上申込可。 ・ 文理・商学部は 2 学年以上申込可。 ・ 政治経済学科は 1 学年以上申込可。 ・ 法律学科は 2 学年以上申込可。	
					L20200	経済学原論				
	AK36	教育の方法 ・ 技術論	古賀 徹	2	T21700	教育の方法・技術論	×	2 年	・ スクーリング 1 回の合格で単位完成する科目です。	
	AK41	哲 学 B	中澤 瞳	2	B10700	哲 学	×	1 年		
5 時 限	AK42	英 語 基礎 B	中村 則子	1	C10600	英 語 基礎	×	1 年		
	AK43	TOEIC B	八木茂那子	1	C108S0	TOEIC	×	1 年		
	AK44	東洋史概説 / 東洋史概論	高綱 博文	2	Q30300	東洋史概説	×	2 年	・ 文理・経済・商学部のみ申込可。 ・ 法学部のみ申込可。	
					K32300	東洋史概論				
	AK45	西洋史特講 I	青山由美子	2	Q31200	西洋史特講 I	×	2 年		
	AK46	経済史総論	飯島 正義	2	R20200	経済史総論	×	※	・ 経済学部は 1 学年以上申込可。 ・ 上記以外は 2 学年以上申込可。	
	AK47	英語科教育法 III	小澤 賢司	2	T30300	英語科教育法 III	×	2 年	・ 英文学専攻のみ申込可。 ・ スクーリング 1 回の合格で単位完成する科目です。	
5 時 限	AK51	英 語 J	八木茂那子	1	C10100	英 語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AK52	哲学演習 I・II	中澤 瞳	1	P401S0	哲学演習 I	×	3 年	・ 哲学専攻のみ申込可。 ・ I・II のどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
	AK53	西洋史演習 I・II	藤井 信行	1	Q405S0	西洋史演習 I	×	3 年	・ 史学専攻のみ申込可。 ・ I・II のどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
	AK54	国際経済論	前野 高章	2	R31100	国際経済論	×	2 年		
	AK55	商業政策	新島 裕基	2	S31000	商業政策	×	2 年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆ 講座内容 (シラバス)

◆ Oscar Wilde の童話を英語で読む

★★☆ [英語 F]

木曜日 1 時限

担当者：鈴木 ふさ子

◆学修到達目標 英文の正確な把握力を高めることを目標とします。作品の文化や時代背景について理解し、作者の意図を汲むことで作品を深く、多面的に解釈できるようになること、物語にふさわしい表現を翻訳する技法とセンスを身につけることを目標とします。

◆授業方法 イギリス 19 世紀末の童話をテキストとし、音読と翻訳を通して英語の文章を正確に読み取っていきます。単語ひとつの解釈をめぐってディスカッションすることもあります。毎回進んだ範囲から部分訳や作品解釈を確認するテストを行います。

◆準備学修 毎回次に進む範囲を、音読し、ひとつひとつの単語を丁寧に調べて、情景をイメージしながら自分なりの翻訳を作ってきて下さい。また、自分なりに作品の解釈をしてまとめた上で授業に臨んで下さい。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	ガイダンス (授業の内容・進め方など)	9回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト
2回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト	10回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト
3回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト	11回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト
4回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト	12回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト
5回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト	13回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト
6回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト	14回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト
7回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト	15回目	期末試験
8回目	"The Fisherman and His Soul" 精読・確認テスト		

◆教科書 Oscar Wilde, The Complete Short Stories, Oxford World's Classic

〈上記の本は、丸沼書店では取り扱っていませんので、Amazon 等で購入してください。〉

◆参考書 丸沼 『オスカー・ワイルドの曖昧性』鈴木ふさ子著 開文社 2,484 円 (税込) (送料 350 円)

◆成績評価基準 每回出席することを前提として、平常点 (授業への参加・貢献、予習) 30%, 確認テスト 30%, 最終 (期末) 試験 40% で評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆民法総則（後半）

〔民法 I〕

木曜日 1時限

担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、取引行為や家族にかかわる諸問題を、民法を通して考えられるようになる。

◆授業方法 受講者数が多いため、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。また、法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあります。

◆準備学修 前回授業時における板書事項を、しっかりと読み直していくこと。なお、この授業は、板書事項が多いことをお断りする。

◆履修条件 過年度昼間・土曜スクーリング（後期）「民法 I」（根本担当）との積み重ね不可。なお、後半を先に受講しても構わない。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	法律行為と意思表示	9回目	広義の無権代理、狭義の無権代理
2回目	意思表示	10回目	表見代理、相手方の保護、無権代理人の責任
3回目	意思の不存在、心裡留保	11回目	条件、期限、期間
4回目	通謀虚偽表示	12回目	時効、除斥期間、時効制度の趣旨
5回目	錯誤	13回目	時効の援用と放棄、時効の中止と停止
6回目	意思表示の瑕疵、詐欺、強迫	14回目	取得時効、占有の承継
7回目	代理、顕名、代理人の能力と権限、代理の効果、任意代理と法定代理	15回目	消滅時効
8回目	復代理、自己契約と双方代理の禁止		

◆教科書 指定しない。

◆参考書 通材 『民法 I K20200』通信教育教材（教材コード 000407）2,600 円（送料込）

◆成績評価基準 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%，授業態度や質疑応答 20%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆行政管理や行政統制を中心に学びましょう

〔行政学〕

木曜日 1 時限

担当者：関根 二三夫

◆学修到達目標 行政の実施過程に於いて、行政の目標を明確に定め、公務に従事する職員の努力を通して、その目標を統一的に実現するためにはどのような事が必要なのかまた、その実施過程において行政全体を外部から、また内部においてどのように統制すべきなのかを学びます。

◆授業方法 講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのかそれが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に学ばなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆準備学修 政策立案や政策決定がどのように行われるかを、メディアの情報を通して考え、各単元、テキストを参考に2時間程度の予習と2時間程度の復習が必要になります。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	行政管理 ※原則を説明します。	9回目	情報公開 ※意翼や沿革を説明します。
2回目	行政管理 ※政機能管を理説明します。	10回目	情報公開 ※プライバシーの保護について説明します。
3回目	行政管理 ※コミュニケーションの機能を中心に説明します。	11回目	オンブズマン制度 ※意翼や沿革を説明します。
4回目	行政管理 ※コミュニケーションの方向を中心に説明します。	12回目	わが国の行政相談 ※意義や内容を説明します。
5回目	行政管理 ※リーダーシップと指導者の役割を中心に説明します。	13回目	地方自治 ※沿革を中心に説明します。
6回目	行政管理 ※稟議制について説明します。	14回目	戦前の官吏制から戦後の公務員制への変遷と行政との関係
7回目	行政統制 ※外在的統制を中心に説明します。	15回目	講義内容の総括
8回目	行政統制 ※内在的統制を中心に説明します。		

◆教科書 通材 『行政学 L30100』通信教育教材（教材コード 000084）3,000 円（送料込）

※行政学の沿革、現代国家と行政、行政組織、官僚制と公務員制、行政管理、議制度、情報公開や行政相談など行政全般に関して広範に解説しています。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験 70%, 平常点 30% ※試験同様、質問や理解度テストへの解答等も重視しますので、受講に際しては、欠席しないように注意して下さい。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆表計算情報処理技術の取得とデータ処理体験

〔情報概論 B〕

木曜日 1 時限

担当者：中村 典裕

◆学修到達目標 情報機器を用いた知的活動を行うに当たって数的データの取り扱いは極めて重用である。もともとコンピュータは「電子計算機」であり、数的データの取り扱いのために作られた機器である。この講義では Excel を用いて、単に集計が行えるようになるだけでは無く、データの内容に応じて様々な処理を行う手法について習得する。また Excel のマクロ機能やプログラミングについてもその概要を学ぶ。

◆授業方法 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの歴史、構造、コンピュータセキュリティ、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆準備学修 現在の学生はコンピュータやインターネットには日常的に接している事と思われる。しかし、その原理や歴史的背景を理解している人はわずかであろう。本講義に望むにあたっては、テレビや新聞などの情報関連報道に関心を持つと同時に、所有している機機のマニュアルを一読するなどの学習が望まれる。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス・ICT と情報技術社会	9回目	Excel 演習 2 if 関数・表参照関数
2回目	ウェブページの原理と HTML の基礎	10回目	Excel 演習 3 フィルタ / データベース
3回目	プログラミングの歴史	11回目	Excel 演習 4 ピボットテーブル
4回目	表計算ソフトとは、Excel の概要	12回目	Excel 演習 5 グループ化・3D 集計
5回目	Excel 入門 1 平均・四則演算	13回目	Excel 演習 6 Excel マクロの概要
6回目	Excel 入門 2 グラフの活用	14回目	総合演習
7回目	Excel 入門 3 書式、条件付書式	15回目	最終課題
8回目	Excel 演習 1 関数入門		

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 原則として、当日に配布。また、授業用ウェブページからダウンロード可能。

◆参考書 授業時に指示する。

◆成績評価基準 平常点(20%)、平常課題(30%)、最終課題レポート(50%)。毎回出席する事を前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆法学（後半）

木曜日2時限

〔法学 B〕

担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 法（灘）や法律（法学や法律学）の意義、沿革、機能、主要な法令の種類や内容がわかるようになる。併せて、社会生活において必然的に生起する諸問題の解決策を、法律を通して考えられるようになる。

◆授業方法 受講者数が多いため、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。また、法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあります。

◆準備学修 前回授業時における板書事項を、しっかりと読み直していくこと。なお、この授業は、板書事項が多いことをお断りする。

◆履修条件 過年度履修・土曜スクーリング（後期）「法学」（根本担当）との積み重ね不可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することは可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	GD、わが国的主要な法令の種類や内容について	9回目	「財産と法」、取引法として商法
2回目	「国家と法」、最高法規としての日本国憲法の総論	10回目	「家族と法」、身分関係を規律する民法の親族法、遺産相続を規律する相続法
3回目	統治機構、国会（立法権）と内閣（行政権）	11回目	「犯罪と法」、罪と罰に関する刑法、その総論
4回目	裁判所（司法権）	12回目	刑法総論、各論（犯罪類型）
5回目	人権総論、自由権	13回目	刑法各論
6回目	自由権、社会権	14回目	「裁判と法」、私的紛争の解決を目的とする民事訴訟法
7回目	受益権、参政権など	15回目	実体的真実発見と被疑者・被告人の権を守る刑事訴訟法など
8回目	「財産と法」、取引法としての民法の財産法		

◆教科書 指定しない。

◆参考書 **通材** 『法学 B11500』通信教育教材（教材コード 000515）3,400 円（送料込）

◆成績評価基準 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語パラグラフの習得

★★☆ [英語 G]

木曜日2時限

担当者：岡田 善明

◆学修到達目標 パラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングの学習により、英語の客観的な読解力と表現能力を育成し、即席のパラグラフ・スピーキングの能力をも習得する。『和と輪』という国際関係の英語ニュースの入ったクラス通信により、時事的な英語の読解力も育成する。

◆授業方法 『英語教育の精神と実践』第5章「生きた英語能力の育成」をテキストにして、パラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングを基本に学び、英語読解演習と表現演習を行う。

◆準備学修 『英語教育の精神と実践』第5章「生きた英語能力の育成」のパラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングを読み、予習プリントの問題を必ず事前に学習する。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	パラグラフの構成と展開	9回目	Controlling idea & Concluding sentences 1 演習
2回目	Topic sentence 1 演習	10回目	Controlling idea & Concluding sentences 2 演習
3回目	Topic sentence 2 演習	11回目	Controlling idea & Concluding sentences 3 演習
4回目	Controlling idea 1 演習	12回目	Controlling idea & Concluding sentences 4 演習
5回目	Controlling idea 2 演習	13回目	総合演習
6回目	Controlling idea & supporting sentences 1 演習	14回目	パラグラフの構成と展開復習
7回目	Controlling idea & supporting sentences 2 演習	15回目	試験
8回目	Controlling idea & supporting sentences 3 演習		

◆教科書 **当日資料配布** パラグラフリーディングとライティングの演習プリント

丸沼 『英語教育の精神と実践』岡田善明（春風社） 1,944 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 スクーリングで紹介。

◆成績評価基準 試験を基本に、スクーリングの問題演習等も加味して評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆万葉歌のメディア化を考える

〔国文学演習Ⅰ～Ⅵ〕

木曜日2時限

担当者：近藤 健史

◆学修到達目標 万葉歌は、映画『君の名は』に使われたこともあり、東アジアでも人気となっている。そこで現代社会における万葉歌とメディアの関係や人気の原因について考察する。日常生活に深く浸透しているメディアと文学の関わりについて考えることを通して、調査・研究し発表する方法など基本的な能力を養うことを目標とする。

◆授業方法 「万葉集とメディアとの関係」についての講義の後、各自テーマを決め、調査・研究した成果を口頭発表するという方法をとる。全体討論することで、さらに理解を深める。

◆準備学修 『万葉集』の成立、内容について学んでおくこと。

◆授業計画（各90分）

1回目	授業の進め方、演習とは何か、口頭発表の仕方、順番決定	9回目	口頭発表・全体討論
2回目	『万葉集』と万葉歌人について学ぶ	10回目	口頭発表・全体討論
3回目	『万葉集』とメディアの関係を学ぶ	11回目	口頭発表・全体討論
4回目	万葉歌人、万葉歌のメディア化について学ぶ	12回目	口頭発表・全体討論
5回目	テーマの選定をする	13回目	口頭発表・全体討論
6回目	テーマについての調査・研究をする	14回目	口頭発表・全体討論
7回目	テーマを決定し中間報告をする	15回目	総まとめ、リポート提出
8回目	発表の準備、資料の作成をする		

◆教科書 丸沼 『訳文 万葉集』 森淳司、笠間書院 944円（税込）（送料450円）

◆参考書 丸沼 『万葉集 ハンドブック』 多田一臣編 三省堂 1999年 2,052円（税込）（送料300円）

丸沼 『万葉集から古代を読みとく』 上野誠 ちくま新書 2017年 864円（税込）（送料215円）

◆成績評価基準 口頭発表 60%，リポート 40%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆イギリス小説に親しむ

〔英米文学概説〕

木曜日2時限

担当者：鈴木 ふさ子

◆学修到達目標 イギリス文学を代表する小説の数々が書かれたヴィクトリア時代について知識を身につけ、それぞれの作家と作品の特徴を把握し、多面的に作品を解釈できるようになることを目標とします。

◆授業方法 二回目以降のクラスでそれぞれのテーマを代表する作家と文学作品の概要を学び、作品の一部を原文で読む。作品によっては全体を映像などで鑑賞する。具体的にはテキストに沿って作家と作品についての基本情報を学び、プリントで作品の重要な部分を味わい、映像を用いて全体像を把握する。作品鑑賞後はアクションペーパーを書いていただくこともあります。

◆準備学修 テーマ別に作家、作品を扱う予定なので、テキストの該当部分を読み、その作家や作品や文学用語について不明な点は自分なりに『英米文学事典』などにあたり、調べておくこと。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス（授業の内容・進め方など）	9回目	Arthur Conan Doyle
2回目	1. ヴィクトリア時代と小説 Charles Dickens	10回目	Arthur Conan Doyle
3回目	Charles Dickens	11回目	5. 唯美主義と小説 Oscar Wilde
4回目	2. 女性と文学 Charlotte Brontë	12回目	Oscar Wilde
5回目	Emily Brontë	13回目	6. 運命と悲観主義の小説 Thomas Hardy
6回目	3. 児童文学 Charles Kingsley	14回目	後期の総まとめ
7回目	Lewis Carroll	15回目	期末試験
8回目	4. 推理小説と探偵小説 Willkie Collins		

◆教科書 丸沼 『たのしく読めるイギリス文学——作品ガイド150』 ミネルヴァ書房 3,024円（税込）（送料350円）

◆参考書 丸沼 『英語文学事典』ミネルヴァ書房 4,860円（税込）（送料450円）

◆成績評価基準 無遅刻・無欠席を前提に、授業への取り組み、積極性（20%）、アクションペーパー（20%）、筆記試験（60%）で評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆マクロ学の基礎理論を学びましょう

〔経済学概論〕

木曜日2時限

担当者：藤本 訓利

◆学修到達目標 マクロ経済学の基礎理論を修得することによって、今日の経済の動きや経済政策について考察する力を身につけることができるようになります。

◆授業方法 パワーポイントを用いて、講義レジメを配付し、テキストに沿って講義を進めます。また、テーマごとに練習問題を行い、理解度を深めます。学習範囲は、テキストの第1・2・4・5章です（1部除く）。

◆準備学修 必ず予習をし、分からぬ経済用語については事前に調べておきましょう。

◆履修条件 とくにありません。ただ、経済原論（経済学原論）を履修する予定がある学生は、経済原論の理解度をあげるために、この講義ができるだけ受講して下さい。

◆授業計画（各90分）

1回目	マクロ経済学とはどのような学問か	9回目	貨幣の機能と貨幣の定義
2回目	国民経済計算：GDPの概念	10回目	貨幣の保有動機と貨幣需要関数
3回目	マクロ経済循環と三面等価の原則	11回目	マネーサプライ
4回目	物価指数	12回目	通貨乗数と金融政策
5回目	国民所得はどのように決まるか①	13回目	貨幣の需要と利子率の決定
6回目	国民所得はどのように決まるか②	14回目	まとめ
7回目	デフレギヤップ・インフレギヤップ	15回目	筆記試験
8回目	財政政策と乗数		

◆教科書 丸沼 『入門マクロ経済学』（第5版）中谷巖 日本評論社 3,024円（税込）（送料350円）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 平常点（練習問題等35%）と筆記試験（65%）で総合的に評価します。

毎回出席することを前提として評価します。詳細は、最初の講義時間に説明します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆政治・経済の学習を形成する

〔社会科・公民科教育法Ⅱ〕

木曜日2時限

担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 社会科・公民科教育の目的と教育内容について理解を深め、実践的な授業方法を身につけられるようする。「現代社会」「倫理」「政治・経済」の各分野について必要とされる基礎知識を学び、適する教授方法を考えていく。特に政治・経済の課題を中心にして授業づくりをしていきたい。これから学習指導要領の志向する内容（公共）についても理解できるようつとめたい。

◆授業方法 教科内容及び授業法の講義を行うが、各自1回以上の模擬授業を実践する。学習指導案を作成しての模擬授業と、その批評検討を通して学びあう授業とする。

◆準備学修 中学校（社会科）・高等学校の地理・歴史科に関する教科書の記述内容について、事前に読んで理解しておくと、実際にとりくむ授業づくりにおいて「授業」（生徒の学習活動）がイメージしやすくなります。授業中にも紹介しますが、学習指導要領（文部科学省ホームページからも確認可能）の記述に目を通しておくことも大事になります。

◆授業計画（各90分）

1回目	社会科・公民科授業のねらい	9回目	実際の教材づくり（方法論）
2回目	学習指導要領・教育課程改正の方向性	10回目	学習指導案の作成方法
3回目	「政治」学習における「主体的・対話的な深い学び」とは？	11回目	授業研究…戦後の政治風景と労働争議
4回目	「政治・経済」「倫理」学習の特性	12回目	模擬授業（1）、講評
5回目	「思考力」「言語活動」を含む授業計画	13回目	模擬授業（2）、授業評価の方法
6回目	授業研究…民主政治の思想	14回目	模擬授業（3）、T.Tの授業をつくる
7回目	授業研究…民主政治のしくみ	15回目	公民科学習に求められる質とは？
8回目	授業研究…民主政治の変化と現代社会		

◆教科書 **当日資料配布** 資料・レジュメを配布する。

◆参考書 学習指導要領（中学校・高等学校）。他は、授業中に指示する。

◆成績評価基準 学習指導案を指定した分、作成して提出する。模擬授業を複数回行い、授業づくり（教材研究）への取り組み、グループワークへの参加度を加味して総合的に評価する。毎回出席を前提とする。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆スポーツトピックで学ぶ初級英語

〔英語 H〕

木曜日3時限

担当者：中村 則子

◆学修到達目標 2020年に開催される東京オリンピックに向けてスポーツへの関心が高まっている。この科目では易しい英文で書かれたスポーツのトピックを読み解し、演習問題を解くことで楽しく英語を身につけていく。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法 テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、英語の4技能のうち主に reading のスキルを習得していく。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆準備学修 ガイダンスは初回のみ行うので受講希望者は初回から出席することが望ましい。テキストをできるだけ早く入手し、最初の章に目を通して、判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、英語の記事を視聴したりして、スポーツに限らず、メディアから英語で情報を入手する作業をしてほしい。

履修条件 英語力が初級レベルであること、平成 29 年度昼間・土曜スクーリング（後期）「英語」（中村担当）合格者は受講不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	Unit10 The Cutting Edge
2回目	Unit7 Helping Your Opponent	10回目	Unit11 Match-Fixing
3回目	Unit7 Helping Your Opponent	11回目	Unit11 Match-Fixing
4回目	Unit8 Ghost Goals	12回目	Unit12 Heroes Inspire Heroes
5回目	Unit8 Ghost Goals	13回目	Unit12 Heroes Inspire Heroes
6回目	Unit9 Rituals and Superstitions	14回目	復習もしくは小テスト
7回目	Unit9 Rituals and Superstitions	15回目	期末試験
8回目	Unit10 The Cutting Edge		

◆教科書 丸沼 Spotlight on Sports 金星堂 2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 参考書、辞書はガイダンスにて指示。

◆成績評価基準 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆債務各論（後半）

〔民法IV〕

木曜日3時限

担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、取引行為や家族にかかわる諸問題を、民法を通して考えられるようになる。

◆授業方法 受講者数が多いため、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。また、法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあります。

◆準備学修 前回授業時における板書事項を、しっかりと読み直していくこと。なお、この授業は、板書事項が多いことをお断りする。

◆履修条件 過年度昼間・土曜スクーリング（後期）「民法IV」（根本担当）との積み重ね不可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することは可。

◆授業計画（各90分）

1回目	GD、典型契約13種類と非典型契約	9回目	借地借家法（主に物権化について）
2回目	典型契約としての「財産権移転型」の契約、贈与、売買、交換	10回目	「労務供給型」の契約、雇用、委任、請負、寄託、各類型の区別
3回目	売買契約、予約、手付、買戻しなど	11回目	委任契約、無理由解除権、請負契約、請負人の担保責任、寄託契約
4回目	担保責任の概要など	12回目	法定債権としての事務管理、不当利得、不法行為
5回目	担保責任と債務不履行責任、契約締結上の過失の違い、買主の義務など	13回目	事務管理、不当利得
6回目	「貸借型」の契約、使用貸借、賃貸借、消費貸借	14回目	不法行為、過失責任主義、一般的不法行為の成立要件、その効果
7回目	賃貸借契約、不動産賃貸借の特則としての借地借家法	15回目	特殊的不法行為の成立要件、その効果など
8回目	借地借家法（主に物権化について）		

◆教科書 指定しない。

◆参考書 通材 『民法IV K30300』通信教育教材（教材コード000355）3,100円（送料込）

◆成績評価基準 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点80%、授業態度や質疑応答20%。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の過去・現在そして未来は？

[英語史]

木曜日3時限

担当者：真野 一雄

◆学修到達目標 英文の読解力を高めるとともに、英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか、歴史的な流れの基礎的な知識を修得する。過去の歴史を振り返り、英語の未来の姿を想像してみましょう。

◆授業方法 テキストⅡ章「音韻論」・Ⅳ章「語形論」を、『学習指導書』を併用しながら、読む予定です。テキストは私達にとって必要な箇所を重点的に読みます。

◆準備学修 毎回、テキスト（英文）の重要な部分を読み、『学習指導書』の問の解答を用意しておいてください。

◆授業計画（各90分）

1回目	Ⅱ章・母音交替(1) 母音交替とは？	9回目	Ⅳ章・名詞(1) 性・数・格の変化
2回目	Ⅱ章・母音交替(2) 英語の実例	10回目	Ⅳ章・名詞(2) 不規則複数形
3回目	Ⅱ章・グリムの法則(1) グリムの法則とは？	11回目	Ⅳ章・代名詞(1) 人称代名詞
4回目	Ⅱ章・グリムの法則(2) 英語の実例	12回目	Ⅳ章・代名詞(2) 指示代名詞と定冠詞
5回目	Ⅱ章・母音変異(1) 母音変異とは？	13回目	Ⅳ章・動詞(1) 強変化動詞
6回目	Ⅱ章・母音変異(2) 英語の実例	14回目	Ⅳ章・動詞(2) 弱変化動詞
7回目	Ⅱ章・大母音推移(1) 大母音推移とは？	15回目	試験+その解説
8回目	Ⅱ章・大母音推移(2) その影響		

◆教科書 通材 『英語史 N30300』通信教育部教材（教材コード 0001117）2,900円（送料込）※学修指導書付。
<この教材は市販の『ブルック英語史 A History of the English Language』G.L.Brook著 南雲堂と同一です。>

◆参考書 丸沼 『英語の歴史—過去から未来への物語』寺澤 盾著 中公新書 1971 842円（税込）（送料215円）
丸沼 『英語の歴史』中尾俊夫著 講談社現代新書 958 799円（税込）（送料215円）
(※自学用で、授業中に参照することはありません。)

◆成績評価基準 試験を中心に受講状況その他を加味して評価の予定。6回以上の欠席者は受験資格を失います。
(試験は途中退出なしです)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆卒論を書くための基礎技術（論述編）

〔日本史演習Ⅰ・Ⅱ〕

木曜日3時限

担当者：鍋本 由徳

◆学修到達目標 史学専攻生に必要な技能に史料読解と論文作成があります。論文は「テーマ設定→実証→結論」の流れがあります。論文の要約をベースにして何を批評するか（反論とは限りません）。その基礎技術を修得し、「概説書」を用いて、口頭発表・論文形式の文章作成を実践します。※後期のみの受講も可能です。

◆授業方法 個人作業とグループワーク（G）の併用です。個人で文章を作成するとともに、グループとしての活動成果を第15回にて報告（レジュメ作成と口頭報告）してもらいます。なお、課題の候補については初日に配布します。

◆準備学修 授業時間だけでは絶対的に学修時間が不足します。指定された事前学修を必ずおこない、シートに記入して準備を整えた上で授業に参加してください。また、PCやインターネットの使い方に慣れておく方が望ましい。

◆授業計画（各90分）

1回目	日本史演習の計画と到達目標	9回目	関係史料を使い再検証する（G）
2回目	文献の扱い方 収集方法を知る	10回目	注釈を付す場所を検討する（G）
3回目	文献の使い方 要旨をまとめる	11回目	論述アウトラインを相互評価する（G）
4回目	文献の使い方 論点を出してみる	12回目	論述内容を検討し、修正する（G）
5回目	グループテーマを決める（G）	13回目	発表用の文章をまとめる
6回目	史料典拠や所在を確認する（G）	14回目	発表用の文章を最終調整しよう（G）
7回目	集めた史料を整理・ファイルする（G）	15回目	課題発表会（各班）／課題提出（個人）
8回目	論文とテーマとの関連を確認する（G）		

◆教科書 **当日資料配布** 初日に課題テキスト参考文献を配布（隨時、参考プリントを追加します）

◆参考書 『最新版 角川新版日本史辞典』 角川書店

〈上記の本は品切れのため、図書館等を利用して下さい。〉

※レポート・論文の書き方に関する本であれば、特に指定しない。

◆成績評価基準 授業内グループワーク参加度（80%）、最終報告参加度（20%）の総合評価

※全回出席を前提とします。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆マクロ理論を修得し、経済の動きを理解しましょう【経済原論／経済学原論】

木曜日3時間

担当者：藤本 訓利

◆学修到達目標 マクロ経済学の理論を学習し、いわゆる「経済を見る目」を養い、今日の経済の動きや経済政策について自分なりの考えを述べることができます。

◆授業方法 パワーポイントを用いて、講義レジメを配付し、テキストに沿って講義を進めます。また、テーマごとに練習問題を行い、理解度を深めます。（テキストの第6章と第9を中心講義しますが、そこで理論を理解できるようするために、第4章と第5章の必要な箇所について、まず説明をします。）

◆準備学修 この講義では、テキストの第4章から説明をしますので、第1章～第3章までは各自、必ず復習をしておきましょう。

◆履修条件 この講義では、「経済学」や「経済学概論」等でマクロ経済学の基礎理論をすでに学習したことのある学生を対象に講義を進めます。

◆授業計画（各90分）

1回目	マクロ経済学とはどのような学問か	9回目	IS-LM分析と財政金融政策（2）
2回目	国民所得の決定理論（1）	10回目	IS-LM分析と財政金融政策（3）
3回目	国民所得の決定理論（2）	11回目	物価水準の決定（1）
4回目	財政政策と乗数理論（1）	12回目	物価水準の決定（2）
5回目	投資量の決定	13回目	物価水準の決定（3）
6回目	貨幣の需給と利子率（1）	14回目	まとめ
7回目	貨幣の需給と利子率（2）	15回目	筆記試験
8回目	IS-LM分析と財政金融政策（1）		

◆教科書 丸沼 『入門マクロ経済学』（第5版）中谷 巍 日本評論社 3,024円（税込）（送料350円）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 平常点（練習問題等35%）と筆記試験（65%）で総合的に評価します。毎回出席することを前提として評価します。詳細は、最初の講義時間に説明します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆授業デザイン力をつける

【教育の方法・技術論】

木曜日 3時限

担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 この授業は、「教員としての授業実践力」を修得することを目的としています。そのために次のような順序で学びます。①「授業が成り立つ条件」を理解する。②様々な授業形態を歴史的に、あるいは諸外国と比較することでより深く理解する。③カリキュラム構成方法を修得することで、学習指導計画を組みたてられるようにする。④実際に作業することで教育方法のコツを修得する。①～④によって、授業づくりと実践力とをつける（増し）ていきましょう。

◆授業方法 講義形式に加えて、ワークショップ形式、グループワーク、ロールプレイなどアクティブラーニング型の方法をとりいれる。

◆準備学修 方法論の理論やその種類・系統を理解するだけではなく、さらにその理解したことを実際に活用すること、生徒の理解を前提とする授業を構成することができるようになることが大事です。他の各教科の指導法（教科教育法）の授業やテキストの記述からも（実施する）「授業」に関するイメージを具体的にあらわせるように学んでおくことをおすすめします。毎回、前回までの授業と必ず関連した内容になっていますので、復習をしっかりとしておくこと。それが最終回までの授業でつながっていきます。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	「教える」ことと「学ぶ」こと	9回目	カリキュラム構成の方法（「ねらい」のある学習活動をつくる）
2回目	教育方法学の歴史（西洋教育方法史）	10回目	カリキュラムづくりの実習
3回目	教育方法学の歴史（日本の教育内容の変遷）	11回目	学習指導案の種類とその構成
4回目	「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論）	12回目	学習実践のロールプレイ
5回目	授業形態の多様化（バズ学習、T.T 等）	13回目	ICT 機器を活用した新しい学習法
6回目	問題解決学習と系統学習	14回目	教材研究・教育評価の方法
7回目	指導技術：「はなす」ことと「きく」こと	15回目	「主体的・対話的で深い学び」
8回目	「はなす・きく・かく・まとめる」		

◆教科書 **当日資料配布** 資料・レジュメを配布する。

◆参考書 「学習指導要領」（中学校・高等学校）他は、授業中に指示する。

◆成績評価基準 この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。課題未提出の場合は評価を行なわない。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆教養としての哲学

〔哲学 B〕

木曜日 4 時限

担当者：中澤 瞳

◆学修到達目標 本講義の目標は、古代から近代まで西洋の哲学の歴史を、代表的な哲学者の考え方を通して概観し、一般的な哲学の知識を修得することである。

◆授業方法 授業は講義形式で行う。資料プリントをもとに、解説を行う。資料プリントは、基本的には参加者に読んでいただく（挙手制）。また、複数回の小レポート（授業内で記述し、提出する簡単なレポート）を行う。なお、進行具合によっては、授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。その際は、隨時授業中に指示する。

◆準備学修 準備学修、復習とともに、西洋哲学の概説書や入門書を読むことは授業内容の理解を深めるのに役立つ。通信教材の『哲学』は、教科書としては使用しないが、参考書として役立つ。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス・哲学とはなにか・16-17世紀までの哲学史概説	9回目	ニーチェの哲学
2回目	経験主義の考え方	10回目	プラグマティズム
3回目	経験主義の考え方	11回目	現象学と実存主義
4回目	カントの哲学と倫理学1	12回目	フェミニスト理論
5回目	カントの哲学と倫理学2	13回目	論理実証主義の考え方
6回目	功利主義1	14回目	現代社会と哲学、倫理学
7回目	功利主義2	15回目	まとめ・筆記試験
8回目	ヘーゲルの弁証法		

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 通材 『哲学 B10700』（教材コード 000404）3,650 円（送料込）※学修指導書付。

〈この教材は市販の『西洋思想の要諦周覧』嘉吉純夫・斎藤隆 編著 北樹出版と同一です。〉

◆成績評価基準 授業への参加、貢献 (20%)、小レポート (20%)、筆記試験 (60%) により総合的に評価する。

なお、評価を行う際には、毎回出席していることを前提とする。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆基礎から始めるやさしい英語

★★☆☆ [英語基礎 B]

木曜日4時限

担当者：中村 則子

◆学修到達目標 この科目では忘れかけている英語の基礎文法を詳しく丁寧に学び直すことで英文の読解力を身につけていく。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法 テキストに沿って、解説を読み、演習問題を行うことで、英語の文法の基礎を習得する。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容や演習問題の解答を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆準備学修 ガイダンスは初回のみ行うので受講希望者は初回から出席することが望ましい。テキストができるだけ早く入手し、最初の章に目を通して、判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、英語の音楽を聴いたり、洋画を見たりして、英語の世界に親しんでほしい。

◆履修条件 平成 29 年度 昼間・土曜スクーリング（後期）『英語基礎』（中村担当）との積み重ね不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	Unit10 形容詞・副詞
2回目	Unit7 名詞・冠詞	10回目	Unit11 比較
3回目	Unit7 名詞・冠詞	11回目	Unit11 比較
4回目	Unit8 代名詞	12回目	Unit12 命令文・感嘆文
5回目	Unit8 代名詞	13回目	Unit12 命令文・感嘆文
6回目	Unit9 前置詞	14回目	復習もしくは小テスト
7回目	Unit9 前置詞	15回目	期末試験
8回目	Unit10 形容詞・副詞		

◆教科書 丸沼 English Primer (Revised Edition) 南雲堂 2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 参考書、辞書はガイダンスにて指示。

◆成績評価基準 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ TOEIC test R&L500 点突破

〔TOEIC B〕

木曜日4時限

担当者：八木 茂那子

◆学修到達目標 本講座では前期に引き続き Listening &Reading (R&L) test 500 点突破を目指します。初めてあるいは test を受けながらステップアップを目指そうとする人を対象に必要な基本的トレーニング方法を体得し、TOEIC test R&L 500 点突破できる英語運用能力をつけることを目標とします。

◆授業方法 授業では各 unit を (1) Listening section と (2) Reading section の交互に問題演習を中心に進めていきます。弱点強化のために self-training, pair work, group activity など色々取り込みながら、楽しくトレーニングをしていく予定です。(クラスはレベル分けされていませんので受講者の理解度、進度などにより、授業内容変更することがあります。)

◆準備学修 授業前の準備学習としては指定された unit を自宅にて 2 度解いて来て下さい。: 1 回目は時間を計り、参照物無しで答えをノートに書く。2 回目 1 回目と答えが違う場合はパンの色を変え、参照物（辞書、文法書、その他参考書等）を参照しながら、解いて来て下さい。授業中に 3 回目を解くことになります。(このように同じ問題を繰り返し解くことで学習内容の定着が図られます。)

◆履修条件 テキストは各自自分の物を購入すること。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	TOEIC® L & R テスト Part1～7について	9回目	Unit12 (1) オフィスでの会話② Quiz3
2回目	Unit08 (1) ラジオ放送・宣伝	10回目	Unit12 (2) Part 7 の復習
3回目	Unit08 (2) 接続詞・前置詞	11回目	Unit13 (1) Part 1 と Part 2 の復習 Quiz4
4回目	Unit09 (1) Yes/No 疑問文 Quiz 1	12回目	Unit13 (2) 時制・代名詞・語彙問題
5回目	Unit09 (2) ダブルパッセージ (二つの文書)	13回目	Unit14 (1) トーク・スピーチ・会議の一部 Quiz5
6回目	Unit11 (1) 留守番電話 Quiz	14回目	Unit14 (2) 時制・代名詞・語彙問題
7回目	Unit11 (2) トリプルパッセージ (三つの文書)	15回目	期末試験・解答・解説
8回目	中間試験・解答・解説		

◆教科書 丸沼 『Mastery Drills for the TOEIC (®) L&R test』 All in One [New Edition] 早河幸治著 桐原書店 1,836 円 (税込) (送料 300 円)

丸沼 『DataBase 3000』 第 5 版 桐原書店編集部 1,026 円 (税込) (送料 350 円)

他プリント

◆参考書 丸沼 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集2』 ETS 国際ビジネスコミュニケーション協会 (編) 3,024 円 (税込) (送料 350 円)

◆成績評価基準 Quiz (5 回) (DataBase3000 より) 50%+ (中間試験+期末試験) 50%による総合評価 (クラスのレベルを考慮し一定の基準になるよう調整を加えることがあります。)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中華帝国の「解体」と「再生」を考える

〔東洋史概説／東洋史概論〕

木曜日4限

担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 西欧の衝撃による中華帝国の解体から20世紀の革命と戦争の時代を経て超大国中国が台頭する歴史を明らかにする。

◆授業方法 近現代中国の歴史と社会を概観し、映像資料を視聴しながら中国をビジュアルに物語る。

◆準備学修 下記の参考文献を予め学習しておくことが望ましい。

◆授業計画（各90分）

1回目	近現代中国を考える視点	9回目	満洲事変
2回目	アヘン戦争	10回目	日中全面戦争
3回目	太平天国運動	11回目	中華人民共和国の誕生
4回目	洋務運動と変法運動	12回目	毛沢東についての映像視聴
5回目	辛亥革命	13回目	文化大革命の悲劇
6回目	孫文についての映像視聴	14回目	改革開放の時代
7回目	五・四運動	15回目	まとめ・試験
8回目	国民革命		

◆教科書 **当日資料配布** 授業時間中に適宜、資料を配布します。

◆参考書 **通材** 『東洋史概説 Q30300』 通信教育教材（教材コード 000523）2,100円（送料込）※学修指導書付。
〈この教材は市販の『中国の歴史』岸本美緒著 ちくま学芸文庫と同一です。〉

◆成績評価基準 試験（50%）、リポート（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ヨーロッパ中世後半の歴史を史料と映像で学びましょう。〔西洋史特講Ⅰ〕

木曜日4限時

担当者：青山 由美子

◆学修到達目標 ヨーロッパ中世後半（西暦1000年から1500年まで）の歴史について、重要なテーマに関する史料の日本語訳と関連する映像を通して学び、各テーマのポイントを理解し、自分の感想や意見をまとめられるようになる。

◆授業方法 授業の最初に各テーマに関する史料の日本語訳を読み、意味を理解し、次に関連映像を視聴し、最後に各自コメントをまとめます。

◆準備学修 指定したテキスト（ヨーロッパ中世史の概説書）の、関連箇所を事前に読み、専門用語などを調べて意味をよく理解すること。

◆授業計画（各90分）

1回目	ヨーロッパ中世後半の歴史について、ポイントと特質を学びます。	9回目	中世スコットランドの独立の動きについて学びます。
2回目	イギリスのルーツとして、ノルマン征服について学びます。	10回目	英仏百年戦争とジャンヌ・ダルクについて学びます。
3回目	封建社会特有のセレモニーについて学びます。	11回目	異端信仰に対する弾圧、魔女狩りについて学びます。
4回目	騎士文化のシンボルとして馬上槍試合を学びます。	12回目	ヨーロッパ各地からのユダヤ人追放について学びます。
5回目	十字軍と東ヨーロッパの都市について学びます。	13回目	都市民の書いた遺言書や日記について学びます。
6回目	ヨーロッパ中世都市の商業同盟ハンザについて学びます。	14回目	新しい時代ルネサンスのはじまりについて学びます。
7回目	中世中頃の農村・農業の様子について学びます。	15回目	毎回学んできた史料と映像をふりかえり、まとめコメントを書きます。
8回目	キリスト教文化として、スペインへの巡礼を学びます。		

◆教科書 **【当日資料配布】** 当日にプリント配布（当日のテーマ関連）。また、次回の準備用プリントも配布します。

◆参考書 **丸沼**『ヨーロッパの中世』 神崎忠昭 慶應大学出版会 2,916円（税込）（送料350円）

丸沼『西洋中世史料集』 東京大学出版会 3,456円（税込）（送料350円）

『世界史史料 5』 岩波書店

〈上記の本は品切れのため、図書館等を利用してください。〉

◆成績評価基準 毎回授業のラストにまとめて書くコメントによって、評価します。

コメントは史料について（50%）、映像について（50%）とします。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆資本主義的世界体制の成立

〔経済史総論〕

木曜日 4 時限

担当者：飯島 正義

◆学修到達目標 イギリスを中心とする資本主義的世界体制の成立と各国がその体制にどのように組み込まれていったのかを説明することができるようになることを目標とします。

◆授業方法 講義形式。当日配布するプリント資料を中心に進めていくが、理解を確認するために「確認プリント」を何回か実施する予定です。

◆準備学修 通信教材や参考書で授業に関係するところを事前に読んでおいて下さい。さらに、高校の世界史の参考書、地図等も必要に応じて利用して下さい。

◆履修条件 平成 29 年度東京スクーリング（10 月期）「経済史総論」（飯島担当）との積み重ね不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	資本主義の起点はいつか	9回目	資本主義的世界体制とアジアー日本
2回目	資本主義生産の発展段階	10回目	資本主義的世界体制とアジアー中国
3回目	産業革命の意義	11回目	資本主義的世界体制とアジアーインド
4回目	イギリスの産業革命	12回目	資本主義的世界体制とアジアー東南アジア
5回目	イギリスを中心とする資本主義的世界体制の構築	13回目	資本主義的世界体制とアフリカ
6回目	フランスの工業化	14回目	帝国主義的拡張の時代
7回目	ドイツの工業化	15回目	総まとめと筆記試験
8回目	アメリカの工業化		

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 授業時にプリント資料を配布します。

◆参考書 **丸沼** 『エレメンタル欧米経済史』 馬場哲也著 晃洋書房 2012 年 3,024 円（税込）（送料 350 円）

◆成績評価基準 平常点（取組み、確認プリント等）：40%，筆記試験：60%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆理論的かつ実践的な英語教授法を考える

〔英語科教育法Ⅲ〕

木曜日 4 時限

担当者：小澤 賢司

◆学修到達目標 英語教授法の理論を自ら学び、それをどう 4 技能指導に応用するかを皆で考え、かつ、その実践力を身に付けることを目標とします。良い授業を行うためにはどうすればよいのか、どんなことが求められているのか、どんな方法論が効果的なのか、等を日々考える態度・姿勢は本授業では特に重要となります。本授業では、中学生を対象とした具体的な授業内容及び展開を考案してもらいます。

◆授業方法 本授業では、グループワークが中心となります。その中で、「短期（単元）計画」における 1/X の授業（1 の授業を積み重ねることで、達成目標を実現できると仮定した授業）をグループ内で考案し、代表者に模擬授業をしてもらいます。4 技能総合型授業が理想的ではありますが、まずは欲張らずに 1 つの技能向上に向けた授業を考案してもらいます（1 → 1+1 → 2+1 → 3+1 ⇒ 4（最終目標）、といったイメージ）。計 3 回の模擬授業では、毎回、扱う学年・単元・技能指導を変えて行います。

◆準備学修 英語教授に関する文献（雑誌・書籍・論文）を読み、知識を蓄え、それをどう活かすのかを日々考えることが本授業の準備学修と言えます。グループ内討議をする際、自分の主張を裏付ける客観的資料は必要不可欠です。したがって、各技能に関する教授理論・言語習得理論を調べ、授業の際に持参してください。1 部見本をいただければ、こちらで人数分コピーを取り、配布します（見本はきれいな状態のものが望ましい）。

◆履修条件 これまでに英語科教育法 I ~ IV のいずれかの単位を 1 つでも修得していること。満たしていない場合、履修不可とする。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	学習指導案作成の意義についてグループ分け	9回目	グループ内討議（準備）
2回目	学習到達目標に基づいた授業の組み立てについて グループ内討議（準備）	10回目	模擬授業（発表）
3回目	グループ内討議（準備）	11回目	模擬授業（発表） グループ分け
4回目	グループ内討議（準備）	12回目	グループ内討議（準備）
5回目	模擬授業（発表）	13回目	グループ内討議（準備）
6回目	模擬授業（発表） グループ分け	14回目	模擬授業（発表）
7回目	グループ内討議（準備）	15回目	模擬授業（発表） これまでの総括
8回目	グループ内討議（準備）		

◆教科書 『SUNSHINE ENGLISH COURSE 1-3』 開隆堂

※最寄りの教科書販売店で購入して下さい

中学校学習指導要領（文部科学省）、中学校学習指導要領 外国語編（文部科学省）

◆参考書 丸沼 『英語授業ハンドブック 中学校編』 金谷憲（編集代表） 大修館 3,888 円（税込）（送料 350 円）

◆成績評価基準 授業への取り組みを中心に総合的に評価します。

※特別な理由（教育実習・介護等体験・感染症など）なく欠席した場合は、大幅な減点となります。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆シャドウイングでリスニング力とスピーキング力をアップさせましょう ★★★〔英語 J〕

木曜日5時限

担当者：八木 茂那子

◆学修到達目標 本校講座を受講することにより後期終了後の段階において英文を 150wpm(一分間に 150 語程度のスピード)で読むことができ、かつネイティブスピーカーに近い発音で音読できるようになる。また速読のスキル、スピーキング、リーディング、ライティングと英語 4 技能の運用能力向上を図る。。

◆授業方法 CD,OHC、黒板を使った対面式による一斉授業と演習をセルフワーク、ペアワーク、グループワーク等を組み合わせて授業を行う。

◆準備学修 指定されたユニットを毎回① CD チェック②語彙チェック③時間を計って練習問題を解いてから授業に出ること。他に期間中 5 回のクイズと 2 回の review tests を行うのでそのための準備をすること。

◆履修条件 15 回の授業のうち 2/3 以上出席をすること。遅刻は 2 回で 1 回の欠席とする。後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために前期後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	ガイダンス (科目の目標、自己紹介、授業の進め方、テキストについて、成績評価の仕方について、他)	9回目	Unit 17 Games People Play Quiz 4
2回目	Unit 11 Sleep	10回目	Unit 18 Alternative Energy
3回目	Unit 12 Superstition Quiz 1	11回目	Unit 19 Tell Me A Story Granny (1) Quiz 5
4回目	Unit 13 Valentine's Day	12回目	Unit 20 Tell Me A Story Granny (2)
5回目	Unit 14 Future Food Quiz 2	13回目	Review test (2)
6回目	Review test (1)	14回目	Oral test
7回目	Unit 15 Jack O' Lantern Quiz 3	15回目	Final Examination Check & Answer
8回目	Unit 16 Who was This man ?		*上記はあくまで計画でありクラスの進度や理解度に応じ変更する場合があります。

◆教科書 丸沼 『It's Time to Read !』 八木 茂那子・町田 純子・S . Ryan 共著

(株) 南雲堂 1,404 円 (税込) (送料 215 円)

丸沼 『DataBase 3000』 第 5 版 桐原書店 1,026 円 (税込) (送料 350 円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 Quizzes(5回) 20%+ Review tests (2回) 20%+ 期末試験 50%+ Oral test 10%による総合評価。
(一定の評価基準となるようクラスのレベルにより調整することがあります。)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆卒業論文の制作のための演習

〔哲学演習Ⅰ・Ⅱ〕

木曜日5時限

担当者：中澤 瞳

◆学修到達目標 本演習の目標は、卒業論文を執筆するために必要と考えられる基本的知識を、実践を通して、修得することである。

◆授業方法 講義と演習を組み合わせて行う。場合によっては、小グループを組んで作業を行う。口頭発表、および参加者同士による相互評価を行う。なお、参加者の状況、授業の進行具合によっては、授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。その際は、隨時授業中に指示する。

◆準備学修 自分が何を題材として卒業論文を執筆したいのか考えて授業に参加すること。2回目の授業時に、簡単に発表してもらう。また、授業の後半の回で、文献の要約の発表を各自に行ってもらうので、卒業論文で扱う予定の題材に関連する文献をいくつか探し始めておくこと。

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンス・論文とはなにか	9回目	要約をする
2回目	各自の論文の題材についての発表 論文の特徴を理解する	10回目	要約をする
3回目	論文の題材からアウトラインを作成するために1	11回目	発表（要約について）
4回目	論文の題材からアウトラインを作成するために2	12回目	発表（要約について）
5回目	要約の作り方1	13回目	発表（要約について）
6回目	要約の作り方2	14回目	発表（要約について）
7回目	要約をする	15回目	まとめ
8回目	要約をする		

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 授業、グループワークへの参加度、発表（70%）、発表の講評（30%）により総合的に評価する。
なお、毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆歴史学の論文を書く - 「研究史整理」と「論証」 [西洋史演習 I・II]

木曜日 5 時限

担当者：藤井 信行

◆学修到達目標 4年間の歴史学の勉強を卒業論文に集約させることが目的です。授業をとおして卒業論文のテーマ決定・文献目録の作成・研究史の整理・資料の収集・文献の読解などを学び、歴史学の論文を書くことへとつなげます。西洋史で卒業論文を予定している学生は、前・後期さらに3・4年次と継続して受講することが望ましい。

◆授業方法 歴史学の卒業論文を完成させるためのステップを1つずつゼミナール形式で進めます。3年次生は、これをモデルにして同じステップを各自の論文テーマで行ってください。4年次生は、こうしたことをいま1度自分の論文で確認しつつ、2度の報告をとおして論文の完成へとつなげる。

◆準備学修 授業の全体像（論文完成までのステップ）を念頭に置いて、各自の卒論テーマをつねにその中に位置づけて考えて（予習）、そして授業に臨んでください。また毎回の授業で配られるプリントを使って、各自家庭学習（復習）をして確実にそれを理解してください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	歴史学の論文を書く： 研究史整理	9回目	同⑥：同Ⅱ
2回目	3年次生のテーマ決定	10回目	同⑦：3年次生の卒論テーマからⅠ
3回目	4年次生の卒論中間報告	11回目	同⑧：同Ⅱ
4回目	研究史整理①： 研究史とは？	12回目	4年次生の卒論最終報告①
5回目	同②：時代三区分法とルネサンス	13回目	同②
6回目	同③：第1次世界大戦原因論	14回目	3年次生のテーマ決定報告①
7回目	同④：注と参考文献目録	15回目	同②
8回目	同⑤：4年次生の卒論テーマからⅠ		

◆教科書 当日資料配布 当日プリントを配布する。

◆参考書 使用せず。

◆成績評価基準 レポート2回（各 30%×2）、報告 30%，平常点 10%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆開放経済体系、経済政策と外国為替

〔国際経済論〕

木曜日5時限

担当者：前野 高章

◆学修到達目標 国際経済論において、国際収支の基本的な考え方や基礎理論、開放経済体系下の経済政策、ならびに為替相場決定の理論や国際通貨制度等について学び、グローバル経済の進展および国際経済問題を理解する土台を作り上げることを目標とする。

◆授業方法 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および国際経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。

◆準備学修 国際経済論は応用経済学分野の科目であることから、経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。事前に経済学の基礎理論を予習し、講義終了後に教材内容に付き合わせてノートを整理し復習すること。

◆履修条件 前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	国際経済の理論と方法、国際経済と統計データ	9回目	国際マクロ経済政策（固定相場制下）
2回目	国際収支表構造と国際収支統計	10回目	国際マクロ経済政策（変動相場制下）
3回目	外国為替市場とその役割	11回目	外国為替相場の決定メカニズム（短期）
4回目	対外収支と貯蓄投資バランス	12回目	外国為替相場の決定メカニズム（長期）
5回目	外国貿易乗数と弾力性アプローチ	13回目	為替相場の変動と市場介入
6回目	財市場の均衡と IS 曲線	14回目	市場化とグローバリゼーション
7回目	貨幣市場の均衡と LM 曲線	15回目	講義のまとめ
8回目	IS-LM-BP 分析		

◆教科書 通材 『国際経済論 R31100』通信教育教材（教材コード 000281）2,300 円（送料込）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験 80%，平常点 20%。毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆商業の「まちづくり」の取り組みについて考える

【商業政策】

木曜日 5限

担当者：新島 裕基

◆学修到達目標 この講義では、昼間（前期）または夏期「商業政策」を受けて、商業の「まちづくり」の取り組みについて学びます。到達目標は、なぜ経済活動が主である商業者が「まちづくり」に取り組むのか、理論的に説明できるようになること、各論として、商業まちづくりの展開、現場の取り組みなどについて理解できるようになることです。

◆授業方法 できるだけ教室全体で議論を作り上げることで、双方向型・参加型の形式をとります。

◆準備学修 講義の進捗に合わせて資料を配布します。事前に予習し、当日持参してください。また、毎回の講義内容を積み重ねていくスタイルのため、復習が重要です。紹介した事例をネットで調べてみると理解が深まるでしょう。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス：商業と「まち」の関係	9回目	前半のまとめ：中間テスト（マークシート）
2回目	小売業から見るまちづくり	10回目	安心・安全のまちづくり
3回目	商業まちづくりの系譜	11回目	地域ニーズに応える商店街
4回目	商業まちづくりの背景	12回目	高齢者・子育て世代にやさしいまちづくり
5回目	まちづくりと行政の役割	13回目	多様化する主体との連携
6回目	都市を客観的に理解する	14回目	観光とまちづくり・学生たちのまちづくり
7回目	まちの資源を確認する	15回目	後半のまとめ：最終テスト（記述）
8回目	まちづくりの主体と事業を支える仕組み		

◆教科書 丸沼 『小売業起点のまちづくり』 石原武政・渡辺達朗編 中央経済社 3,024 円（税込）（送料 300 円）

【当日資料配布】 教科書などを参考にしたスライドを投影して講義を進めますが、教科書はなるべく入手してください。また、適宜資料を配布する予定です。

◆参考書 丸沼 『地域商業と外部主体の連携による商業まちづくり』 新島裕基（専修大学出版局）

2,808 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 平常点評価：100%

＜内訳＞授業内テスト：70%（中間：30%／最終：40%）、②授業内レポート等：30%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

【金曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 一 オ ブ 講シ		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件			
1 時 限	AL11	英 語 K	大庭 香江	1	C10100	英 語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III	×	2 年				
					C10400	英 語 IV						
AL12	東洋思想史 I	本間 直人	2	P20300	東洋思想史 I	×	※	・ 哲学専攻のみ 1 学年以上申込可。 ・ 上記以外は 2 学年以上申込可。	×			
	AL13	日本史概説 / 日本史概論	鍋本 由徳	2	Q30200	日本史概説	×	2 年	・ 文理・経済・商学部のみ申込可。			
					K32200	日本史概論			・ 法学部のみ申込可。			
2 時 限	AL21	総合科目 I ~ VI	古賀 徹	2	B101S0	総合科目 I	×	1 年	・ I ~ VI のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。 ・ スクーリング 1 回の合格で単位完成する科目です。			
					B102S0	総合科目 II						
					B103S0	総合科目 III						
					B104S0	総合科目 IV						
					B105S0	総合科目 V						
					B106S0	総合科目 VI						
AL22	英 語 L	大庭 香江	1	1	C10100	英 語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III						
					C10400	英 語 IV						
AL23	フランス語 I ・ II	大庭 克夫	1	1	E10100	フランス語 I	×	1 年	・ I ・ II のどちらに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。			
					E10200	フランス語 II						
AL24	イギリス文学史 II	猪野 恵也	2	P30100	イギリス文学史 II	×	2 年					
AL25	西洋思想史 I	関谷 雄磨	2	P20200	西洋思想史 I	×	※	・ 哲学専攻のみ 1 学年以上申込可。 ・ 上記以外は 2 学年以上申込可。				
3 時 限	AL31	政治学原論	吉野 篤	2	L20100	政治学原論	×	※	・ 政治経済学科のみ 1 学年以上申込可。 ・ 上記以外は 2 学年以上申込可。			
	AL32	哲学基礎講読	石井 友人	2	P20100	哲学基礎講読	×	※	・ 哲学専攻のみ 1 学年以上申込可。 ・ 上記以外は 2 学年以上申込可。			
	AL33	市場調査論	最上 健児	2	S317S0	市場調査論	×	2 年				
4 時 限	AL41	国文学概論	山崎 泉	2	M20200	国文学概論	×	※	・ 国文学専攻のみ 1 学年以上申込可。 ・ 上記以外は 2 学年以上申込可。			
	AL42	宗教学概論	合田 秀行	2	P30400	宗教学概論	×	2 年				
	AL43	商業史	竹内 真人	2	S32100	商業史	×	2 年		×		
5 時 限	AL51	社会学	服部 慶亘	2	B11600	社会学	×	1 年				
	AL52	日本政治史	石川 徳幸	2	L30400	日本政治史	×	2 年		×		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆ 講座内容 (シラバス)

◆ 「スヌーピー」で米国文化を学ぶ

★★☆☆ [英語 K]

金曜日 1 時限

担当者: 大庭 香江

◆ 学修到達目標 本授業では、「スヌーピー」のコミックを使用し、文法知識を整理しながら、米国の文化について読み、学びます。

◆ 授業方法 練習問題を解きながら、文法事項を確認し、米国の文化について書かれた文章や、コミックを読みます。

◆ 準備学修 授業時の解説が理解出来る様、英文を読み、辞書で意味を調べておきます。

◆ 授業計画 (各 90 分)

1回目	ガイダンス スヌーピーのコミックと作者シュルツについて	9回目	Unit 9 & 10 不定詞、分詞 リーディング: ルート 66, ハリウッド
2回目	Unit 1 自動詞・他動詞 リーディング: マーク・トウェイン	10回目	Unit 11 & 12 動名詞、名詞・冠詞 リーディング: ケイジャン料理、ハンバーガー
3回目	Unit 2 群動詞 リーディング: 野球	11回目	Unit 13 & 14 代名詞、形容詞・副詞 リーディング: 2つのワシントン、移民国家アメリカ
4回目	Unit 3 文型 リーディング: 植民地開拓者	12回目	Unit 15 & 16 前置詞、接続詞 リーディング: アメリカ先住民、キング牧師
5回目	Unit 4 時制 リーディング: アップルパイ	13回目	Unit 17 & 18 疑問詞、関係詞 リーディング: ジャズ、ブルース
6回目	Unit 5 進行形 リーディング: ディズニーランド	14回目	Unit 19 & 20 比較、否定 リーディング: ミシシッピ川、リーバイ・シュトラウス
7回目	Unit 6 完了形 リーディング: バーベキュー	15回目	まとめ、及び、試験
8回目	Unit 7 & 8 助動詞、受動態 リーディング: スポーツ、ロックンロール		

◆ 教科書 丸沼 『Snoopy's World of English』 小中秀彦著 朝日出版社 1,836 円 (税込) (送料 300 円)

◆ 参考書 授業時に、単元ごとに、関連する参考書や資料について御紹介致します。

◆ 成績評価基準 試験。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中国古代の哲学思想

〔東洋思想史Ⅰ〕

金曜日 1時限

オープン受講：不可 担当者：本間 直人

◆学修到達目標 中国古代の哲学思想を概観します。後期は荀子、老子、莊子の思想を中心に理解を深めます。中国古代の哲学者・思想家たちの言葉は国を超えて、時代を超え、現代に生きる我々に、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。さらに、研究の意義、必要性などについても学びます。(前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい)

◆授業方法 中国古代の哲学者・思想家たち、それぞれの哲学思想の特質をつかむことに留意しながら、発表形式で授業を行います。又、レポートのまとめ方についても指導します。授業は漢文の講読を含みますが、漢文に慣れ親しんでいない場合をも考慮し、無理のないように進めていきます。したがって、東洋思想に興味を持ちながら、漢文に対する抵抗感から、今まで本格的な学習を思いとどまっていた方の受講も歓迎します。

◆準備学修 授業で取り上げる哲学者・思想家についての参考書は、数多く出版されています。図書館、又は書店で実際に手に取り、気に入った本を読んでみて下さい。すんなりと頭に入る事柄があれば、すぐには理解できない事柄もあることでしょう。しかしながら、そのことについて、じっくりと時間をかけ、自分の頭で考えることは、これから学習に特に重要なことなのです。

◆履修条件 平成29年度昼間・土曜スクーリング(後期)「東洋思想史Ⅰ」(本間担当)との積み重ね不可。

◆授業計画(各90分)

1回目	ガイダンス東洋思想史とは何か荀子の思想について(人物・生涯)	9回目	老子の思想について(<道>の体現)
2回目	荀子の思想について(理論的思性)	10回目	老子の思想について(<道>の展開—市中の隠者—)
3回目	荀子の思想について(定命論)	11回目	老子の思想について(<道>の行為—<無為>—)
4回目	荀子の思想について(礼)	12回目	莊子の思想について(人物・生涯)
5回目	荀子の思想について(定命論的礼理論と宿命論的現象)	13回目	莊子の思想について(万物齊同)
6回目	荀子の思想について(定命論的礼理論の限界)	14回目	莊子の思想について(その人となり)
7回目	老子の思想について(<道>—真理・力—)	15回目	学習内容のまとめ
8回目	老子の思想について(<道>への道程—修行—)		

◆教科書 **【当日資料配布】** 当日プリント配布。

通材 『東洋思想史Ⅰ P 20300』通信教育教材(教材コード 000392) 2,250円(送料込)

漢和辞典を用意してください。

◆参考書 指定しない。

◆成績評価基準 授業への取り組み(発表など)・レポート・テストにより総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本史を通観してみよう

金曜日 1時限

〔日本史概説／日本史概論〕

担当者：鍋本 由徳

◆学修到達目標 本科目では、①「日本史」とは何か、②原始・古代～現代までの歴史的変遷、③「歴史事実」の多様性への理解などを、世界のなかでの日本を意識しながら学び、「日本史」全体を考える技術と態度の修得をめざします。社会・外交の内容を中心に据えながら、社会・経済との関わりへの理解を深めます。

◆授業方法 原則として教科書記述を参考にしながら進めます。教科書記述と異なる解釈や事例に触れることが多いため、プリントやスクリーンを併用しながら講義します。

◆準備学修 事前学修のシートを用いて、教科書内容の概要を把握していることが前提ですので、教科書を読んでおくことが必要です。シートへの記述は自分の理解できるレベルでかまいません（提出不要）

◆履修条件 平成30年度地方スクーリング（9月期）「日本史概説／日本史概論」との積み重ね不可。

◆授業計画（各90分）

1回目	日本史概説の特性と学びの意味	9回目	戦国社会と近世社会
2回目	倭の五王に至るまで	10回目	改革と江戸文化
3回目	冊封体制と列島	11回目	明治の政治・社会運動
4回目	古代の文化と歴史意識	12回目	米騒動と都市問題
5回目	天皇と貴族政治	13回目	日米関係のバランス
6回目	元寇と得宗体制	14回目	戦後日本の民主化
7回目	「日本国王」と勘合貿易	15回目	日本史概説の振り返りと今後の課題
8回目	中世文化の特質		

◆教科書 **当日資料配布** 当日参考プリントを必要に応じて配布。

通材 『日本史概説 Q30200』 通信教育教材（教材コード 000382）2,850円（送料込）
〈この教材は市販の『概論 日本歴史』佐々木潤之介著 吉川弘文館と同一です。〉

◆参考書 『最新版 角川新版日本史辞典』 角川書店 3,672円（税込）（送料450円）

〈上記の本は品切れのため、図書館等を利用してください。〉

配布プリントにて適宜紹介する。

◆成績評価基準 授業内提出レポート（70%）、授業内小テスト（30%）の総合評価

※ 15回全出席を前提とした評価です。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆自主創造の基礎 1

金曜日 2 時限

〔総合科目 I ~ VI〕

担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 「自主創造の基礎 1」では、大学生としての基本的な資質を育成することをねらいとしています。この授業科目は、いわゆる専門教育の前段となる基礎教育を担うためではなく、社会人として学修することの意義やその在り方について理解できるようになること、「学び続けていく力」をつけるためにあります。日本大学では、それを「自主創造型パーソン」と呼称しています。具体的には、①学ぶ意味に気づくことができる、②主体的に学ぶ喜びを意識することができる、③積極的に参加する姿勢をもつことができる、④自身が学ぶ大学について説明することができる、の4つを目標とするものです。

◆授業方法 この授業では、講義形式のほか、アクティブ・ラーニングの授業形態をとります。そのため、双方向かって対話型で行う「学生参加型」の授業を実践します。基本的には、「個人ワーク」、「グループワーク」、「発表・共有」の繰り返しにより授業を展開します。「グループワーク」で課題解決にあたるため、チームワークが重要になります。欠席のないように注意してください。「グローバルワーク」で課題解決にあたるため、チームワークが重要になります。欠席のないように注意してください。

◆準備学修 知識のインプットよりも集団で考えアウトプットすることに重点を置くため、課題を課すことがあります。その際は必ず予習を行い、授業に臨むようにしてください。

◆履修条件 授業初日から出席すること。

平成 30 年度夏間・土曜スクーリング（前期）「総合科目 I ~ VI」合格者は受講不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	スタートアップ(この授業のねらい、展開、到達点)	9回目	論理的文章を書く
2回目	コミュニケーションの基本要素	10回目	レポートの作成
3回目	大学で学ぶ（学修で必要なこと）	11回目	プレゼンテーションの方法
4回目	大学で学ぶ（通信教育部での学修方法）	12回目	グループでのプレゼンテーション（練習）
5回目	日本大学の歴史（メディア教材を使った反転授業）	13回目	グループワーク（テーマの決定）
6回目	日本大学通信教育部の歴史（70年史）	14回目	グループワーク（討論・準備）
7回目	学修方法（情報の収集、整理、図書館の利用）	15回目	①成果の発表 ②さらなる能力向上をめざして（評価）
8回目	情報の収集、整理、編集の実践		

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 資料・レジュメを配布する。

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 課題設定、問題探究、グループ内における議論、成果のまとめなどを総合的に判断して評価を行います。各回における課題やプロダクト、レポートなどを成績評価の対象とします。（※全回出席を前提とする）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆カーペンターズで学ぶ英語

★★☆〔英語 L〕

金曜日2時限

担当者：大庭 香江

◆学修到達目標 カーペンターズの曲の背景について述べられた英文を講読し、米国のポピュラーカルチャーについて学びます。

◆授業方法 カーペンターズのアルバム「青春の輝き」に収録された曲のリスニングを行い、曲の背景について述べられた英文を読みます。

◆準備学修 パッセージを読み、語彙を調べておきます。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	ガイダンス I Need to Be in Love	9回目	Hurting Each Other There's a Kind of Hush
2回目	We've Only Just Begun Superstar	10回目	Jambalaya (On the Bayou) For All We Know
3回目	Rainy Days and Mondays Top of the World	11回目	Touch Me When We're Dancing (They Long to Be) Close to You
4回目	Sing Only Yesterday	12回目	Yesterday Once More
5回目	Ticket to Ride Goodbye to Love	13回目	復習 1
6回目	It's Going to Take Some Time This Masquerade	14回目	復習 2
7回目	Sweet, Sweet Smile I Won't Last a Day Without You	15回目	試験
8回目	Solitaire Please Mr. Postman		

◆教科書 丸沼 『The Carpenters 22 Hits』 James House 著 成美堂 1,836 円 (税込) (送料 215 円)

◆参考書 授業時に、単元ごとに、関連する参考書や資料について御紹介致します。

◆成績評価基準 試験、及びレポート。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中学の英語をフランス語に変換します

〔フランス語Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日2時限

担当者：大庭 克夫

◆学修到達目標 英語にすれば中1～中2レベルの内容が、仏語でも言えて・書けて・聴き取れるようにするのが目標です。また11月の実用フランス語検定試験5級（意欲のある人なら4級も可能）にもぜひチャレンジしていただきたいと思います。授業でも過去問を使ってそのための演習時間を割く予定です。

◆授業方法 後期は何と言ても不規則動詞の活用（大切なものの数種類）と基本表現（曜日・月・季節・男性国名／女性国名など）を身に付けるのがメインです。授業自体は前期同様＜ゼミ形式＞で進めていきます。

◆準備学修 未習外国語の学習はレンガを1段ずつ垂直に積み上げていくのと同じです：2段目のレンガが1段目の上にしか載らないように、仏語もそれまでの内容をきちんと身に付けない限り新しい内容を習得することは不可能です。前週に習った事柄をしっかりと覚えてから翌週の授業に臨むこと、これが取りも直さず最大の予習です。

◆履修条件 この授業は当然前期からの継続です。フランス語Ⅰの学力のない初学者の受講は認めません。

◆授業計画（各90分）

1回目	数・曜日・月・季節mの習得1	9回目	実用フランス語検定試験演習2
2回目	数・曜日・月・季節mの習得2	10回目	不規則動詞の活用と用例4
3回目	<第2群規則動詞>の活用と用例	11回目	不規則動詞の活用と用例5
4回目	不規則動詞の活用と用例1	12回目	不規則動詞の活用と用例6
5回目	不規則動詞の活用と用例2	13回目	期末試験範囲まとめとヒヤリング演習
6回目	不規則動詞の活用と用例3	14回目	後期期末試験
7回目	後期中間試験	15回目	期末試験の返却と解説、今後の課題
8回目	実用フランス語検定試験演習1		

◆教科書 **当日資料配布** 授業で使用するプリントとCDはこちらで配布します。

前期同様、授業時には仏和辞典を必ず携行してください。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験は中間と期末の2回行い、成績はこの試験の結果（努力の結果）で判定します。なお試験は全問＜和文仏訳＞と＜書き取り＞（=CDの原文を書き取ったのち和訳）で出題します。安直な和訳・穴埋め等は一切出題しません。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ E.M.Forster から 20世紀の作家達まで

〔イギリス文学史Ⅱ〕

金曜日 2限

担当者：猪野 恵也

◆学修到達目標 E.M.Forster から 20世紀の作家達までイギリス文学における様々な作家達の作品を知り、それらをきっかけに各自が各作品を翻訳でもよいので実際に読み、鑑賞できるようにする。

◆授業方法 プリント（枚数多し）を用い、それらを基にすすめていく。

◆準備学修 授業計画を見、イギリス文学史を読んだり、実際に翻訳（できれば原書）を読んでおくとよい。

◆履修条件 前期から継続して履修することが望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	E.M.Forster Howards End	9回目	Evelyn Waugh Brideshead Revisited
2回目	D.H.Lawrence Lady Chatterley's Lover	10回目	Graham Greene Brighton Rock
3回目	George Orwell 1984	11回目	William Golding Lord of the Flies
4回目	Virginia Woolf Mrs Dalloway	12回目	Kazuo Ishigro Never Let Me Go
5回目	James Joyce Ulysses など	13回目	John McGahern Amongst Women
6回目	H.G.Wells The Invisible Man	14回目	Ian McEwan Atonement
7回目	T.S.Eliot The Waste Land	15回目	試験
8回目	William Somerset Maugham The Moon and Six Pence		

◆教科書 **当日資料配布**

◆参考書 **通材** 『イギリス文学史Ⅱ N30100』通信教育教材（教材コード 000112）3,200 円（送料込）

◆成績評価基準 試験(70%) 平常点(30%) 皆出席を前提にして評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆古代ギリシア（古典期以降）・ローマおよび中世の思想

〔西洋思想史Ⅰ〕

金曜日2時限

担当者：関谷 雄磨

◆学修到達目標 古代ギリシア（古典期以降）・ローマおよび中世の思想を、「幸福」の問題を軸に歴史的展開に沿って学びます。なお、単に思想史の知識を情報として得るだけでなく、受講生のみなさんが過去の思想家が抱いた問題意識を共有できるように努めます。それによって、ますます価値観が多様化する時代を生きる上で知っておくべき、西洋の基礎的な古典的教養を身につけることを目標とします。

◆授業方法 授業は講義形式で行います。本講座では、古代ギリシア古典期からルネサンスまでの様々な人物が登場しますが、理論としての思想だけでなく、彼らのエピソードや人物像をできるかぎり紹介し、なるべくリアリティのある授業を行いたいと思います。

◆準備学修 特に必要ありませんが、指定テキスト『哲学 B10700』の該当箇所を読んでおくとよいでしょう。

◆履修条件 過去三年間の秋期夜間スクーリング「西洋思想史Ⅰ」（関谷担当）との積み重ね不可。

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンスおよび古典期までのギリシア	9回目	古代ローマの哲学2＜エピクテトス、マルクス・アウレリウス、プロティノス＞
2回目	ソクラテス・プラトン＜魂の思想＞	10回目	キリスト教＜「愛」の思想＞
3回目	アリストテレス＜目的論的世界観と活動説＞	11回目	アウグスティヌス＜「罪」からの救い＞
4回目	キュレネ派＜快楽主義の哲学＞	12回目	中世哲学概説＜信仰と理性の問題＞
5回目	キュニコス派＜質実剛健と自足の哲学＞	13回目	ルネサンス＜エピローグー神々中心の世界観から人間中心の世界観へ＞
6回目	エピクロス派＜心の平安の哲学＞	14回目	総まとめ（質問コーナー）
7回目	古期ストア派＜不動心の哲学＞	15回目	試験
8回目	古代ローマの哲学1＜古代ローマとセネカ＞		

◆教科書 **当日資料配布** 授業の概要プリント

通材 『哲学 B10700』通信教育教材（教材コード 000404）3,650円（送料込）※学修指導書付。

〈この教材は『西洋思想の要諦周覧』嘉吉純夫 斎藤隆編著 北樹出版と同一です。〉

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 最終回に実施する試験によって評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆政治を見る眼を養う

〔政治学原論〕

担当者：吉野 篤

金曜日 3 時限

◆学修到達目標 主として現代の政治過程のさまざまなアクター、中でも政党、選挙制度を中心に取り上げ、政治過程の諸側面について考察することで、政治の現実的な営みを理解すること。併せて 20 世紀の政治学の歩みを振り返ることで、学問としての政治学の概要を理解すること。

◆授業方法 基本的には講義形式で行い、時宜に応じて新聞報道を題材として配付し、現実の政治問題がどのように生じ、どのような解決を迫られているかを考える。

◆準備学修 メディアの政治報道を注意深く観察して興味を高めること。もちろん、テキストの該当箇所をよく読み、問題点を整理すること。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	政治過程論の概説	9回目	政治過程論の概要
2回目	大衆社会の政治理論	10回目	シカゴ学派の生成と展開
3回目	政党の概念と機能	11回目	行動論政治学の特質
4回目	政党システムの分析枠組み ①	12回目	政治システム論の概要
5回目	政党システムの分析枠組み ②	13回目	脱行動論革命について
6回目	選挙の意義と機能	14回目	政治学の新展開 ① 新制度論の枠組
7回目	選挙制度の諸側面	15回目	政治学の新展開 ② まとめ
8回目	アメリカ政治学の特質		

◆教科書 丸沼 『Next 教科書シリーズ 政治学』第 2 版 吉野篤編 弘文堂 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 授業の中で指示する。

◆成績評価基準 基本的には期末試験で評価する。場合によっては出席点を加味する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆『論理学、別名思考の技法』を読む

【哲学基礎講読】

金曜日3時限

担当者：石井 友人

◆学修到達目標 17世紀西洋思想の古典アルノー、ニコル共著『論理学、別名思考の技法』から、詭弁と誤謬推理の分析、そして曖昧な事柄について判断する方法について読み解いていきます。本書は、単に論理法則に関わる著作ではなく、感情や偏見にとらわれやすい存在である人間が、いかにして過ちを免れうるのかを考える著作です。著者達の人間観を確認しながら、古典を読むのに必要な基礎知識を身につけていくことを目標とします。

◆授業方法 教科書と配布プリントを用いて講義形式で行いますが、質疑応答を取り入れ、受講者からの積極的な参加を期待します。最初は、専門的な知識を必要とする部分は避け、内容を大ざかにしていくことから始めます。理解を深めるために、教科書以外のテクストを読む事もあります（講読の進度により、授業計画を変更することもある）。

◆準備学修 教科書所収『論理学、別名思考の技法』第三部第十九、二十章に目を通しておいて下さい。

◆授業計画（各90分）

1回目	I. 様々な詭弁について	9回目	IV. 人間への信頼による知識
2回目	同上	10回目	・内的事情と外的事情
3回目	II. 日常生活における誤謬推理について	11回目	同上
4回目	同上	12回目	・共通事情と特殊事情
5回目	同上	13回目	同上
6回目	III. 記号について	14回目	・未来の事柄についての判断
7回目	・事物の名前が記号に与えられる命題について	15回目	試験
8回目	同上		

◆教科書 通材 『哲学基礎講読 P20100』通信教育教材（教材コード 00042）4,000円（送料込）

◆参考書 講義の中で紹介します。

◆成績評価基準 試験（リポートに変更の場合あり）と授業への参加度により総合的に評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆市場に対して行った意思決定の影響を測定する

〔市場調査論〕

金曜日 3 時限

担当者：最上 健児

- ◆学修到達目標 指数曲線におけるパラメータの推定を行うことができる。
ロジスティック曲線におけるパラメータの推定を行うことができる。
ロジットモデルを理解する。

◆授業方法 授業の前半でその日の講義に必要な知識を説明し、それに基づき授業を進めていく。一回ごとに話題を区切って説明しているが、全体を通して大きな話題を取り扱っていく。資料はネットで配信するので、書き写す必要はないが内容を理解するためにノートをとることを強く進める。

◆準備学修 線形回帰モデルによるパラメータの推定を行えることが前提となる説明であるため、線形回帰モデルを取り扱っている授業の内容を理解していることが好ましい。数学的に必要な内容はすべて講義の中で説明する。予習している必要はないが復習しておくことが好ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	X^2 の微分	9回目	2 項ロジットと確率の公理
2回目	指数と対数	10回目	第一種極値分布
3回目	需要の価格弾力性	11回目	2 項ロジットの確率的部分
4回目	ロジスティック曲線の紹介	12回目	2 項ロジットの確定的部分
5回目	ロジスティック変換による推定	13回目	2 項ロジットの多変数化
6回目	最尤法による推定	14回目	対数変換時における注意事項
7回目	パラメータの解釈	15回目	多項ロジットモデルへの拡張
8回目	交互作用と順序データへの対応		

◆教科書 **当日資料配布** ネットで配信する。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 レポートで評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆近松門左衛門の世話淨瑠璃に親しむ

〔国文学概論〕

金曜日 4時限

担当者：山崎 泉

◆学修到達目標 近世を代表する劇作家である近松門左衛門の世話淨瑠璃作品の中から、『曾根崎心中』を講読します。日本の古典文学の魅力の一端に触れつつ、古典作品の読み解き向上及び大学で国文学を学ぶ上での基本的なスキル習得を目指します。

◆授業方法 主に講義形式で行います。

近松門左衛門が活躍した近世の文学状況及び近松の生涯とその作品について概説した後、彼の最初の世話淨瑠璃作品である『曾根崎心中』を講読します。

◆準備学修 テキストに一通り目を通しておいて下さい。授業においては原文を中心に読み進めていきます。講読に際しては、原文の音読を受講生の皆さんにそれぞれ分担して担当して頂く予定ですので、きちんと読めるように事前に準備をして置いて下さい。「国文学概論」テキストをお持ちの方は、淨瑠璃の項目にも目を通しておくとよいでしょう。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス・国文学とは何か	9回目	『曾根崎心中』講読⑥
2回目	近世文学について（概説） 人形淨瑠璃の歴史①	10回目	『曾根崎心中』講読⑦
3回目	人形淨瑠璃の歴史② 近松門左衛門 その生涯と作品	11回目	『曾根崎心中』講読⑧
4回目	『曾根崎心中』講読①	12回目	『曾根崎心中』講読⑨
5回目	『曾根崎心中』講読②	13回目	文楽『曾根崎心中』鑑賞
6回目	『曾根崎心中』講読③	14回目	まとめ
7回目	『曾根崎心中』講読④	15回目	試験
8回目	『曾根崎心中』講読⑤		

◆教科書 当日資料配布 当日、プリントを配布します。

丸沼 『曾根崎心中 寅途の飛脚 心中天の網島 現代語訳付き』 近松門左衛門著 諏訪春雄脚注
角川学芸出版（角川ソフィア文庫） 907円（税込）（送料 215円）

◆参考書 授業時に紹介します。

◆成績評価基準 平常点（20%）、試験（80%）。毎回出席することを前提として採点します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆世界の多様な宗教を理解する2

〔宗教学概論〕

金曜日 4時限

担当者：合田 秀行

◆学修到達目標 世界の諸宗教に関する幅広い知識の習得を目的とします。後期は、主にセム系一神教と称されるユダヤ教・キリスト教・イスラム教に関する歴史や教義について理解を深めることを主眼とします。さらに、その他の諸宗教、たとえば、日本とも関係の深い儒教・道教・神道・アイヌの宗教などについても基本的な知識を学びます。

◆授業方法 指定した市販のテキストを教科書に基づいて、講義形式で進めます。前期に引き続いて、第3章「ユダヤ教」から始めて、第6章「その他の宗教」まで、テキストに従って進めていきます。このテキストの特徴でもある図解を用いて、最新の成果に基づき、多角的に学びます。適時、関連する映像資料も活用してより理解を深めます。

◆準備学修 予め指定した教科書の範囲に目を通して講義に臨んで下さい。目安としては、一回の講義でテキスト10ページ（そのうち半分は図解ページ）程度のペースで進めていく予定です。学期末には、講義で触れた内容の中から各自でテーマを設定してレポートを作成してもらいますので、その点も念頭において受講してください。

◆授業計画（各90分）

1回目	宗教学の特徴の概説	9回目	キリスト教5 各宗派の成立
2回目	ユダヤ教1 歴史的展開	10回目	キリスト教6 教会の歴史的展開
3回目	ユダヤ教2 主要な教義	11回目	イスラム教1 概観と『コーラン（クルアーン）』
4回目	ユダヤ教3 聖書とタルムード	12回目	イスラム教2 歴史的展開
5回目	キリスト教1 概観とイエスという人物伝	13回目	イスラム教3 主要な教義
6回目	キリスト教2 イエスの言葉	14回目	その他の宗教1 ジャイナ教・儒教・道教
7回目	キリスト教3 使徒たちとパウロの言葉	15回目	その他の宗教2 神道・アイヌの宗教・新宗教
8回目	キリスト教4 主要な教義		

◆教科書 丸沼 『図説 世界5大宗教全史』中村圭志 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2,376円(税込)(送料350円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 小テスト(30%)、レポート(70%) 3回程度、講義内で実施する簡単な小テストと学期末に各自でテーマを設定してもらい作成したレポートとで総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆商業と帝国主義の関係を学びましょう

〔商業史〕

金曜日 4 時限

オープン受講：不可 担当者：竹内 真人

◆学修到達目標 商業史（後期）では、商業史・帝国史における主要な学説・理論を紹介・整理する。現代世界の諸問題を歴史学的に考察するための知的枠組みを構築できるようになることを目的としている。

◆授業方法 プリント（資料）を活用して授業を行う。

◆準備学修 指定した参考書を予習・復習時に熟読し、授業範囲の専門用語を調べて意味をよく理解しておくこと。

◆履修条件 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	「商業史（後期）」の課題と方法	9回目	ジェントルマン資本主義論への諸批判
2回目	資本主義的世界体制の成立	10回目	ブローデル『地中海』の方法
3回目	重商主義、自由貿易主義、帝国主義	11回目	近代世界システム論
4回目	ホブスン・レーニンの帝国主義論	12回目	文化帝国主義論
5回目	シュンペーターの帝国主義論	13回目	ブリティッシュ・ワールド論
6回目	自由貿易帝国主義論	14回目	脱植民地化とグローバリゼーション
7回目	周辺理論	15回目	まとめ及び試験
8回目	ジェントルマン資本主義論		

◆教科書 **当日資料配布** 特に教科書は指定せず、当日にプリント（資料）を配布する。

◆参考書 **通材** 『商業史 S32100』 通信教育教材（教材コード 000555） 1,750 円（送料込）※学修指導書付。
〈この教材は市販の『イギリス帝国の歴史—アジアから考える—』 秋田茂著 中央公論新社と同一です。〉

◆成績評価基準 試験の結果（80%）、授業への取り組み（授業内レポート等、20%）をもって総合的に評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆我々はなぜ争うのか？

〔社会学〕

金曜日5時限

担当者：服部 慶亘

◆学修到達目標 世の中は「自分の思い通りにいくものではない！」ということを理解しなければ、社会生活を成り立たせることは出来ない。また、自分が正しいと信じたことが正当に評価されないことが多い。すなわち、我々の日常生活には様々な異質性が存在するのである。そこで、前期の講義内容をもとにしつつ、「闘争」「調和」をキーワードに、目の前の現実を見つめ直すことを目指すのが、本講義の目的である。

◆授業方法 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD, DVD, マンガ、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって、講義を単に「聞く」のではなく、講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。また、前期の講義内容との関連性も随時紹介する。

◆準備学修 特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で、次の講義にのぞんでほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

◆履修条件 前期から続けての履修が望ましい（後期入学生や再受講学生を除く）

◆授業計画（各 90 分）

1回目	講義目標・目的の確認	9回目	「正義」の含意② わたかくし①
2回目	「問題行動」について	10回目	「正義」の含意③ わたかくし②
3回目	「価値判断」からの自由	11回目	「正義」の含意④ 「正義」の規準
4回目	福祉的観点① 「福祉」の本質	12回目	以和為貴① 日本（人）的「和」
5回目	福祉的観点② double happiness	13回目	以和為貴② 「和」の含意
6回目	資本家と労働者① マルクス	14回目	講義内容の再考
7回目	資本家と労働者② J. S. ミル	15回目	まとめ
8回目	「正義」の含意① 日本人的発想		

◆教科書 丸沼 『人間生活の理論と構造』 夏刈康男（ほか） 学文社 2,700円（税込）（送料 350円）

丸沼 『補強版ストレス・スパイラル』 服部慶亘 人間の科学社 1,296円（税込）（送料 300円）

◆参考書 当日資料配布 プリント配布

◆成績評価基準 終講試験（70%）、受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆明治・大正期の日本政治

〔日本政治史〕

金曜日5時限

オープン受講：不可 担当者：石川 徳幸

◆学修到達目標 本講義では、近代日本において展開された政治を通史の形で学んでいく。歴史の流れを正しく把握するためには、時代ごとに区切って学ぶことは得策ではないが、便宜上、本講義では明治後期から大正期を対象とする。対外戦争に臨んだ歴史的背景や大正政変などの国内政治の過程を理解するとともに、歴史的事象の見方や考え方を身につけてもらいたい。

◆授業方法 基本的には、教科書の章立てに沿った形で講述する。授業内容は、あくまでも初学者を対象とした内容で構成しているが、高校までの歴史科目で扱われている基本的な出来事や人物に関しては、おおむね理解していることを前提に話を進める。受講にあたっては、各自、ノートを必ず持参すること。

◆準備学修 予習として、事前に教科書の該当範囲に目を通しておくこと（毎時、授業の終わりに次回に扱う範囲を告知する）。復習として、受講中にとったメモを整理し、ノートをまとめておくこと。

◆履修条件 平成30年度昼間スクーリング（前期）「日本政治史」（石川担当）を受講していることが望ましい。

◆授業計画（各90分）

1回目	イントロダクション	9回目	明治の終焉
2回目	憲法制定と諸制度の改革・整備	10回目	大正政変（第一次護憲運動）
3回目	帝国議会の開設	11回目	第一次世界大戦
4回目	藩閥勢力と民党の抗争	12回目	寺内超然内閣と米騒動
5回目	日清戦争	13回目	政党政治の展開
6回目	政党政治の誕生（隈板内閣）	14回目	第二次護憲運動
7回目	立憲政友会の誕生と桂内閣	15回目	総括
8回目	日露戦争		

◆教科書 通材 『日本政治史 L30400』通信教育教材（教材コード 000452）3,400円（送料込）

◆参考書 ※参考書は、必要に応じて授業の中で紹介する。

◆成績評価基準 筆記試験の結果をもとに成績評価を行う。なお、全体の3分の1を超える欠席がある場合、評価の対象としない。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

MEMO

講座の選定

時間割

（火曜日）シラバスと教材の開講講座表

（水曜日）シラバスと教材の開講講座表

（木曜日）シラバスと教材の開講講座表

（金曜日）シラバスと教材の開講講座表

（土曜日）シラバスと教材の開講講座表

受講及び試験

受講手続

申込講座の許可と不許可

受講料の納入

受講準備

オープソ受講各種用紙

付
録

【土曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ー ブ 講ン
					科 目 コ ー ド	科 目名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
1 ・ 2 時限	AM11	生徒指導・ 進路指導論	古賀 徹	2	T30500	生徒指導・ 進路指導論	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆講座内容（シラバス）

◆現場で必要とされる生徒指導とは？

【生徒指導・進路指導論】

土曜日 1・2 時限

担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 この授業では教育実践で求められる「生徒指導」に必要な知識・技能を修得することと、様々な場面指導実演（ロールプレイ）を通して、次の四点を身につけることを目指しています。(1) 生徒指導の意義、必要性を理解する。(2) カウンセリング・相談（対応）の方法や、グループワーク等の方法を実践して修得する。(3) 様々なデータ（調査資料・統計の数値）を読み解し、現象を把握し対策を考えることができる。(4) 生徒指導上の問題、キャリア教育、学校における問題行動について理解する。

◆授業方法 講義形式に加えて、ロールプレイ、さらに複雑なサイコドラマ、またワークショップ形式での話し合い（学びあい）など、多様な方法（アクティブラーニング）をとりいれます。学校現場では様々な場面・環境に応じた指導法が必要とされています。

◆準備学修 この授業では、生徒指導に関する一般的な知識、教科書に書かれている理論についてももちろん学んでいきますが、ピア・カウンセリング、論理療法のカウンセリングなど、学校現場で実効性があると評価されている最新の指導法を学修していただきます。そのためには積極的な取り組みかた、意欲的に参加していただくことが必要です。学校の周囲の問題もとりあげますので、受講する皆さんも授業以外にも様々な教育問題、教育に関する話題・情報に関心をもち、ニュース等をメモして整理しておくことをおすすめします。また、ボランティア活動など地域活動に参画するなど、様々な体験活動についてもとりあげます。自身の在住する地域の実情について関心をもって調べておくと、スキルアップのためのヒントにつながるかと思います。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	生徒指導とは何か？ 個人指導と集団指導 (1) 対人理解の方法論
2回目	個人指導と集団指導 (2) 集団の中での個人 (3) カウンセリング理論
3回目	個人指導と集団指導 (4) 論理療法 (5) グループワーク
4回目	進路指導の問題 (1) 「格差」拡大の社会 (2) 「ニート」問題
5回目	進路指導の問題 (3) 「キャリア教育」 自律・自立のための指導「生きる力」
6回目	場面指導 (1) 叱り方・「私語」をなくす (2) 障がいを抱える生徒への対応
7回目	全国いじめ実態調査の動向 家庭との連携・地域社会との連携という課題
8回目	生徒指導・進路指導とは何であったか？

◆教科書 **当日資料配布** 資料・レジュメを配布する。

◆参考書 『学習指導要領』（中学校・高等学校）及び各種生徒指導資料
他は、授業中に指示する。

◆成績評価基準 この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。
出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

V 受講及び試験

1 講座受講時の注意点

① ポータルサイト及び 掲示板で最新情報の 確認

登校の際は、通信教育部1号館1階学生ホールにある掲示版で最新情報を確認してから講義に出席してください。
また、「講堂変更」・「休講」等、日々の授業に関する情報についても隨時、ポータルサイトや掲示板でお知らせします。

② 受講上の注意 (出席・欠席・遅刻等)

【出席について】
スクーリングは、毎回出席することを原則としています。
交通機関の遅れや特別な事情がある場合以外での遅刻はしないよう心掛けてください。
※授業を途中から受講することは、担当教員や周りの受講者に対して迷惑な行為です。時間に余裕を持って行動してください。

【欠席について】
止むを得ぬ事情によりスクーリングを欠席した場合は、次回の出席時に直接、担当教員へ欠席した旨を伝えてください。事務局及び講師室では、欠席の連絡は受け付けません。

③ 受講上の注意 (休講・補講)

【休講について】
スクーリング期間中、担当教員の都合や天候により授業を休講する場合があります。

- ① 事前に情報を得ている場合は、ポータルサイト及び掲示板でお知らせします。
- ② 当日、急きょ、担当教員の体調不良等の理由により休講する場合は、職員より通知があります。なお、その際出席をとるといったことはいたしません。
- ③ その他、天候により急きょ、休講となる場合はホームページ、ポータルサイトにてお知らせします。

【補講について】

スクーリング期間中に休講した場合、必ず補講を実施します。補講は、下記の①もしくは②の日程で実施します。

- ① 補講日程に実施
12月17日(月)、12月22日(土)
- ② スクーリング期間中のその他日程

「スクーリング試験」受験上の注意

- 1 「学生証」を机上通路側の監督者が見やすいところに置くこと。受講手続及び受講料納入がない場合、受験できない。
- 2 「学生証」を忘れた場合は、顔写真付きの身分証明書を机上通路側に置くこと。それもない場合は、担当教員（監督者）の指示を受けること。
- 3 携帯電話等は、電源を切り、鞄等に収納し身体から離しておくこと。時計・電卓としての使用も禁止する。
- 4 持ち込みを許可されたもの以外は机上に置かないこと。
- 5 解答用紙は、1人1枚とし、再交付はしない。
- 6 解答用紙の下段、太線枠内※印の事項については、必ずペン又はボールペンで記入すること。当該事項について記載がない場合又は誤記等は採点の対象にならない場合がある。
- 7 試験開始後20分以上遅刻した者は受験することができない。
- 8 途中退場は、試験監督者の指示がある場合に限り、試験開始30分後から認める。解答用紙を試験監督者に提出して退場すること。なお、用紙の持ち帰りは一切認めない。
- 9 試験場では、試験監督者の指示に従うこと。
- 10 不正行為（不正とみなされる行為含む）は絶対行わないこと。不正行為を行った場合は、学則により処分（停学・退学等）される。

※試験中の参考物等の貸し借りは不正行為とみなす。

2 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は、平成30年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し、ポータルサイトでお知らせします。ただし、スクーリングの申込を「受講届」にて行った場合には、教務課から、結果通知を郵送します。ポータルサイトから申込みを行った場合には送付されませんので、あらかじめご了承ください。掲載の開始はポータルサイトの「お知らせ」に掲載します。

電話・郵便による問い合わせには一切応じることができません。また、スクーリング結果通知の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していかなる配慮も行いませんので、スクーリング結果通知を紛失した場合などはポータルサイトで確認、又は「単位照合票」の交付を受け、確認してください。

結果内容に疑義がある場合は、結果通知日から3ヶ月以内に教務課まで問い合わせてください。なお、それ以降の疑義に関しては対応いたしません。

結果発表時期	平成31年2月中旬
--------	-----------

① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

② 単位数

結果が「合格」の場合、開講講座表に記載されている開講単位数を修得したことになり、また同時にスクーリング単位も修得したことになります。

1 履修登録をする

履修登録上の注意事項

「ポータルサイト」と「履修届」の両方で申込みがあった場合は、「ポータルサイト」の内容を有効とします。

① 「ポータルサイト」による申込み

●履修登録の前に

1	履修登録には、IDとパスワードが必要です。 ID = 学生番号 初期パスワード = 自分の西暦生年月日（半角数字8桁）
2	履修登録の受付メールを受信するには、メールアドレスの登録が必要です。 「学生メニュー」の「学生情報照会・修正」より、送付先アドレスを事前に登録してください。

●履修登録方法

1	通信教育部公式ホームページ（URL: http://www.dld.nihon-u.ac.jp ）の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し、「履修登録」をクリックしてください。	
3	履修登録科目の一覧から登録したい科目のチェックボックスを選択し、[登録確認] ボタンをクリックしてください。 ※一覧には学修が開始できる科目が表示されます。	

4	履修登録する科目を確認し、 【登録実行】 ボタンをクリックしてください。	
5	履修登録が完了すると、登録されているメールアドレスに受付通知メールが配信されます。	

●履修登録確認

1	履修登録方法の1の手順で、ログインしてください。
2	「学生メニュー」を選択し、「履修登録確認表」をクリックしてください。

●履修登録の変更・取りやめ

同一履修年度かつまだ、学修を開始していない科目に限り、「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

1	履修登録方法の1・2の手順で、履修登録の画面まで進んでください。
2	取り消したい科目的前の「消しゴム」部分をクリックし、「取消」に変わったら、 【登録確認】 ボタンをクリックし、履修登録方法の4・5の手順で変更を完了させてください。

② 「履修届」による申込み

「履修届」による申込みは、以下の要領で本誌巻末の「履修届」を作成し、教務課に提出してください。

履修登録年度	平成 30 年度	履修届	提出年月日	平成 30 年 10 月 1 日																																																																	
学生番号	12171000	プリガナ 氏名 日大花子	電話番号	090-0000-0000 <small>(必ず連絡のとれる電話番号を記入すること)</small>																																																																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">科目コード</th> <th style="width: 45%;">科目名</th> <th style="width: 15%;">単位</th> <th style="width: 25%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 B10700</td><td>哲学</td><td>4</td><td>14</td></tr> <tr><td>2 C10100</td><td>英語 I</td><td>2</td><td>15</td></tr> <tr><td>3 C10200</td><td>英語 II</td><td>2</td><td>16</td></tr> <tr><td>4 H10100</td><td>保健体育講義 I</td><td>1</td><td>17</td></tr> <tr><td>5 L30100</td><td>行政学</td><td>4</td><td>18</td></tr> <tr><td>6 K20100</td><td>憲法</td><td>4</td><td>19</td></tr> <tr><td>7 K20200</td><td>民法 I</td><td>4</td><td>20</td></tr> <tr><td>8 K20300</td><td>刑法 I</td><td>4</td><td>21</td></tr> <tr><td>9 J101S0</td><td>体育実技 I</td><td>1</td><td>22</td></tr> <tr><td>10 B11700</td><td>政治学</td><td>4</td><td>23</td></tr> <tr><td>11 T10100</td><td>現代教職論</td><td>2</td><td>24</td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td>25</td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">記入例 0123456789</td> <td style="text-align: center;">(4)</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">合計 28 単位</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">← 年間 48 単位まで登録できます。 教職生および 2 学年以上の教職コース登録者は年間 60 単位まで登録できます。</td> </tr> </tbody> </table>					科目コード	科目名	単位		1 B10700	哲学	4	14	2 C10100	英語 I	2	15	3 C10200	英語 II	2	16	4 H10100	保健体育講義 I	1	17	5 L30100	行政学	4	18	6 K20100	憲法	4	19	7 K20200	民法 I	4	20	8 K20300	刑法 I	4	21	9 J101S0	体育実技 I	1	22	10 B11700	政治学	4	23	11 T10100	現代教職論	2	24	12			25	13				記入例 0123456789			(4)	合計 28 単位			← 年間 48 単位まで登録できます。 教職生および 2 学年以上の教職コース登録者は年間 60 単位まで登録できます。	
科目コード	科目名	単位																																																																			
1 B10700	哲学	4	14																																																																		
2 C10100	英語 I	2	15																																																																		
3 C10200	英語 II	2	16																																																																		
4 H10100	保健体育講義 I	1	17																																																																		
5 L30100	行政学	4	18																																																																		
6 K20100	憲法	4	19																																																																		
7 K20200	民法 I	4	20																																																																		
8 K20300	刑法 I	4	21																																																																		
9 J101S0	体育実技 I	1	22																																																																		
10 B11700	政治学	4	23																																																																		
11 T10100	現代教職論	2	24																																																																		
12			25																																																																		
13																																																																					
記入例 0123456789			(4)																																																																		
合計 28 単位			← 年間 48 単位まで登録できます。 教職生および 2 学年以上の教職コース登録者は年間 60 単位まで登録できます。																																																																		

書き損じた場合は、修正テープ又は修正液で訂正してください。

訂正線で訂正する場合は、訂正印は不要です。

(1) 登録年度

本履修届にて履修登録する場合は、前期生は「平成 30 年度」、後期生は「平成 29 年度」と記入してください。

(2) 学生番号・氏名・提出年月日・電話番号

電話番号は、記載事項を確認する場合に使用します。確実に連絡のとれる電話番号を記載してください。

(3) 科目コード・科目名

科目コード及び科目名は、『学修要覧』又は『コース履修の手引』を確認し、科目コード（6ヶタ）を記入してください。不備がある場合は受理できませんので注意してください。

(4) 単位

各科目の所定単位を記入してください。

(5) 合計単位

必ず合計単位数を記入してください。

【よくある不備】

- ・科目コード及び科目名の記入漏れ
- ・科目コードと科目名の不一致
- ・不配当科目的記入（例：3 学年から履修登録できる科目を 2 学年で「履修届」に記入する。）
学部や入学年度によって名称が異なる科目や登録できない科目があります。
特に教職コースの科目は注意が必要です。
- ・「卒業論文」、「博物館実習Ⅱ」及び「博物館実習Ⅲ」、「教育実習」及び「教育実践指導」及び「教育実習事前・事後指導」、「教職実践演習」は履修登録する必要はありません。従って履修届には記載しないでください。
- ・「履修届」とは別の手続きとなります。『学修要覧』及び『コース履修の手引』を確認してください。
- ・履修登録済みの科目的記入
一度履修登録した科目は在学中有効ですので、再度履修登録することはできません。
もし記入された場合は、『履修登録エラーライブ』に『すでに履修登録済みの科目です。』と表記されます。
- ・スクーリング等で所定単位が 4 単位の科目で、2 单位分修得している科目は登録できません。履修登録済と同様の扱いとなります。
- ・単位修得済み科目的記入
単位修得済み科目的登録はできません。
もし記入された場合は、『履修登録エラーライブ』に『修得済みのため再履修できません。』と表記されます。
- ・年間登録単位を超過
年間 48 単位（教職生及び 2 学年以上の教職コース履修生は 60 単位）まで履修できます。
もし超過して記入された場合は、『履修登録エラーライブ』に『履修制限単位を超えた履修登録はできません。』と表記されます。

③ 履修登録上の注意

- ・「履修届」の不備内容によっては、受理せず返却する場合があります（不受理）。したがって、科目修得試験やスクーリング併用試験方式等の履修登録締切日以前に「履修届」が大学に到着していても、不受理の場合は履修登録にならず、試験の申し込みができません。
 - ・履修登録を行っただけでは、教科書の配本はありません。配本申請を別途行う必要があります。
 - ・履修登録済みの科目の変更、取消しは同一履修年度かつ学修を行っていない（リポート未提出、スクーリング申込みなし等）場合のみ可能です。追加は上限に達していない場合、Web 履修登録や巻末の「履修届」をコピーして使用してください。
 - ・履修登録を行っただけでは、スクーリングの申込みとはなりません。後述の『2 講座を申し込む』を必ず行ってください。申込みが完了しておらず、受講料を納入していない場合、受講は認めません。

2 講座を申し込む

申し込み上の注意事項

「ポータルサイト」と「受講届」の両方で申込みがあった場合は、「ポータルサイト」の内容を有効とします。

① 「ポータルサイト」による申込み

●申込みの前に

- | | |
|---|---|
| 1 | 申込みには、IDとパスワードが必要です。
ID = 学生番号
初期パスワード = 自分の西暦生年月日（半角数字8桁） |
| 2 | 申込みには、パソコンのメールアドレスの登録が必要です。
登録していない場合は、「ポータルサイト」にある「NU-AppsG（在学生専用メールアカウント）」を参照して登録してください。 |
| 3 | 事前に履修登録が必要です。履修登録を行っていない科目は表示されません。
●ページ参照 |

●申込方法

- 1 通信教育部公式ホームページ (URL:<http://www.dld.nihon-u.ac.jp>) の「在学生ログイン」をクリックしてください。
 - 2 「学生メニュー」を選択し、「スクーリング申請・取消」をクリックしてください。



<p>3 「未申請スクーリング一覧」から申請したいスクーリングのチェックボックスを選択し、申請ボタンをクリックしてください。</p> <p>※履修登録を行った科目のみ表示されます。 必ず事前に履修登録を行ってください。</p>	<p>スクリーニング申請一覧</p> <p>申請済みスクリーニング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクリーニング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期間</th> <th>開講日程</th> <th>開講場所</th> <th>申請年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録</td> <td>84B6</td> <td>倫理学実論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理学</td> <td>2015/04/01 04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> <td>2015/02/26</td> </tr> </tbody> </table> <p>申請</p> <p>未申請スクリーニング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクリーニング名</th> <th>申請期間</th> <th>開講日程</th> <th>開講場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録</td> <td>84B6</td> <td>倫理学実論</td> <td>012D100130</td> <td>倫理学</td> <td>2015/04/01 04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> <tr> <td>登録</td> <td>01CE</td> <td>哲学 A</td> <td>01CEB10700</td> <td>哲学</td> <td>2015/04/01 04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> <tr> <td>登録</td> <td>01BN</td> <td>英語 B</td> <td>043D100430</td> <td>英語Ⅲ</td> <td>2015/04/01 04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> </tbody> </table> <p>申請</p>	期間	講座コード	講座名	コード	スクリーニング名	受講希望方式	申請期間	開講日程	開講場所	申請年月	登録	84B6	倫理学実論	012D100120	倫理学	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26	期間	講座コード	講座名	コード	スクリーニング名	申請期間	開講日程	開講場所	登録	84B6	倫理学実論	012D100130	倫理学	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部	登録	01CE	哲学 A	01CEB10700	哲学	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部	登録	01BN	英語 B	043D100430	英語Ⅲ	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部
期間	講座コード	講座名	コード	スクリーニング名	受講希望方式	申請期間	開講日程	開講場所	申請年月																																							
登録	84B6	倫理学実論	012D100120	倫理学	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26																																									
期間	講座コード	講座名	コード	スクリーニング名	申請期間	開講日程	開講場所																																									
登録	84B6	倫理学実論	012D100130	倫理学	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部																																										
登録	01CE	哲学 A	01CEB10700	哲学	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部																																										
登録	01BN	英語 B	043D100430	英語Ⅲ	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部																																										

●受付完了

申請受付が完了すると、登録されているパソコンのメールアドレスに申請受付メールが配信されます。配信されない場合は、「スクリーニング・メディア授業申請・取消」内の「申請済みスクリーニング一覧」に該当講座があることを確認してください。

スクリーニング申請一覧

申請済みスクリーニング一覧

期間	講座コード	講座名	コード	スクリーニング名	希望	申請期間	開講日程	開講場所	申請年月
登録	84B6	倫理学実論	012D100130	倫理学	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26		

申請

●申込確認

隨時、「ポータルサイト」で確認することができます。

<p>1 申込方法の1の手順で、ログインしてください。</p> <p>2 「学生メニュー」を選択し、「スクリーニング・メディア授業情報一覧」をクリックしてください。</p> <p>3 申込みをしたスクリーニング・メディア授業の一覧が表示されますので、内容を確認してください。</p>	<p>HOME 学生メニュー 受業情報 MYプロフィール 質問／相談 アンケート リンク</p> <p>Menu</p> <p>メニュー</p> <p>履修</p> <p>■履修登録 ■単位修得実績表</p> <p>スクリーニング申請・取消</p> <p>スクリーニング情報一覧</p> <p>スクリーニング情報一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開講年度</th> <th>期間</th> <th>開講地</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクリーニング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>開講日程</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015 夏!</td> <td>東京 COAT</td> <td>保健体育</td> <td>COAT10100</td> <td>保健体育講義</td> <td></td> <td>保健体育講義</td> <td>2015/07/01~08/02</td> <td>06/01~08/02</td> </tr> </tbody> </table>	開講年度	期間	開講地	講座コード	講座名	コード	スクリーニング名	受講希望方式	開講日程	評価	2015 夏!	東京 COAT	保健体育	COAT10100	保健体育講義		保健体育講義	2015/07/01~08/02	06/01~08/02
開講年度	期間	開講地	講座コード	講座名	コード	スクリーニング名	受講希望方式	開講日程	評価											
2015 夏!	東京 COAT	保健体育	COAT10100	保健体育講義		保健体育講義	2015/07/01~08/02	06/01~08/02												

●申込内容の変更・取りやめ

申込期間内に限り、「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

<p>1 申込方法の1~2の手順で、申請中のスクリーニングの画面まで進んでください。</p> <p>2 「申請済みスクリーニング一覧」より取消したいスクリーニングのチェックボックスを選択し、取消ボタンをクリックしてください。申込内容を変更する場合は、いったん取消後、再度申請してください。</p>	<p>スクリーニング申請一覧</p> <p>申請済みスクリーニング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクリーニング名</th> <th>希望</th> <th>申請期間</th> <th>開講日程</th> <th>開講場所</th> <th>申請年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録</td> <td>84B6</td> <td>倫理学実論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理学</td> <td>2015/04/01 04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> <td>2015/02/26</td> </tr> </tbody> </table> <p>取消</p>	期間	講座コード	講座名	コード	スクリーニング名	希望	申請期間	開講日程	開講場所	申請年月	登録	84B6	倫理学実論	012D100120	倫理学	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26
期間	講座コード	講座名	コード	スクリーニング名	希望	申請期間	開講日程	開講場所	申請年月										
登録	84B6	倫理学実論	012D100120	倫理学	2015/04/01 04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26												

※申込期限後に、スクリーニング申込はできません。

- ② 「受講届」による申込み（ポータルサイトで申込みを行った場合は不要です）
「受講届」による申込みは、以下の要領で本誌巻末の「受講届」を作成し、教務課に提出してください。

(1) 記入上の注意

(ア) 講座コード

開講講座のコード番号です。記入にあたっては、「開講講座表」の「講座コード」欄を参照してください。

(イ) 講座名

開講される講座の名称です。この講座名を「開講講座表」を参照の上、記入してください。間違えて「充当科目名」を記入しないよう注意してください。

(ウ) 充当科目コード

開講講座の単位修得により充当できる科目のコード番号です。記入にあたっては、「開講講座表」の「科目コード」欄、及び後掲の「(2) 注意事項」を参照してください。

(エ) 学生番号・氏名

(2) 注意事項（「総合科目」、「英語」などの外国語科目及び「各演習科目」など）

例えば、「英語」の講座は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」及び「英語Ⅳ」という科目を含んで開講されます。今回のスクリーリングで「英語Ⅰ～Ⅳ」のどの科目に充当させるかは、各自の履修状況・履修計画によって異なります。したがって、英語をスクリーリングで受講する際には、「受講届」に記載する充当科目コードによって「英語Ⅰ～Ⅳ」のうちどの科目で受講するのか、各自が大学に申告しなければなりません。

「受講届」では4桁の講座コードと6桁の充当科目コードの計10桁のコードによって、受講講座（科目）を登録します。コードは「開講講座表」の「講座コード」欄、「科目コード」欄に記載されています。

「英語」の場合、「開講講座表」の「科目コード」欄に4つのコードが記載されていますが、各自の履修計画に合致する科目（「英語Ⅰ～Ⅳ」のいずれか）のコードを、1つ選択してください。

(エ) 内をすべて記入してください。			
提出年月日 平成 年 月 日		(イ)	
学生番号		フリガナ	氏名
種別コード A1		(ウ)	
曜日	時限	講座コード	講 座 名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
合計 講座 (14講座まで登録できます。)			
<記入例>			
1 火	1 A H 1 1	講 座 名	充当科目コード
		政治学	B 1 1 7 0 0
<small>※書き間違いた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。 ※本欄で他のスクリーリングの受講申込はできません。</small>			
<small>提出締切日：(窓口) 4月19日(火) 教務取扱時間内厳守 [郵送] 4月19日(火) 必着</small>			
事務局使用欄			

《記入例》（講座「英語 C」において「英語Ⅲ」を選択した場合）

講 座 コ ー ド	開講講座名	担当講師名	充 当 科 目	
			科 目 コ ー ド	科 目 名
●●●●	英語 B	○○ ○○	C10100	英語 I
			C10200	英語 II
			C10300	英語 III
			C10400	英語 IV
▲▲▲▲	英語 C	○○ ○○	C10100	英語 I
			C10200	英語 II
			C10300	英語 III
			C10400	英語 IV

(イ)

(ア)

(工)

(ウ)

- (ア) 希望する講座として「英語 C」を選択。
- (イ) 「英語 C」を選択したことによって講座コードは「▲▲▲▲」となる。
- (ウ) その講座で充当する科目として「英語Ⅲ」を選択。
- (工) 「英語Ⅲ」を選択したことによって充当科目コードは「C10300」となる。
- (オ) 「受講届」の記入は、講座コードに「▲▲▲▲」、充当科目コードに「C10300」と記入します。また講座名に「英語 C」と記入します。
- ※「・・・演習」という講座も同様で、例えば「英語学演習」の場合、「英語学演習 I」、「英語学演習 II」及び「英語学演習 III」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語学演習 I～III」のどの科目に充当させるかを「受講届」に記入する充当科目コードによって各自が大学に申告してください。

記入上の注意事項

- 黒のボールペンを使用し、楷書で正確に記入してください。
- 「受講届」提出締切後の追加、変更はできません。
- 記入誤り、記入漏れによる追加変更は一切いたしません。
- 次の場合、大学の判断により事務的な処理にて講座の決定を行いますので、希望講座を受講できない可能性があります。
 - ・乱雑な記入
 - ・記入誤り、記入漏れ
 - ・記入した講座コード、講座名、充当科目コードの不一致

(3) 「受講届」を提出する（提出締切日は表紙を参照）

「受講届」の記入が終わったら、申込内容の控えをとり、「受講届」を教務課に提出してください。提出方法は以下の2通りです。

ア 教務課窓口に直接提出

教務課前に設置のポスト（白色）に投函してください。【提出期限は事務取扱時間内】

イ 郵送で提出する

「受講届」を封筒に入れ、切手貼付の上、郵送してください。【提出締切日必着】

郵送提出においての注意事項

天災や郵便の遅延・未着そのほかの事故については、いかなる配慮も行いません。

「受講届」が教務課に届かなかった場合、受講ができなくなりますので、特定記録郵便・簡易書留・書留を強くお勧めします。

特定記録郵便の場合、大学での受領記録が残りませんので、「スクーリング受講資格審査結果通知書」が届くまで、郵送した際の受領証を必ず保管してください。紛失の場合、郵便追跡確認ができなくなります。

また、リポート等、他の書類と一緒に送付するとその間にはさまってしまい、事故の原因になります。「受講届」は単体で送付してください。

3 受講講座の変更・追加

① 受講講座変更届の作成

用紙で受講講座の変更・追加をする場合は、本誌巻末の「受講講座変更届」を使用し、以下の記入例を参考に作成してください。なお、ポータルサイトを利用することで、変更届を出さずに受講講座の変更・追加が可能です。

※変更・追加のために、複数の「受講届」用紙を使用した場合や他のスクーリングの「受講届」を使用した場合は、正しい申込みが判別不能となり、申込みが「無効」となりますので、決して使用しないでください。

また、変更届はスクーリング毎に用紙を分けてください。

② 記入事項

変更・追加する事項の記入を行うほかに変更前の申込講座の「スクーリング開催期」、「講座コード」、「講座名」及び「充当科目コード」を明記してください。また、学生番号・氏名も忘れずに記入してください。

※記入する講座が2講座以上の場合はコピーして使用してください。

③ 提出先・提出方法

「受講届」提出と同様です。

④ 提出締切

「受講届」提出の締切日と同一（10月5日（金））です。それ以降の変更はできません。

※郵送の場合は受講届の提出と同様に提出締切日までの必着です。

《記入例》

平成 30 年 4 月 19 日								
日本大学通信教育部 御中								
平成 30 年度スクーリング受講講座変更届								
標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ受講講座を下記のとおり変更いたしました。 本書面をもってお願ひいたします。								
記								
(当初の受講講座)								
スクーリング 開講期	講 座 コード	講座名	充当科目 コード					
火曜 1 時限	AH11	政治学	B11700					
火曜 2 時限	AH21	心理学 B	B12100					
火曜 3 時限	AH31	英語 A	C10100					
(変更後の受講講座)								
スクーリング 開講期	講 座 コード	講座名	充当科目 コード					
火曜 1 時限	AH11	政治学	B11700					
火曜 4 時限	AH41	哲学 A	B10700					
火曜 5 時限	AH51	英語 B	C10100					
上記のとおり相違ありません。								
学 生 番 号	2	2	1	7	3	9	9	9
フ リ ガ ナ	ニチ ダイ タ ロウ							
氏 名	日 大 太 郎							
自 宅 電 話 番 号	03-5275-8911							
緊 急 時 電 話 番 号								
提出締切日：〔窓口〕10月5日（金）事務取扱時間内厳守 〔郵送〕10月5日（金）必着								
教務課受付印								

VII 申込講座の許可と不許可

1 受講許可を確認する

申込内容に基づき大学が受講資格審査を行い、その結果を受講資格審査結果通知により通知します。ポータルサイトでの申請者には送付されません。ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて同様の通知をPDFファイルで閲覧できますので、確認してください。

《受講資格審査結果通知書例》

スクリーリング受講資格審査結果
2018年10月19日
スクリーリング種別： 昼間・土曜（後期）
開催地： 東京

講座コード	講座名	担当講師	受講許可	併用	充当科目	充当科目名	単位
AH25	日本史入門	鍋本 由徳	○	×	Q20100	日本史入門	1
リポート未提出							
申込みに不備があった場合に表示されます。2-④の主な不備理由一覧を参照ください。							

受講が許可された場合は、「○」が表示されます。

受講科目的リポートを必要とし、提出している場合、スクリーリング併用試験方式となり、「○」が表示されます。そうでない場合は、「-」が表示されます。

なお、異議のある場合は、教務課（試験係）まで問い合わせてください。
ポータルサイトと受講届（はがき）の両方から申込みがあった場合、「希望日程重複」のメッセージが表示されますが、一方で受講許可が「○」になつていれば問題ありません。

日本大学通信教育部
電話：03-5275-3811
〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28
日大 太郎 様
22173899
(スクリーリング受講資格審査結果通知)

① 充当科目コードの確認

必ず充当科目コード・単位を確認してください。

「充当科目コード」及び「開講単位数」欄に記載された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。

「英語」や「演習」などのように「I, II, III…」の区別のあるものや、科目の名称が類似している科目がありますので、十分注意してください。

スクリーリング併用試験方式で申込みをした科目であっても、単位数はスクリーリング開講単位が記載されています。

② 講座コード・講座名・時間割の確認

必ず講座コード・講座名・時間割を確認してください。

「講座コード」欄に記載された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。受講申込者数により講座が分割されている場合があります。

【主な不備理由一覧】**○履修なし**

受講届のみ提出している場合に表示されます。スクーリングの受講はできません。

○希望日程重複

ポータルサイトと受講届の両方で申込みを行った場合に表示されます。スクーリングの受講は可能です。

○科目修得試験方式確定

科目修得試験にすでに合格している場合に表示されます。スクーリングの受講はできません。

（ポータルサイトから申込む場合、修得済の科目は表示されません）

2 講座振り分け及び受講不許可について

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者が定員を超えた場合、以下の①から④のいずれかで対応させていただきます。

① 超過した人数分の学生を他講師担当の同一科目講座へ振り分ける**② 新たに他講師担当の同一科目講座を増設し、超過した人数分の学生をその講座へ振り分ける**

※①及び②の場合、振り分けられた講座を受講することになります。担当講師、授業内容は振り分けられた講座の内容に変更されますのでご注意ください。

③ 別の講堂にサテライト配信を行う

※ただし、受講者数は減り、1つの講堂に収容可能となった場合、サテライト配信を取り止めることができます。

④ 超過した人数分の学生を受講不許可にする

※希望した講座が受講できることになります。また、新たに代わりの講座を申し込むこともできません。あらかじめご了承ください。

振り分けられた講座の受講を辞退する場合には、「3 許可講座を辞退する」を参照し、辞退手続を行ってください。なお、①及び②についても受講辞退後、新たに代わりの講座を申し込むことはできません。あらかじめご了承ください。

3 許可講座を辞退する

この手続は、振込用紙を受け取った後、やむを得ない理由等により受講許可講座の全部又は一部の受講ができなくなった場合、その講座の辞退を行う手続です。

ただし、この辞退手続はスクーリング受講料等納入前であることが条件となります。スクーリング受講料等納入後に受講辞退の意思表示があったとしても受講料等は一切返還しません。

また、一部辞退を行わないまま、希望する講座を受講しようとした場合、受講申込講座全ての受講料をお支払いいただくことになります。

講座の辞退を行う場合には以下により手続を行ってください。

① 手続書類

以下の(1)及び(2)を教務課試験係まで提出してください。

- (1) 「受講申込辞退願」【各種用紙】
- (2) 振込用紙
- (3) 362円分郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料）を貼付した、長形3号（A4判三つ折の用紙が入る大きさ）の返信用封筒（自己の郵便番号、住所及び氏名を明記）

※(3)は、一部の講座を辞退する場合のみ必要です。

② 手続期限 いかなる場合でも期限後は手続できません。

10月26日（金）《事務取扱時間内必着》

③ 提出先 教務課試験係

事務取扱時間内であれば窓口での提出もできます。

※この手続は他の講座への変更・追加申込みではありませんので注意してください。

三菱UFJ銀行ATMでの振込のお取扱いについて

スクーリング受講料及び年度授業料については、三菱UFJ銀行ATMでのキャッシュカード（振込金額100万円以下）および現金（振込金額10万円以下）による振込が可能となります。

大学から送付された振込用紙を持参し、以下の手順に従い振込を行ってください。

なお、三菱UFJ銀行ATMから納入いただいた場合は振込手数料が無料となります。

ATM利用手数料については、注意事項をご覧ください。

【振込手順】

1. 振込方法の選択

「お振り込み」より、現金またはキャッシュカードを選択し、キャッシュカードの場合は暗証番号を入力してください。

2. 振込先口座の選択・入力

振込用紙に記載の口座情報を選択・入力し、確認してください。

3. お振込金額の入力

今回納入する金額を入力してください。

4. 依頼人番号=管理番号（10桁）の入力

振込用紙に記載の管理番号（10桁）を入力してください。

なお、管理番号（10桁）は振込用紙ごとに毎回異なります。

5. 依頼人名の確認及び振込実行

キャッシュカード名義が学生本人でない場合、学生氏名に変更してください。

6. 明細票の受取

銀行の出納印は不要です。

「明細票」をもって領収書に代えますので、振込用紙とともに、大切に保管してください。

※注意事項

- ①ATM指定時間外（8:45～21:00外）のお手続や、他の金融機関のキャッシュカードによるお手続には「ATM利用手数料」がかかります。
- ②振込用紙に記載の内容を変更しての振込は受け付けられません。
- ③振込内容が複数ある場合は、1件ごとに送金してください。
- ④やむを得ずコンビニATMや三菱UFJ銀行以外の金融機関のATM及びインターネットバンキングを利用する場合は、別途「三菱UFJ銀行以外のATM、各金融機関のインターネットバンキングを利用して振込を行う場合」を参照し、手続きしてください。

【お問い合わせ先】日本大学通信教育部会計課（電話）03-5275-8925

三菱UFJ銀行以外のATM,各金融機関の インターネットバンキングを利用して振込を行う場合

振込用紙を参照の上、以下の内容を入力し、振込してください。

電信扱 (B) 2018年度 昼間・土曜 (前期) 受講料振込依頼書						振込依頼書		
						振替科目		
2. 振込先口座		依頼日	年 月 日	振込指定	電信扱	手数料	手数料	円
		銀行名	ミツビシUFJ 三菱UFJ	ジンボウチョウ 神保町	店番	013	金額	20000
お受取人		預金種目	普通預金	口座番号	0686723	内訳	現金	
		口座名	ニホンダイガクツウシンキヨウイクブ			当店券		
ご依頼人		管理番号	日本大学通信教育部			他店券		
		フリガナ	1800084726			取扱期限厳守		
		氏名	ニチダイ タロウ			納入期限	2018年 6月15日	
		住所	日本 太郎			取扱印または振替印	3. 振込金額	
		電話番号	〒102-8005 東京都千代田区九段南 4-8-28			(取扱銀行保管)		
			03-5275-8925					
(お振込時のお願い) 1. [] の部分は全て打電してください。 2. 納入期限の過ぎたものは受け付しないでください。 3. 金額、納入期限、管理番号、氏名を訂正したものは受け付しないでください。 4. 三菱UFJ銀行本・支店窓口及び三菱UFJ銀行ATMご利用の場合、振込手数料は無料となります。								
132								

1. 依頼人名

学生氏名を入力してください。

その際、管理番号(10桁)を学生氏名の前に入力してください。

なお、「管理番号(10桁)」は振込用紙ごとに毎回異なります。

2. 振込先口座

振込先の口座情報を選択・入力し、確認してください。

3. 振込金額

今回納入する金額を入力してください。

例) 上の振込用紙の内容を振込する場合は、以下のとおり入力することとなります。

依頼人名 : 1800084726ニチダイ タロウ

振込先 : 三菱UFJ銀行 神保町支店 普通 0686723 日本大学通信教育部

振込金額 : 20,000円

※注意事項

- ①銀行の出納印は不要です。振込完了後、ATMから発行される「明細票」(インターネットバンキングの場合は振込完了の画面を印刷したもの)を大切に保管し、受講期間中は学生証と共に常に携帯してください。
- ②振込用紙に記載の内容を変更しての振込は受け付けられません。
- ③振込内容が複数ある場合は、1件ごとに送金してください。
- ④振込に係る手数料は、全て依頼人(学生)の負担となります。

【お問い合わせ先】日本大学通信教育部会計課 (電話) 03-5275-8925

1 使用教材の入手

スクーリングは集中講義形式の授業ですので予習なしでの受講は学修効果が期待できません。受講許可後、本誌のシラバス（教科書、参考書）で使用教材が、『通信教育教材』か『市販教材（市販本）』かを確認の上、以下の要領で教材を入手してください（教科書等の価格・送料はシラバスに記載されています）。

教材入手方法の見分け方は、後掲の「③教材入手方法の見分け方」を参照してください。

注 意 事 項

すでに所持している『通信教育教材』であっても、教材改訂によりシラバスに記載されている「教科書」や「参考書」と異なる場合がありますので、科目名のみによらず、シラバスに掲載されている「教材コード」と所持する『通信教育教材』の教材コードとを照合し、不一致の場合は、教材を入手してください。

なお、教材購入後の変更・取消及び費用の返還はできませんので注意してください。

① 使用教材が『通信教育教材』の場合

通材 印が付されている教材は、本誌「各種用紙」の「教材配本申請書」を使用し配本申請または「教材購入願」を使用し購入してください。既に今回の使用教材を入手している場合は、改めて「教材配本申請書」によって配本申請または「教材購入願」によって購入する必要はありません。教材の送付先は、すべて大学に登録されている各自の住所への発送となります。教材が手元に届くまでは手続完了後、約1週間を要しますので、受講許可を確認した後、速やかに手続きを行ってください。

※本手引掲載の教材価格は平成30年度の教材価格です。

なお、『通信教育教材』について不明な点は、研究事務課（電話 03-5275-8890）にお問い合わせください。

② 使用教材が『市販教材（市販本）』の場合

『市販教材（市販本）』は、一般書店で購入してください。住居地周辺の書店で購入できない場合、**丸沼**印のついている本については、丸沼書店で購入できます。

（書店名）（株）丸沼書店

（所在地）〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-8-12

（電 話）03-3261-4540

（F A X）03-3261-0118

（営業時間）9:00～20:00（日曜日：10:00～19:00）

（購入方法）直接店頭（155ページを参照）で購入のほか以下(1)～(3)の方法で通信販売も可能です。

（1）代金引換払（手数料260円が別途かかります）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、上記あてに郵送又はFAXをしてください。

（2）為替（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額分の定額小為替又は普通為替を同封して上記あてに郵送してください。

（3）現金書留（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額を同封して上記あてに郵送してください。

不明な点は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

『市販教材（市販本）』の価格・送料は『手引』作成時の金額です。改訂等により金額が変わることもあります。あらかじめご了承ください。

③ 教材入手方法の見分け方

※事前資料送付・当日資料配布については、教務課（電話 03-5275-8911）にお問い合わせください。

④ スクーリング受講に伴う六法の携行及び指定の六法

法律系の科目を受講する場合、特にシラバスに記載がなくとも『六法』は必携となりますので、各自用意の上、授業に臨んでください。

通信教育部指定の六法について

スケーリング試験時に参考が許可される『六法』は、次の9種類に限ります。ただし、担当講師から別途指示がある場合は、この限りではありません。

《試験時に参照が許可される六法》

岩波書店『コンパクト六法』,『セレクト六法』,『基本六法』
有斐閣『六法全書』,『ポケット六法』
第一法規『司法試験用六法』,『旧司法試験用六法』,『新司法試験用六法』
三省堂『デイリー六法』

注意事項：

- (1) 上記指定の『六法』に、書き込み等がある物は、参照物として認められません。したがって、『六法』は学修時に使用するものと試験時に使用するものとで別に用意してください。

(2) 判例・解説つきのもの（『六法』付録の小冊子等を含む）は参照物としては認められません。

2 通学定期券の購入手続

通学定期券は、正科生がスクーリング受講を目的として通学する場合に限り購入できます。通学定期券購入の手続き等は、以下のとおりです。

学生証裏面シールへの記入	① 「学生番号」、「氏名」、「現住所」を黒のボールペンで記入してください。 ② 「通学区間」欄に対象区間及び経由（乗り換え駅）を記入してください。また、定期券が2枚に分かれる場合は2行に分けて記入してください。
学生課窓口で記入する所定用紙について	① 通学定期乗車券発行控（全員必要）[本誌巻末 141 ページ参照] ② 通学証明書（都営地下鉄、都電、各路線バス等を利用する場合及び三崎町キャンパスに通学する場合に必要） ③ 滞在先届（スクーリング期間中に現住所以外から通学する場合に限り必要）
対象区間	自宅（又は滞在先）の最寄駅から「通信教育部最寄の駅」までの最短経路
購入手続き	① 上記「通学定期乗車券発行控」を記入の上、学生証持参で事務取扱時間内に学生課窓口にて「経路確認」印の押印を受けてください。 ② 通学定期券取扱駅の窓口にて定期券購入用紙に必要事項を記入し、押印済の学生証を提示することで通学定期券が購入できます。
その他注意事項	① 通学区間が変更となった場合は、学生課に届け出してください。 ② 年度内に学生証裏面シールの「通学定期乗車券発行控」欄が不足となった場合は、学生課へ届け出してください。 ③ 「経路確認」印は、スクーリング期間内に限り有効です。 ④ 科目履修生は対象外です。

【通信教育部最寄り駅】

鉄道会社	最寄駅（市ヶ谷キャンパス）
JR東日本	総武線 市ヶ谷駅
都営地下鉄	新宿線 市ヶ谷駅
東京メトロ	有楽町・南北線 市ヶ谷駅

※最短経路とは所要の時間が最短、交通費が最安、乗換が最少である等の合理的な経路のことといいます。

※途中経路や迂回経路は一切認められません。

注意事項

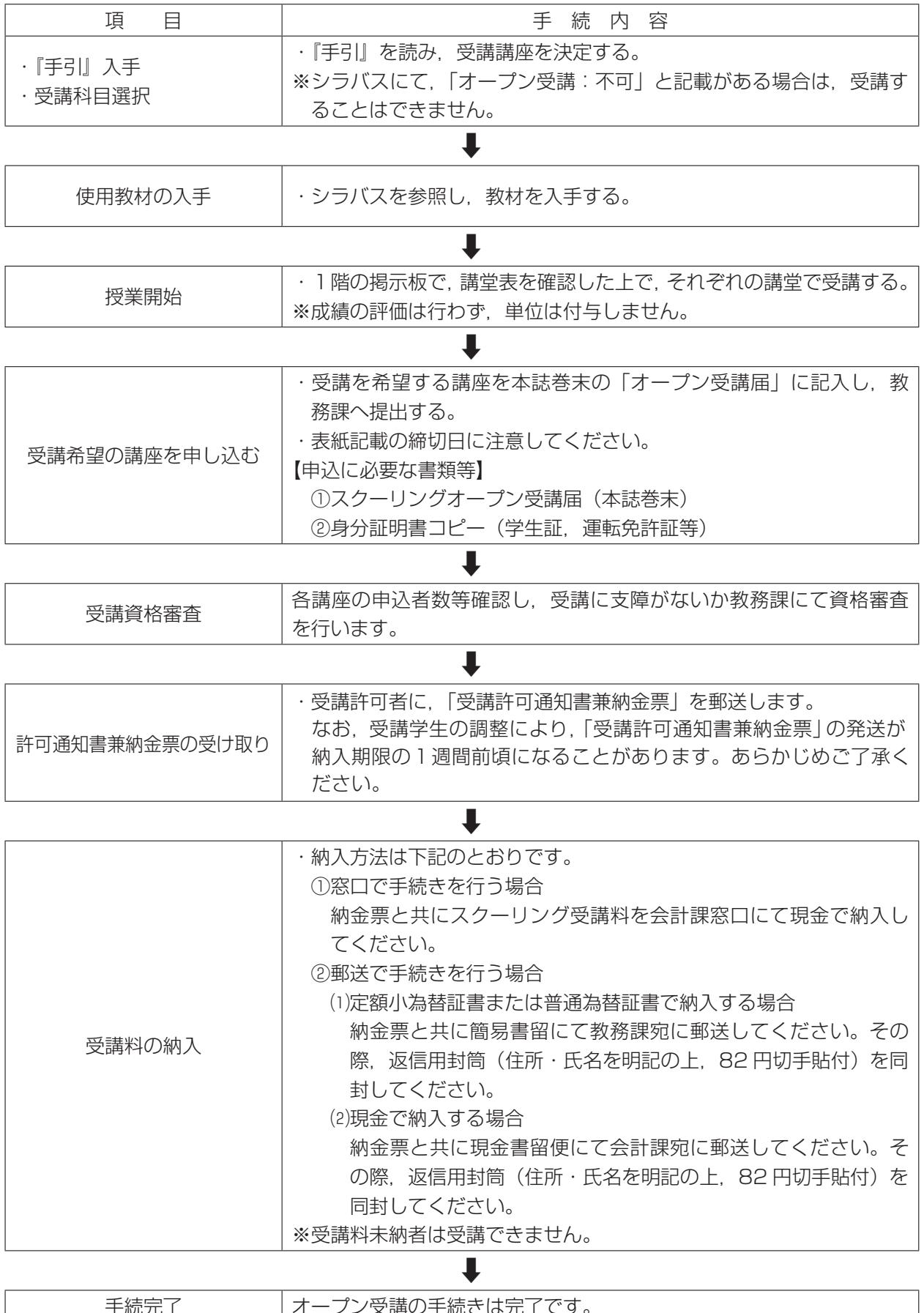
通学定期券を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると、鉄道会社等の営業規則に基づき定期運賃の数倍の罰則金等が科せられます。また、大学自体も通学定期券発行の指定から外され、他の学生に多大な迷惑をかけることになります。不正使用は絶対に行わないでください。

【不正使用の例】

① 通学以外の目的で使用すること。	③ 記名人以外が使用すること。
② 現住所及び通学区間を偽ること。	④ 他人に譲渡・貸与すること。

X オープン受講

通信教育部の在学生で既に修得した科目の受講を希望する場合もしくは社会人等（卒業生を含む）で受講を希望する場合、オープン受講の申込をすることで受講することができます。下記、流れに従い、手続きを行ってください。



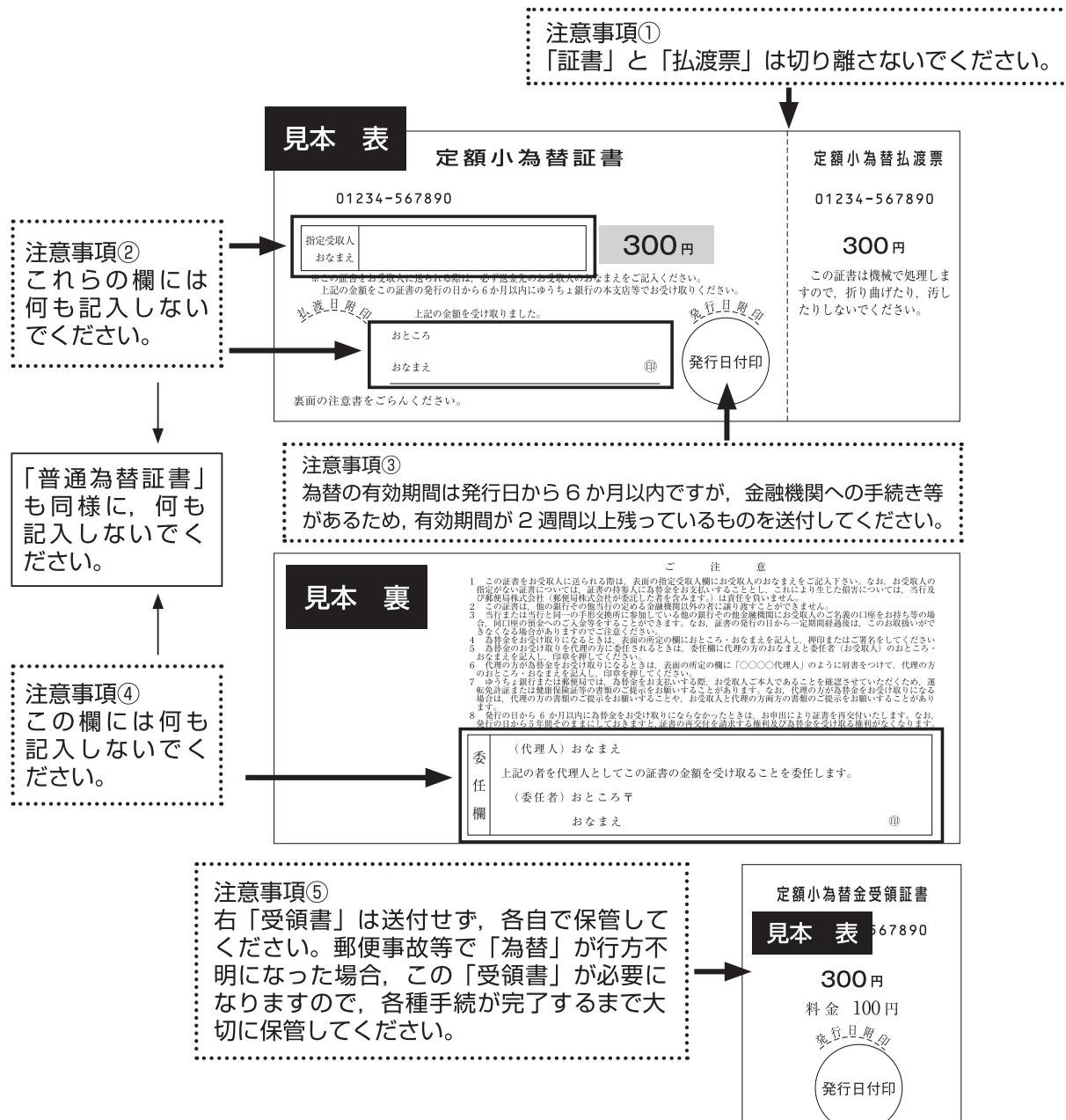
MEMO

- ・履修届
- ・昼間・土曜スクーリング（後期）受講届
- ・オープン受講届（在学生用）
- ・オープン受講届（社会人等（卒業生用））
- ・スクーリング受講講座変更届
- ・受講申込辞退願
- ・教材配本申請書
- ・教材購入用紙（丸沼書店用）
- ・教材購入願（通信教育教材用）
- ・通学定期乗車券発行控

「為替」送付時の注意事項

「証明書交付願」「教材購入願」等の各種手続において、手数料等を郵送にて「定額小為替証書」又は「普通為替証書」で納入する場合には、以下のことに注意してください。

なお、「定額小為替証書」又は「普通為替証書」をゆうちょ銀行又は郵便局窓口で購入する際は、手数料がかかります（詳細は郵便局窓口でご確認ください）。



履修登録年度 平成 年度

届修履

提出年月日	平成 年 月 日
履修登録年度	平成 年度
学生番号	フリガナ
氏名	電話番号
(必ず連絡のとれる電話番号を記入すること)	

科目コード	科 目 名	単位	科 目 コード	科 目 名	単位
1		14			
2		15			
3		16			
4		17			
5		18			
6		19			
7		20			
8		21			
9		22			
10		23			
11		24			
12		25			
13					

年間48単位まで登録できます。

教職生および2学年以上の教職コース登録者は年間60単位まで登録できます。

合計 **単位** →

例入記 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

内をすべて記入してください。

提出年月日

平成 年 月 日

昼間・土曜スクーリング（後期）受講届

学生番号							フリガナ				
							氏名				

種別コード	A2
-------	----

	曜日	時限	講座コード	講 座 名	充当科目コード
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					

合計 講座（14講座まで登録できます。）

<記入例>

	曜日	時限	講座コード	講 座 名	充当科目コード
1	火	1	A H 1 1	政治学	B 1 1 7 0 0

※ 書き損じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。

※ 本票で他のスクーリングの受講申込はできません。

※ 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。

必ず、履修登録を行ってください。

提出締切日： [窓口]10月5日（金）事務取扱時間内厳守

[郵送]10月5日（金）必着

事務局使用欄

平成 年 月 日

スクーリングオープン受講届

下記のとおり、スクーリングのオープン受講を希望します。

学部・学科	学部	学科 専攻 ()
学 年	年	学生番号
フリガナ		
氏 名		

【希望スクーリング】

スクーリング 種 別	開催地	
講 座 名	講座コード	講座名
	講座コード	講座名
受 講 希 望 理 由		

学生証コピー貼付欄

【提出書類】

- スクーリングオープン受講届
- 学生証コピー

事務局使用欄

スクーリングオープン受講届

下記のとおり、スクーリングのオープン受講を希望します。

卒業時 学部・学科	学部	学科 専攻 ()	学 外
住所等	〒 - Tel: - -		
フリガナ			
氏 名			

【希望スクーリング】

スクーリング 種 別		開催地	
講 座 名	講座コード	講座名	
	講座コード	講座名	
受 講 希 望 由			

身分証明書コピー貼付欄

【提出書類】

- スクーリングオープン受講届
- 身分証明書コピー

事務局使用欄

※ 身分証明書として「マイナンバーカード」は、原則として使用できません。不明な点は、確認してください。

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

平成 30 年度スクーリング受講講座変更届

標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ受講講座を下記のとおり変更いたしました。
たく、本書面をもってお願ひいたします。

記

(当初の受講講座)

スクーリング 開講期	講 座 コード	講座名	充当科目 コード

(変更後の受講講座)

スクーリング 開講期	講 座 コード	講座名	充当科目 コード

上記のとおり相違ありません。

学 生 番 号	□ □ □ □ □ □ □ □
フ リ ガ ナ	-----
氏 名	
自 宅 電 話 番 号	
緊 急 時 電 話 番 号	

教務課受付印

提出締切日： [窓口] 10月5日（金）事務取扱時間内厳守
[郵送] 10月5日（金）必着

併せて提出するもの

全講座辞退→振込用紙

一部講座辞退→振込用紙

返信用封筒（長形3号、362円切手貼付）

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

平成30年度昼間・土曜スクーリング（後期）受講申込辞退願

1 学生番号 _____

2 氏名（フリガナ）_____

3 連絡先電話番号 _____ - _____ - _____

- 4 辞退内容 全講座辞退
(□にチェック) ⇒ 振込用紙記載講座すべてを辞退する場合
 一部講座辞退
⇒ 振込用紙記載講座の一部を辞退する場合、辞退講座のみ を
以下へ記入

講座コード	講座名	講座コード	講座名

5 辞退理由（詳述）

※ 提出期限【教務課必着】10月26日（金）※提出期限以降の辞退手続きはできません。

※ 振込用紙と一緒に送付すること。

※ この「辞退願」は「平成30年度昼間・土曜スクーリング（後期）」専用です。他のスクーリングの辞退手続には使用できませんので、各スクーリング専用の「辞退願」を使用してください。

※ 一部講座辞退の場合、362円分の郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料を貼付した長形3号（A4判三つ折の用紙が入る大きさ）の返信用封筒（自分の郵便番号・住所・氏名を明記）を同封すること。

※ 辞退手続は1回しかできません。

教務課受付印	会計課受付印

配本申請（無料）

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先: 研究事務課)

教 材 配 本 申 請 書

学 生 番 号						氏 名	
連絡先電話番号						- - -	

(太線枠内にボールペンで記入してください)

No	教材コード (科目コードではありません)	教 材 名	配 本 単位数
1	0 0		単位
2	0 0		単位
3	0 0		単位
4	0 0		単位
5	0 0		単位
6	0 0		単位
7	0 0		単位
8	0 0		単位
9	0 0		単位
10	0 0		単位
合 計			単位

ポータルサイト「教材発送照会」の「配本申請」から申請できます。
ポータルサイトから申請できない方は、この用紙を使用してください。
※年度内2回まで、計32単位分まで教材の申請ができます。
※科目履修生は申請できません。「教材購入願」にて購入してください。
※消えないボールペンを使用し、記入してください。
※書ききれない場合には、用紙をコピーして2枚用いてください。
※「教材コード」は『教材要綱』『各種スクーリング手引』で確認し、記入してください。「教材コード」と「科目コード」は異なりますので注意してください。
※2冊組教材はセットコードを記入してください。
※スクーリング等で指定する丸沼表記の教材は、対象外です。

事務局使用欄

—「教材配本申請書」,「教材購入願」—

研究事務課

通信教育部教材を入手する場合は、以下のとおり、手続きしてください。

1 教材の入手方法について

通信教育部で扱う教材は、「通信授業」(在宅学修)を目的とした教材です。

一部のスクーリング等で、通信教育教材（**通材**と表記）を使う場合も、対象となります。

通信教育部で扱う教材の入手方法は、2通りあります。

なお、教材コード・販売価格等は『ポータルサイト』・『スクーリングの手引』に掲載されます。

① 「教材配本申請書」による配本（無料）

正科生のみ対象となります。年度内2回まで合計32単位分まで申請できます。

所定の「教材配本申請書」で申請してください。

一度提出した書類の追加・変更はできません。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「配本申請」からも申請できます。

② 「教材購入願」による購入（有料）

教材を有料で購入することができます。

科目履修生の教材入手や、「教材配本申請書」の回数・単位数の上限を超えた場合、その他の理由で教材を入手したい場合には、有料で購入することができます。

教材を購入する場合、「教材購入願」に必要事項を記入し、次の手続により購入してください。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「教材購入」からも用紙を作成・出力できます。

(1) 窓口の場合

会計課窓口にある「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口で手続をしてください。

(2) 郵送の場合

『スクーリングの手引』巻末の「教材購入願」に必要事項を記入し、費用と併せて会計課に郵送してください（「教材購入願」裏面の注意事項を確認してください）。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「教材購入」からも用紙を作成・出力できます。

2 注意事項

- ① 教材は「通信教育教材」に限り購入できます。スクーリング等で指定する市販教材（**丸沼**表記の教材）は、対象外です。
- ② 手続後の変更・取消し、納入金額の返還はできません。
- ③ 印刷教材は、大学登録住所あてに送付します。教材が手元に届くまで約1週間を要しますので、余裕をもって手続をしてください。
- ④ 窓口での教材配本はできません。

丸沼

教材購入用紙(丸沼書店用)

市販教材(市販本) 購入用

※**丸沼**印の教材を郵送にて購入の際は、この用紙で申し込んでください。
詳細は、「使用教材の購入」のページを参照してください。

(送付先) 丸沼書店

平成30年度 昼間・土曜スクーリング			
申込日	平成 30 年 月 日	教材費(税込)	送 料
小計		円	円
合計		円	
購入方法 (いずれかに○)	①代金引換 ②定額小為替・普通為替 ③現金書留		

※下記の住所、氏名の欄は返信用に使用しますのではっきり書いてください。

送 り 先	住 所	〒 -
	氏 名	
	電 話 番 号	()

※この用紙で『通信教育教材』は購入できません。
※不足する場合は複写の上、使用してください。

購入方法は裏面を参照してください。

【購入方法】

(1) ~ (3) の方法で通信販売も可能です。

(1) 代金引換払 (手数料 250 円が別途かかります)

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、下記宛てに郵送又はFAXをしてください。

(2) 為替（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を同封して下記へ郵送してください。

(3) 現金書留（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額を同封して下記へ郵送してください。

不明な場合は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

※送料について

送料は書籍の総重量で変わります。それぞれの書籍の組み合わせにより送料が異なりますので、郵便為替・現金書留の場合、ご注文各書籍の送料の合計をお送りください。余った送料については、返金いたします。また、代金引換払の場合、書籍代+送料（実費）+手数料（250 円）を受取時にお支払いください。

(書 店 名) (株) 丸沼書店
(所 在 地) 〒 101-0061
東京都千代田区神田三崎町 2-8-12
(電 話) 03-3261-4540
(F A X) 03-3261-0118
(営 業 時 間) 9:00 ~ 20:00
(日曜日: 10:00 ~ 19:00)

通材

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先: 会計課)

教材購入願 (通信教育教材用)

学生番号				氏名	フリガナ
連絡先電話番号				- -	
教材コード	科目名			金額	スクーリング種別 講座名
	1 0 0 0				
	2 0 0 0				
	3 0 0 0				
	4 0 0 0				
	5 0 0 0				
	6 0 0 0				
合計科目数			合計金額		
_____			_____ 円		

(太線枠内にボールペンで記入してください)

- ※ボールペンで記入してください。
- ※「教材コード・科目名・金額」は『ポータルサイト』『スクーリングの手引』で確認し、必ず記入してください。
- 「教材コード(6桁)」と「科目コード」は異なりますので、注意してください。
- ※「スクーリング種別・講座名」にはスクーリング・メディア授業において『通信教育教材』を使用する場合にのみ記入してください。
- ※『スクーリングの手引』における各講座の教科書(参考書)欄で指定されているもの、例えば、「**通材**『政治学 B11700』通信教育教材(教材コード 000279)」と記載されている教材を購入する場合は「政治学」を科目名として記入してください(受講科目ではなく指定された教材の科目名を記入)。

会計課領収印

「通信教育教材」の購入について

『通信教育教材』は「配本申請」または「教材購入」で入手できます。
「教材購入」をする場合、「教材購入願」を使用し、以下の手続きにしたがって教材を入手してください。また「教材購入願」で購入できる教材は、『通信教育教材』のみです。
スクーリング等で教科書・参考書に指定された『市販教材（市販本）』は丸沼書店又はお近くの書店で購入してください。

1 購入手続

① 窓口手続

「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口へ提出してください（なるべく釣り銭のないようにしてください）。

② 郵送手続

現金書留又は為替が利用できます。

(1) 現金書留での購入

「教材購入願」と合計金額分の「現金」を現金書留封筒にて会計課あてに送付してください。その際、必ず釣り銭のないようにしてください。

注意：普通郵便の中に現金を封入することは、郵便法によって禁止されています。

また、郵便事故による補償もありませんので、必ず現金書留を利用してください。

(2) 為替での購入

「教材購入願」と合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を会計課あてに送付してください。

注意：郵便事故防止のため、なるべく簡易書留や特定記録郵便を利用して下さい。為替には何も記入せず送付してください。

2 注意事項

① 手続後の変更・取り消しはできません。また、返金もいたしませんので注意してください。

② 教材は大学に登録されている住所へ発送し、窓口ではお渡しません。

教材が手元に届くまでに約1週間要しますので、特にスクーリング、メディア授業で使用する場合は「受講資格審査結果通知」を確認した後、速やかに購入手続きをしてください。

控券定期乗車券発行

所属	学科(専攻)	学年	学年番号
	平成	年	月 日

フリガナ	性別	年齢
氏名	男・女	歳

現住所	—
携帯電話	—

<p>会社線名：_____</p> <p>通学区間</p>	<p>駄～_____ 駄_____</p> <p>駄～_____ 駄_____</p>	<p>駄～_____ 駄_____</p> <p>駄～_____ 駄_____</p>
-------------------------------	---	---

片道1回当たり	円 _____
通学(大学)1箇月定期	円 _____

書約
括言

日本大学通信教育部長 殿

平成30年度スクーリング受講に係る通学定期券の使用について

私は、平成30年度以下のスクーリングを受講する予定で

なお、通学定期乗車券を使用する必要がなくなった場合には、学生課に申し出た上、通学定期乗車券の使用を中止いたしました。

受講スクーリング

屋間・土曜、夜間 (○で囲む) 週回受講 (予定)

学生番号

上以

※現住所：通学区間等に変更が生じた場合は学生課に届けること。学則に上り警戒を行ふ。

※本書記入後は、学生課に提出すること。

XII 付 錄

校舎案内

市ヶ谷キャンパス

【所在地】〒102-8005 東京都千代田区九段南 4-8-28



JR 中央・総武線（各駅停車）市ヶ谷駅下車 徒歩 3 分
都営地下鉄新宿線、東京メトロ有楽町線・南北線
市ヶ谷駅 A2 出口から 徒歩 2 分

丸沼書店案内図



JR 中央・総武線（各駅停車）、都営地下鉄三田線 水道橋駅東口から 徒歩 2 分
都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線 神保町駅 A4 出口から 徒歩 5 分

講座の選定

時間割

（火曜日）
開講講座表
シラバスと使用教材

（水曜日）
開講講座表
シラバスと使用教材

（木曜日）
開講講座表
シラバスと使用教材

（金曜日）
開講講座表
シラバスと使用教材

（土曜日）
開講講座表
シラバスと使用教材

受講及び試験

受講手続

申込と許可の手順

受講料の納入

受講準備

オープン受講

各種用紙

付
録

MEMO

スクーリング手続 チェックシート

このシートは、受講届の記入からスクーリングを受講するまでの確認用です。

チ ェ ッ ク 項 目	参 照
◆受講届の記入	
<input type="checkbox"/> 希望する科目的履修登録は済んでいますか	VII-1 履修登録をする表紙 (③履修登録締切日)
<input type="checkbox"/> 申し込む「受講届」用紙の選択に間違いはありませんか	巻末「受講届」
<input type="checkbox"/> [] 内の必要事項の記入漏れはありませんか (講座コード・講座名・充当科目コード・学生番号・氏名・電話番号)	VII-2 講座を申し込む ◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 講座コード・講座名・充当科目コードは一致していますか	◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 希望科目的受講条件は満たしていますか (配当学年・適用カリキュラム・その他受講条件)	IV-1 「開講講座表」の見方 ◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 申し込む開講曜日、開講时限は間違って記入していませんか	◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 修得済科目を申し込んでいませんか	・単位照合票 ・単位修得状況確認 (ポータルサイト)
◆受講届の提出	
<input type="checkbox"/> 提出締切日に間に合いますか (郵送の場合は締切日必着)	表紙 (③受講届申込締切日) VI-2 講座を申し込む
<input type="checkbox"/> 〈推奨〉 申込内容の控えはありますか (受講届のコピー)	
<input type="checkbox"/> 申込完了のメールは届いていますか(ポータルサイトからの申込の場合のみ)	
<input type="checkbox"/> 〈推奨〉 特定記録郵便で発送しましたか	VI-2 講座を申し込む
◆受講料の納入	
<input type="checkbox"/> ポータルサイト「スクーリング・メディア情報一覧」又は、受講資格審査結果通知の内容と振込用紙の内容に間違いはありませんか	VII-1 受講許可を確認する
<input type="checkbox"/> 受講料の納入期限は厳守していますか	VII 受講料等の納入



各種連絡先

- | | |
|---------------------------------------|---|
| ○スクーリングの手続等に関する事項
教務課 03-5275-8911 | ○各種学修相談に関する事項
学修支援センター 03-5275-8857 |
| ○受講料の振込に関する事項
会計課 03-5275-8925 | ○通学定期・学割・滞在先届に関する事項
学生課 03-5275-8921 |
| ○教材（教科書）に関する事項
研究事務課 03-5275-8890 | |

DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY

編集兼発行人 関 正晴 〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部